第49回県政世論調査結果報告書

令和8年7月実施

岐阜県

目　　次

Ⅰ　調査概要 1

１．１　調査の目的 1
１．２　調査の経緯 1
１．３　調査項目 1
１．４　調査の設計 1
１．５　回収結果 1
１．６　標本誤差 2
１．７　報告書の見方 2
１．８　対象者の属性 3

Ⅱ　調査結果 8

２．１　くらしについて 8
問１　くらしの前年比較 8
問１－２　くらしが苦しくなったと感じる理由 13
問２　くらしの満足度 19
問３　生活面での不安 24
問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと 33
問５　生活に必要な情報の入手媒体 42
問６　現在住んでいる地域は住みやすいか 49
問６－２　住んでいる地域が住みやすいと感じる点 53
問６－３　住んでいる地域が住みにくいと感じる点 60
問７　今後も岐阜県に住み続けたいか 67
２．２　県の取組み全般について 71
問８　施策や事業についての情報の入手方法 71
問９　県事業への関心の有無 78
問９－２　県事業に関心がない理由 83
問１０　県の取組でよくやっていると思う分野、
努力が足りないと思う分野 87
問１１　重点的に進めるべきだと思う分野 101

Ⅰ　調査概要

１．１　調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

１．２　調査の経緯

昭和４２年から実施、今回４９回目

※昭和 42 年～昭和 61 年：毎年実施　　昭和 63 年～平成 18 年：隔年実施　平成 20 年～：毎年実施

１．３　調査項目

（１）くらしについて
（２）県の取組み全般について

１．４　調査の設計

（１）調査地域　　岐阜県全域
（２）調査対象　　県内に居住する満１８歳以上の男女個人
（３）標本数　　３，０００人
（４）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　郵送法・オンライン調査法の併用
（６）調査時期　　令和８年７月１日～７月２４日
（７）調査実施機関　　株式会社中部タイム・エージェント

１．５　回収結果

	調査時期	標本数 （A）	回収数 （B）	有効回答数 （C）	回収率 （B／A）	有効回答率 （C／A）	有効回答数のうちオンライン回答数・割合
第４９回 （令和８年度）	令和８年 ７月	3,000	1,767	1,766	５８．９%	５８．９%	６６１ ３７．４%
第４８回 （令和７年度）	令和７年 ６月～７月	3,000	1,644	1,644	５４．８%	５４．８%	６１７ ３７．５%
第４７回 （令和６年度）	令和６年 ７月	3,000	1,699	1,699	５６．６%	５６．６%	４５８ ２７．０%

１．６　標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$標本誤差＝\pm 1.96\sqrt{\frac{P\ (100-P)}{n}}$$　　（ただし、P：回答比率　n：回答者数）

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数（n）及び②回答比率（P）によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P（回答比率　%）									
n（回答者数　人）		5 又は 95	10 又は 90	15 又は 85	20 又は 80	25 又は 75	30 又は 70	35 又は 65	40 又は 60	45 又は 55	50
総数	1,766	1.0	1.4	1.7	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.3	2.3

（注）1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,766 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.3%である。」

１．７　報告書の見方

（１）比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。

（２）基数となるべき実数は「n」（件数）として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。

（３）複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。

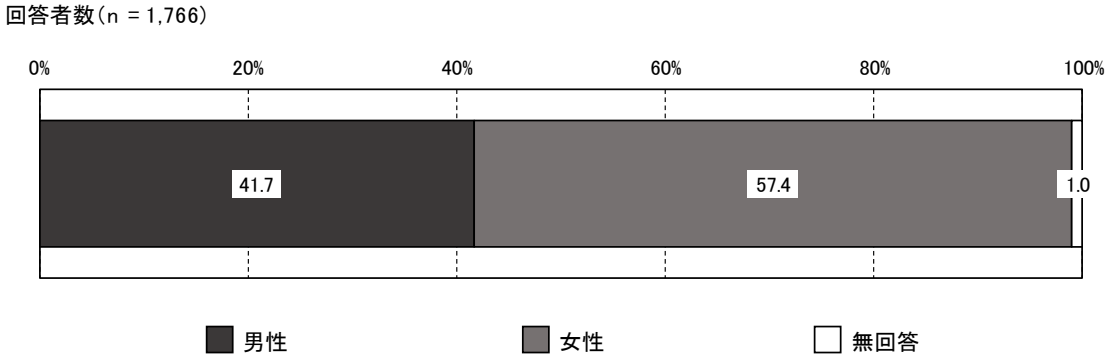
（４）本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。

（５）クロス集計において、年代別の１８～１９歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことから、グラフへの表示及び分析を行っていない。

１．８　対象者の属性

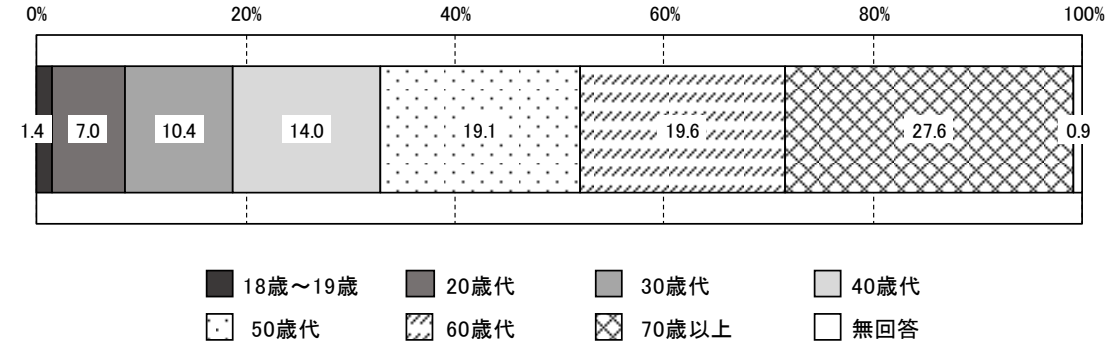
Ｆ－１　性別

図 F-1　性別



Ｆ－２　年代

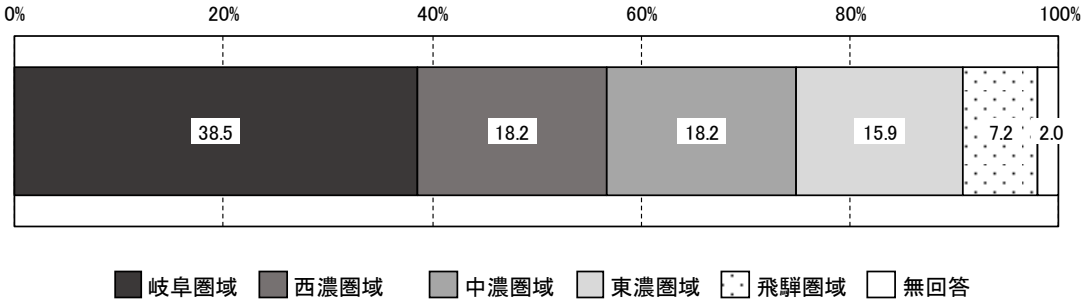
図 F-2　年代



Ｆ－３　居住圏域（５分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数（n = 1,766）

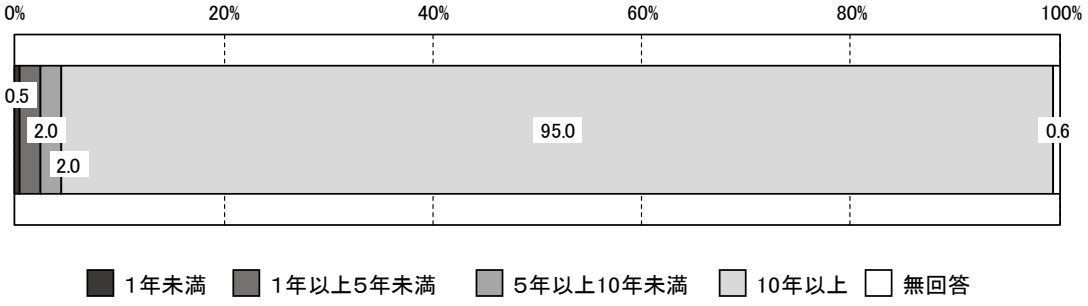


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ケ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）
中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

Ｆ－４　居住年数

図 F-4 居住年数

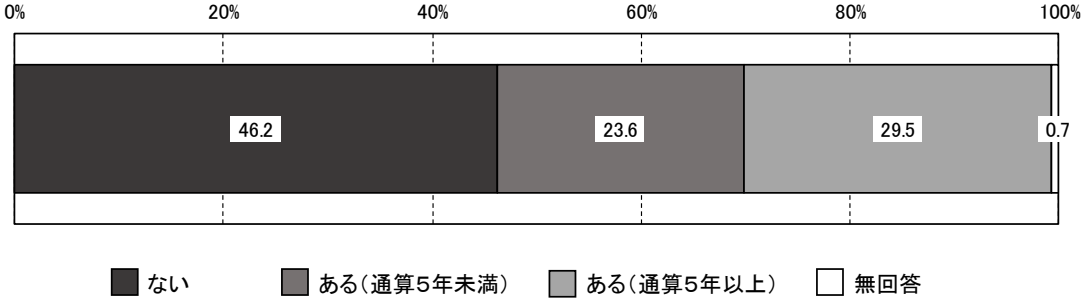
回答者数（n = 1,766）



Ｆ－５　県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

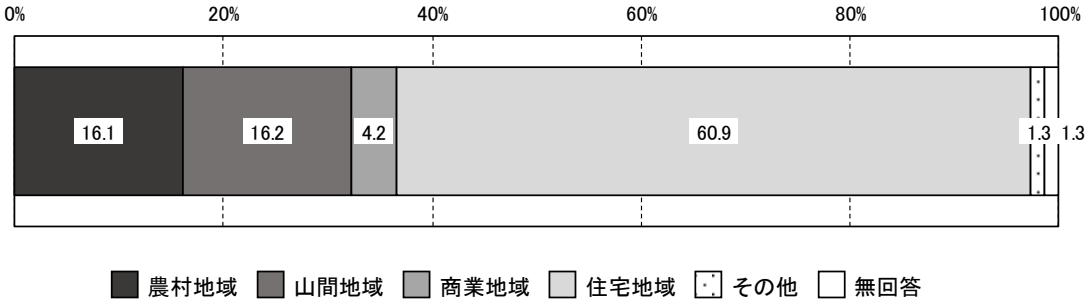
回答者数（n = 1,766）



Ｆ－６　居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

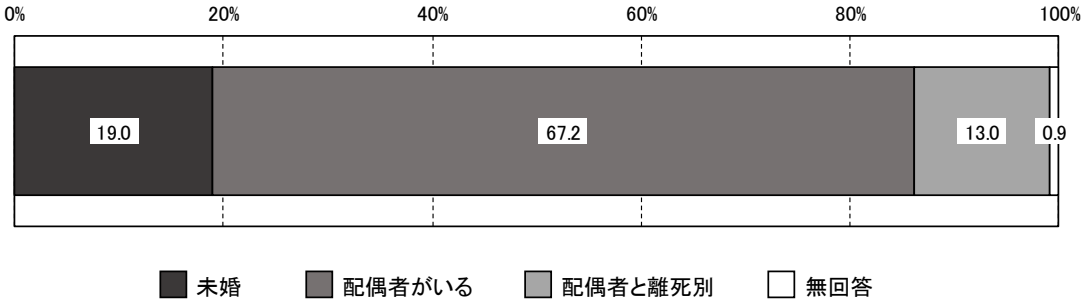
回答者数（n = 1,766）



Ｆ－７　配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

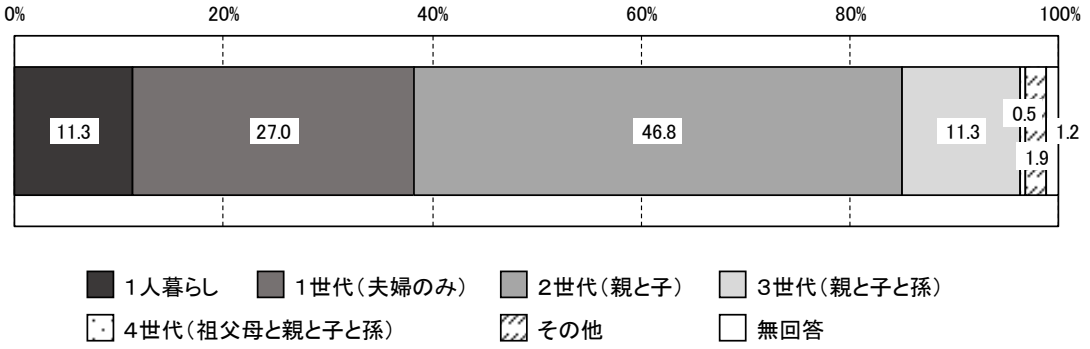
回答者数（n = 1,766）



Ｆ－８　家族形態

図 F-8 家族形態

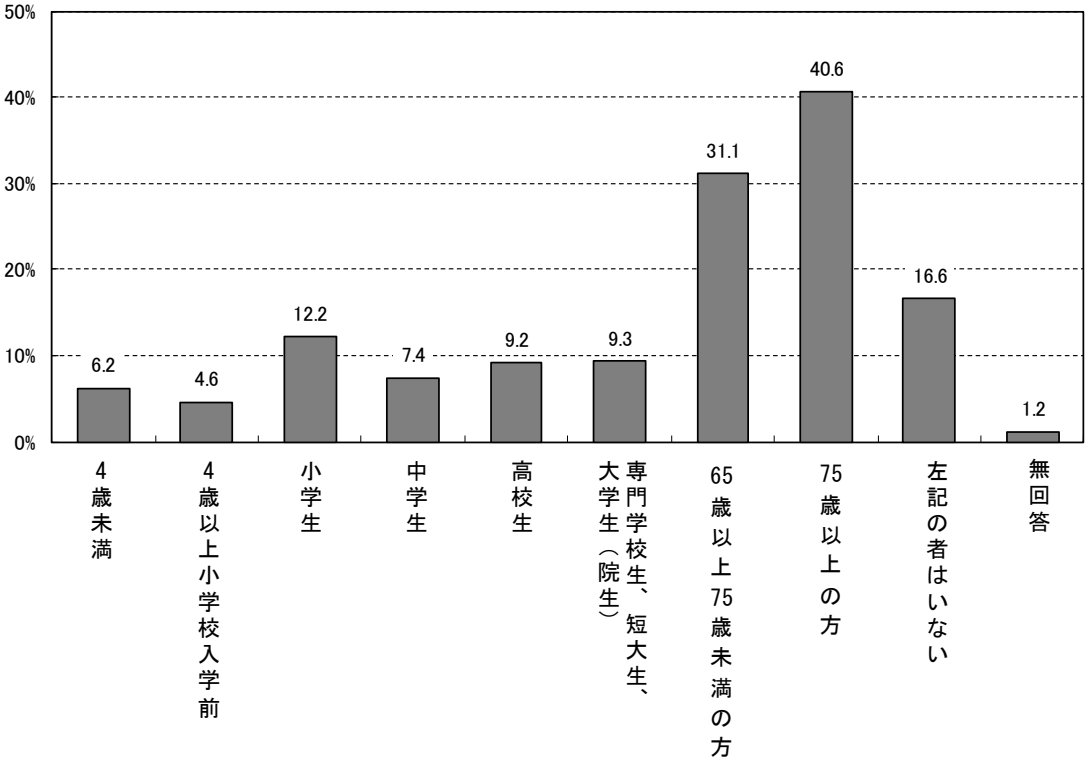
回答者数（n = 1,766）



Ｆ－９　家族構成

図 F-9 家族構成

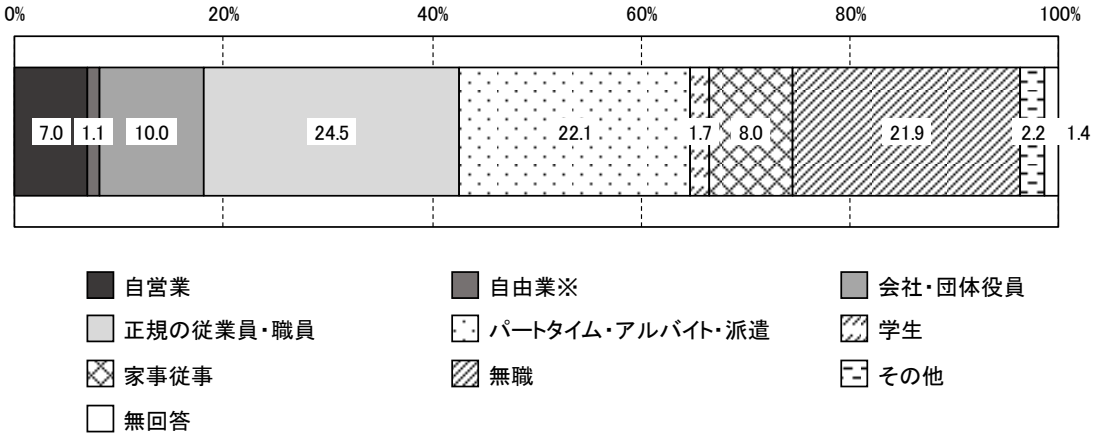
回答者数（n = 1,766）
総回答数（N = 2,446）



Ｆ－１０　職業

図 F-10 職業

回答者数（n = 1,766）

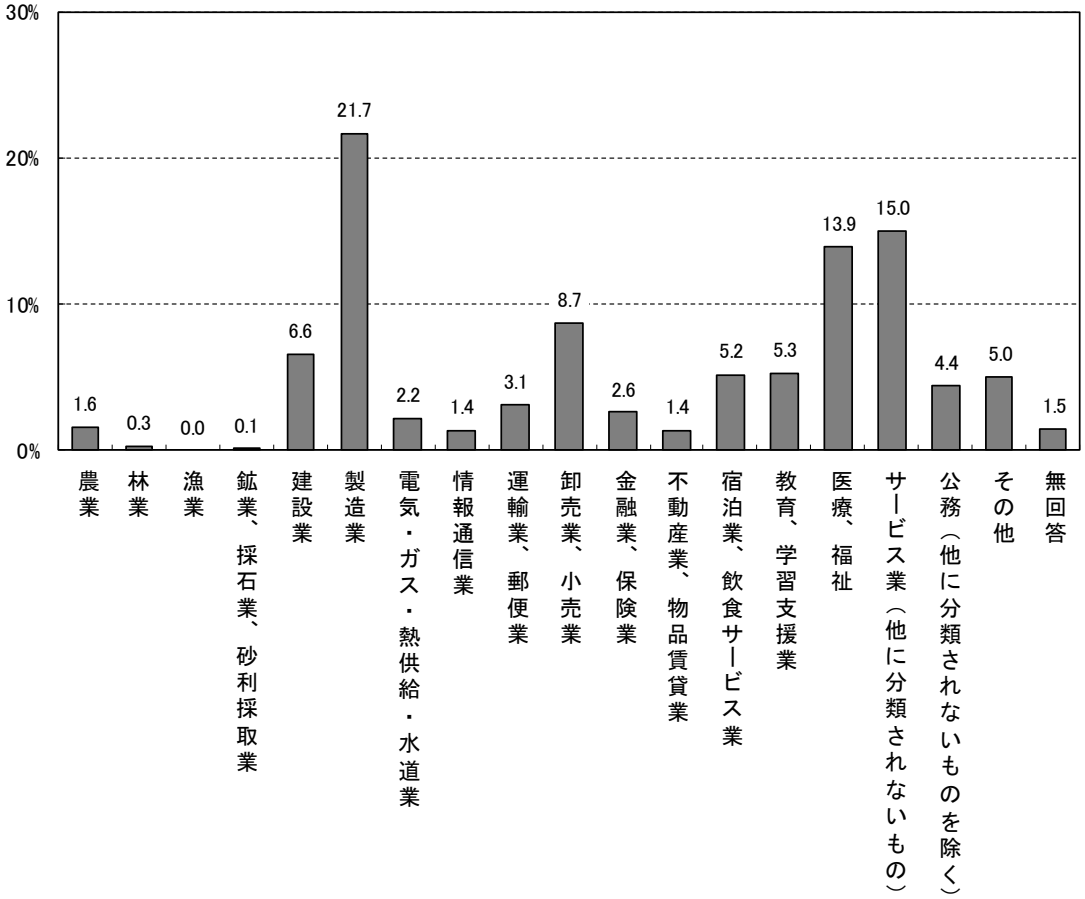


※　自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

Ｆ－１１　業種

図 F－11　業種

回答者数（n = 1,143）※

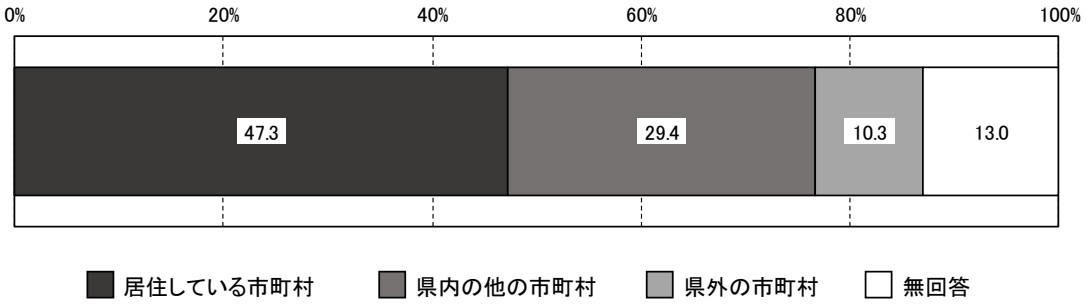


※「F-10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

Ｆ－１２　通勤、通学先

図 F-12　通勤、通学先

回答者数（n = 1,173）※



※「F-10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

Ⅱ　調査結果

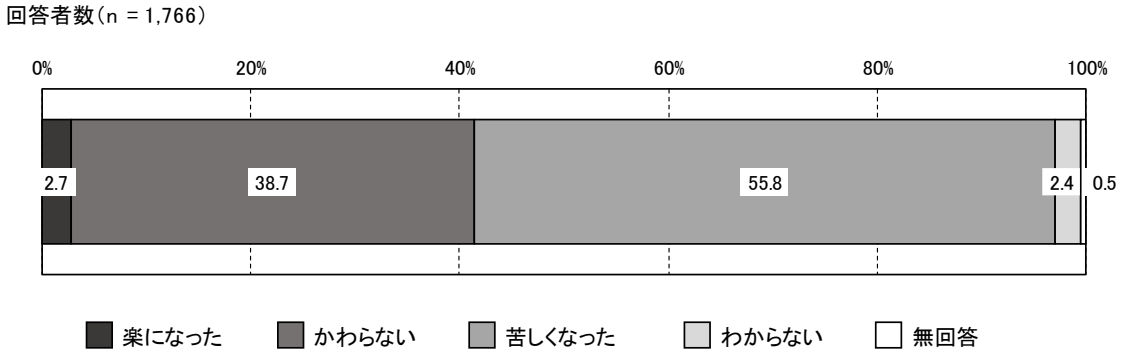
2．1　くらしについて

問1　くらしの前年比較

問１　あなたやあなたの家庭のくらし向き（家計など）は、去年の今頃と比べてどうですか。（１つだけ）

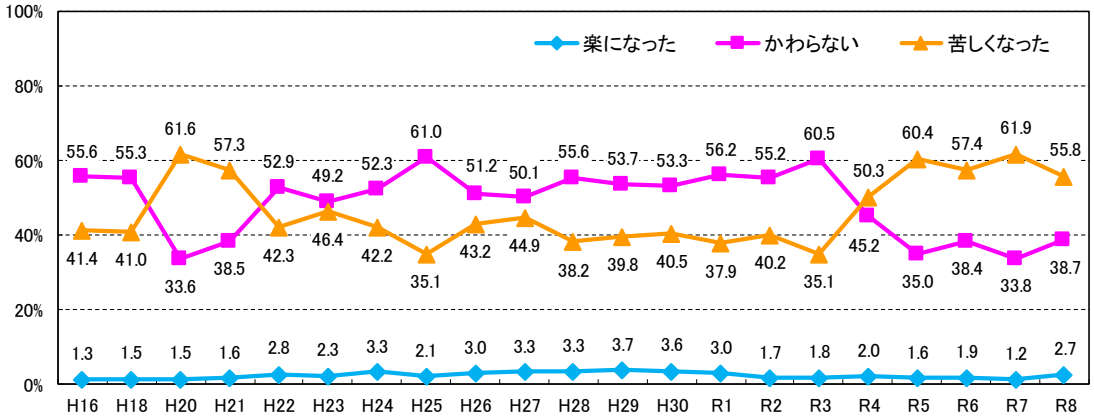
全体（図 1-1）でみると、「苦しくなった」が 55.8%と最も高く、次いで「かわらない」(38.7%)、「楽になった」(2.7%)、「わからない」(2.4%) の順となっている。

図 1-1　くらしの前年比較



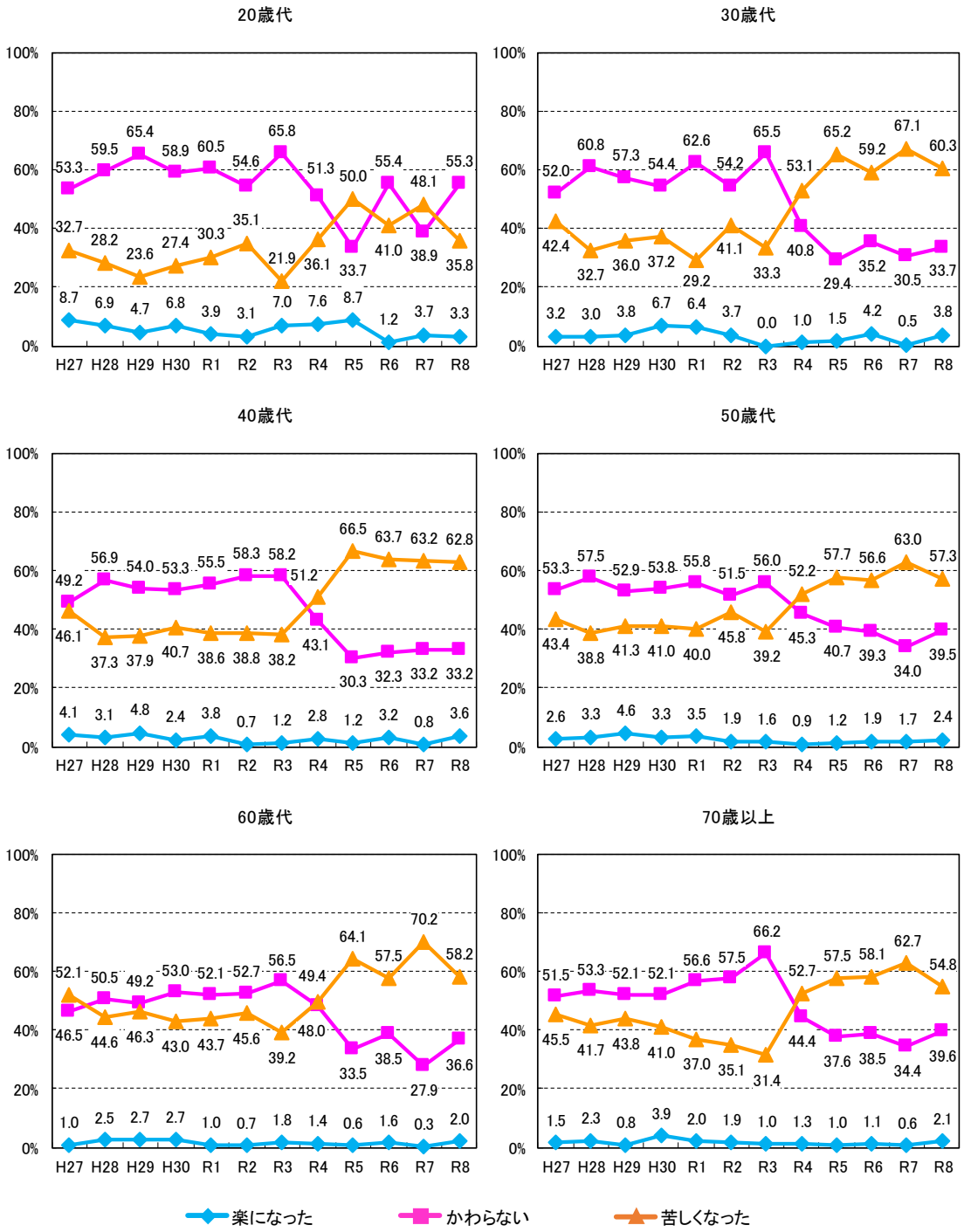
経年変化（図 1-2）でみると、平成 22 年から令和 3 年までは一貫して「かわらない」が最も高くなっていたが、令和 4 年から「苦しくなった」が「かわらない」を上回った。令和 8 年では、前年に比べて「苦しくなった」が 6.1 ポイント減少している。

図 1-2 【経年変化】くらしの前年比較



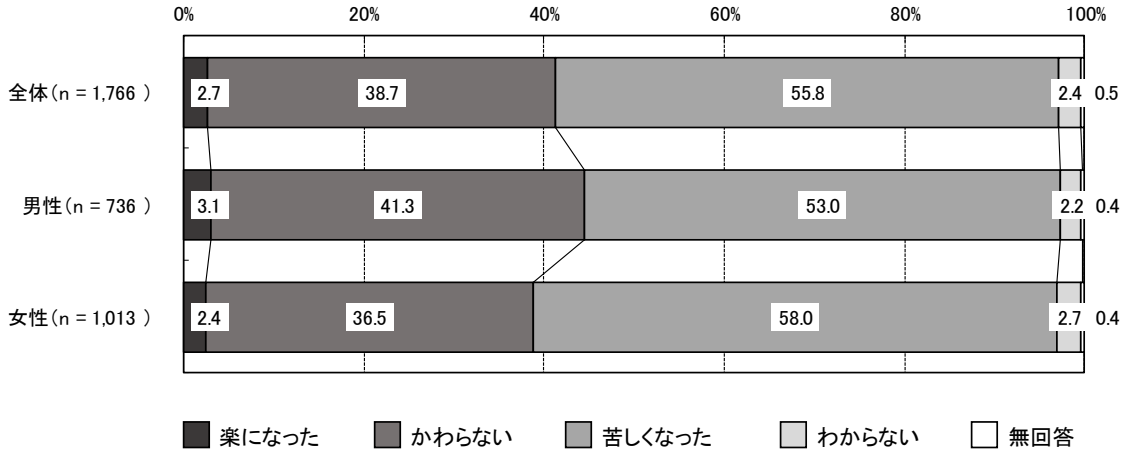
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、令和 4 年以降、20 歳代を除くいずれの年代においても「苦しくなった」が「かわらない」を上回っている。令和 8 年では、20 歳代で前年に比べて「苦しくなった」が 12.3 ポイント減少し、「かわらない」と入れ替わった。

図 1-3 【経年変化（年代別）】 くらしの前年比較



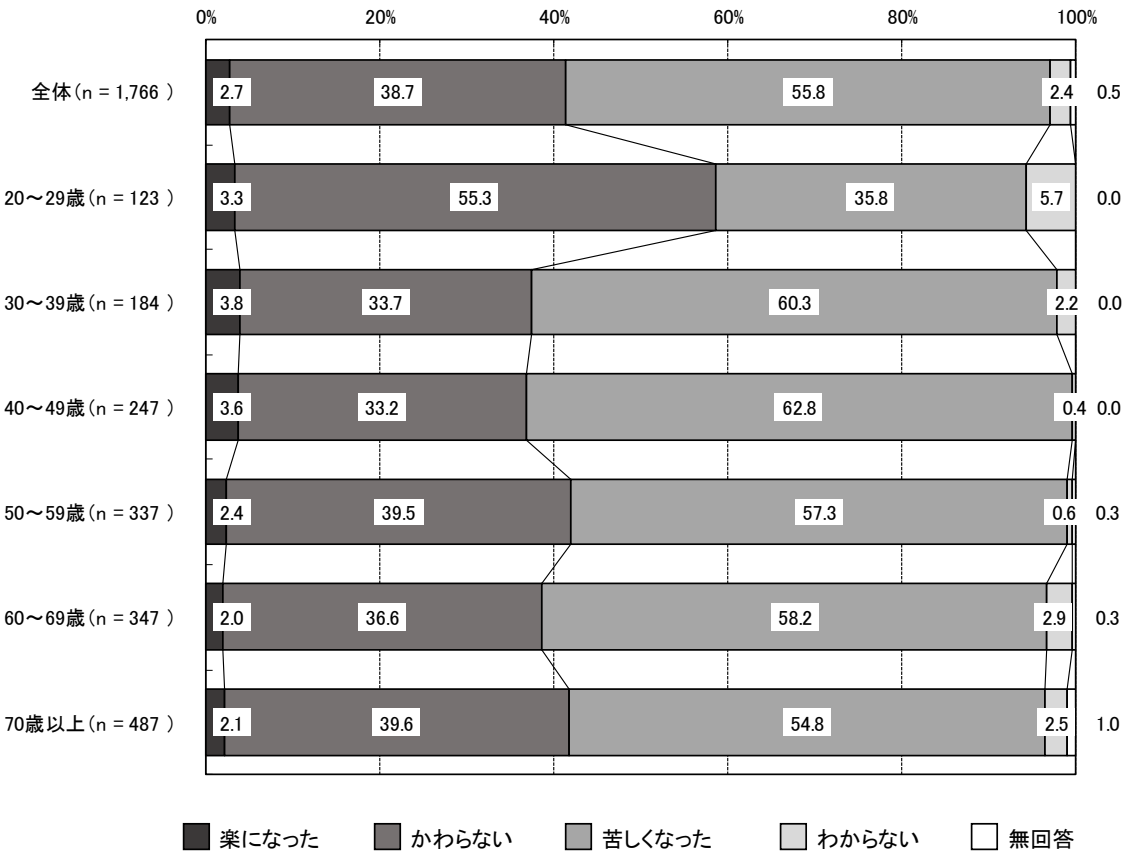
性別（図 1-4）でみると、男女ともに「苦しくなった」が最も高く、男性が 53.0%、女性が 58.0%となっており、女性が男性より 5.0 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



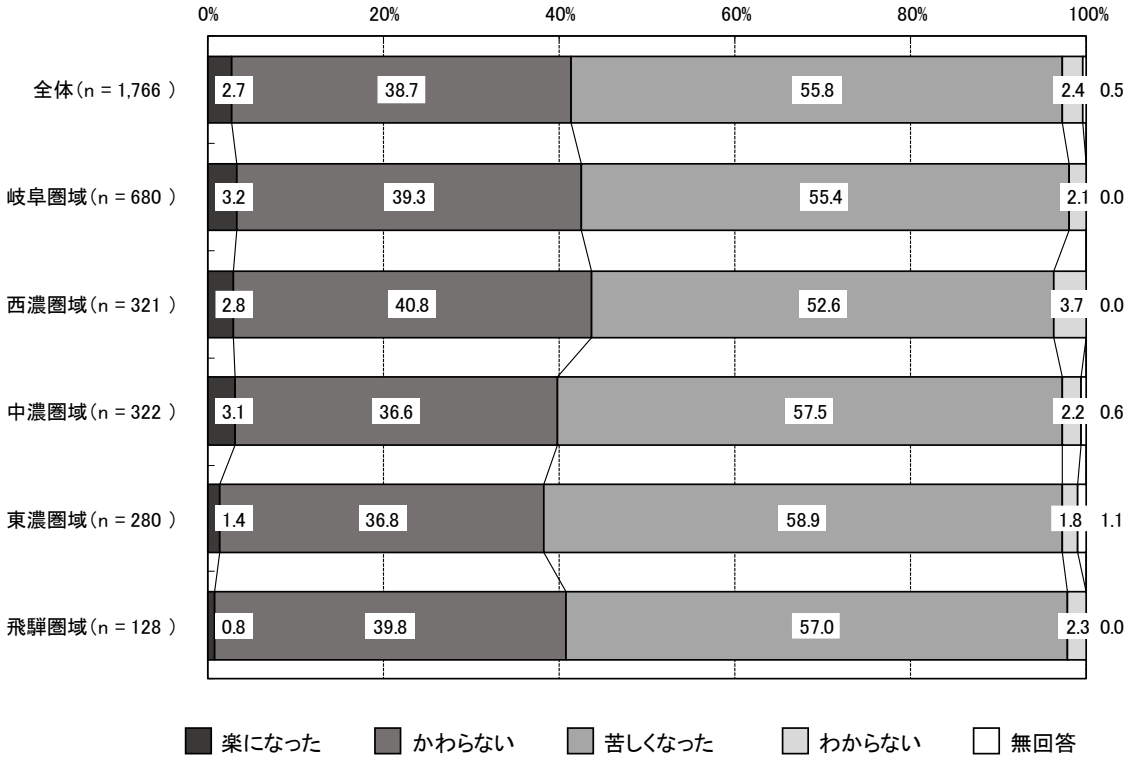
年代別（図 1-5）でみると、20 歳代を除くいずれの年代においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち 40 歳代が 62.8%と最も高くなっている。20 歳代では「かわらない」が最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



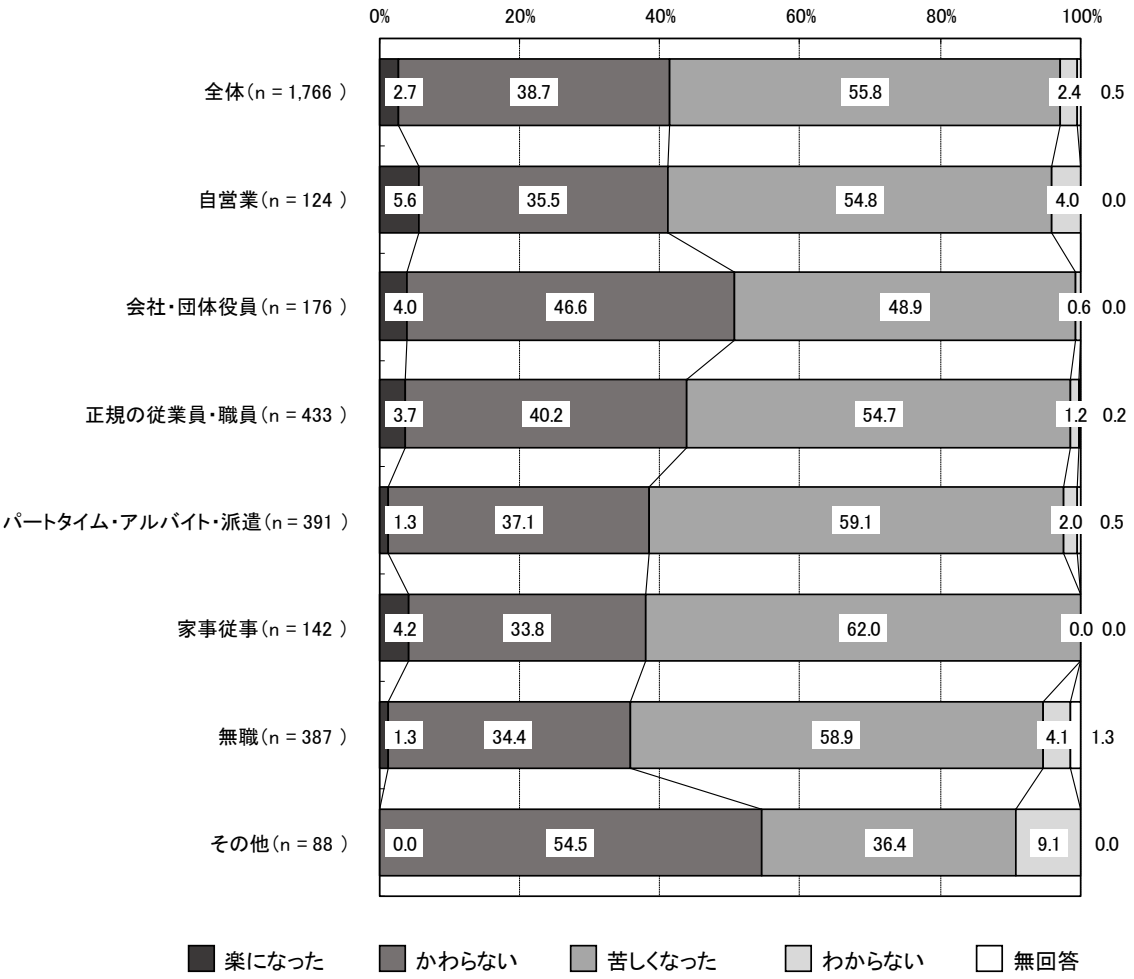
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの居住圏域においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち東濃圏域が 58.9%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）でみると、その他を除くいずれの職業においても「苦しくなった」が最も高く、家事従事では 62.0%と最も高くなっている。その他では「かわらない」が最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



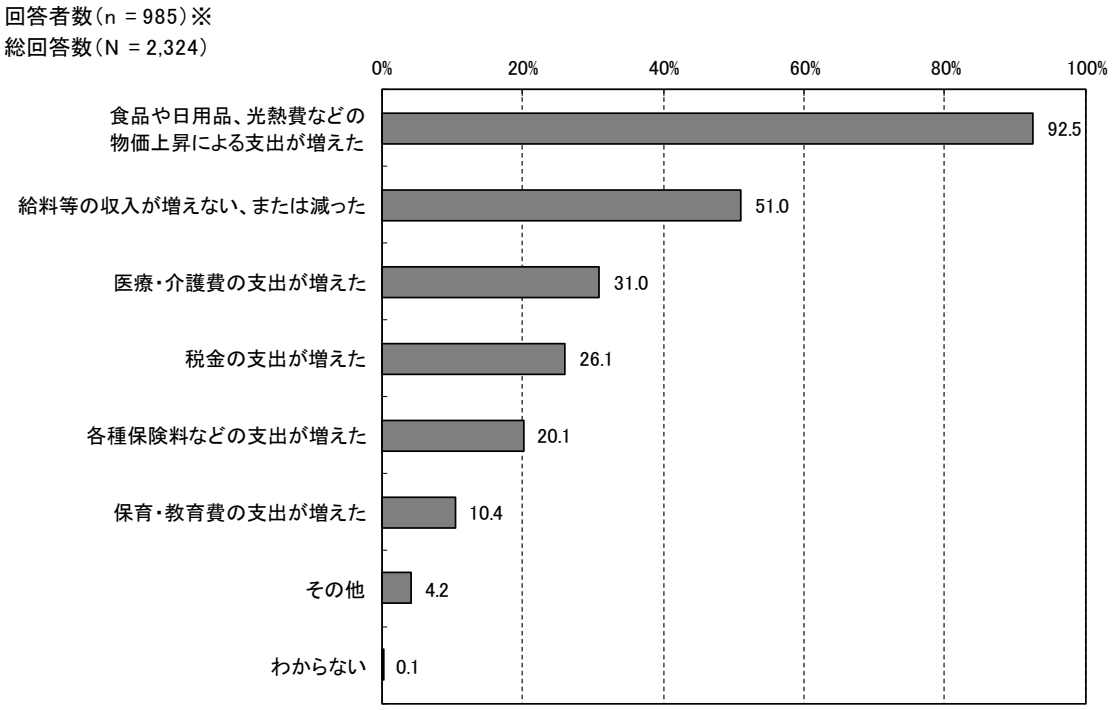
※ その他には、自由業、学生を含む。

問１－２　くらしが苦しくなったと感じる理由

問１－２　「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。 あなたが、くらしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。 （３つまで）

全体（図 1-2-1）でみると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が 92.5%と最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」(51.0%)、「医療・介護費の支出が増えた」(31.0%) の順となっている。

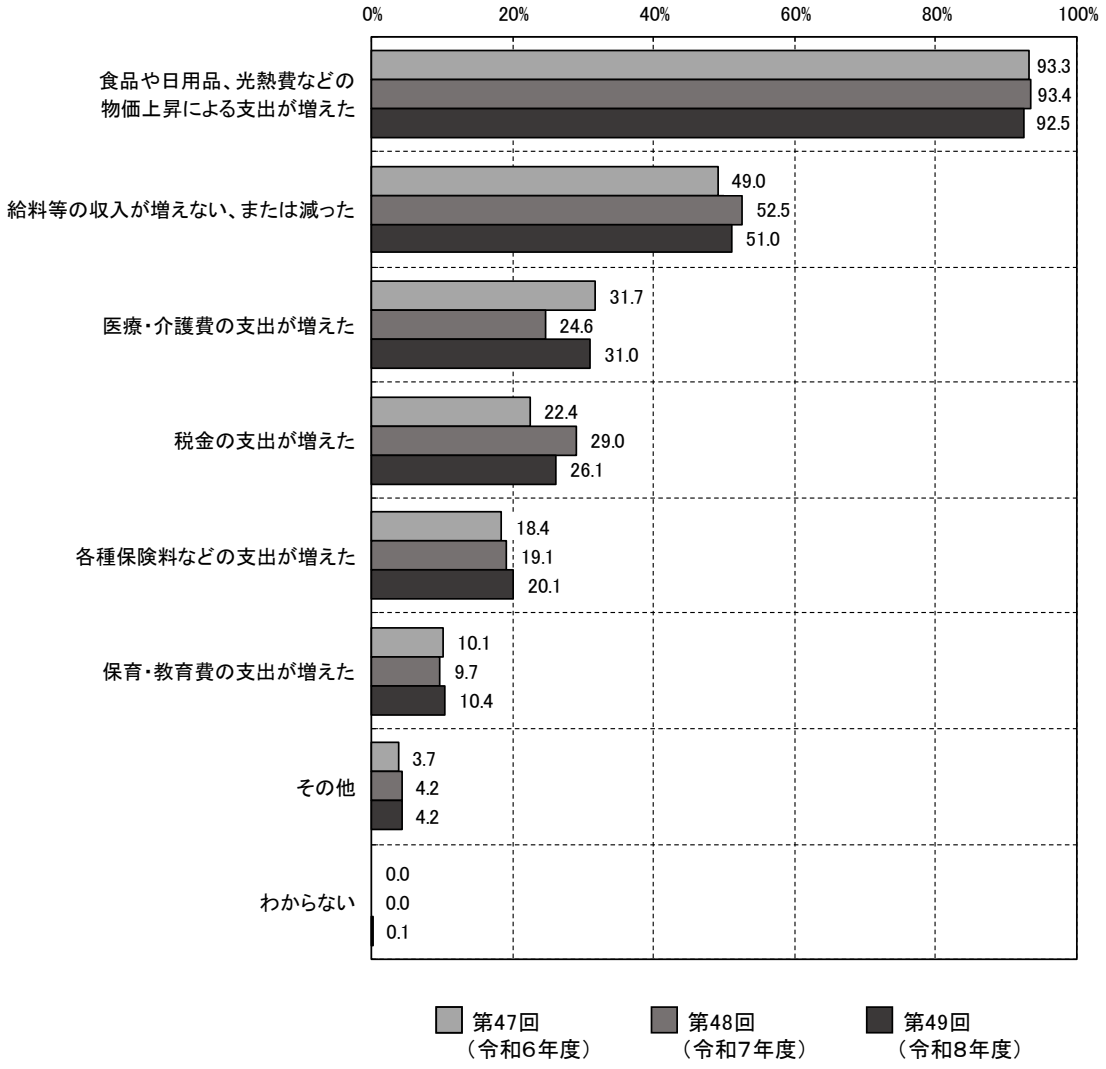
図 1-2-1 くらしが苦しくなったと感じる理由



※ 問 1 で「苦しくなった」と答えた方のみ

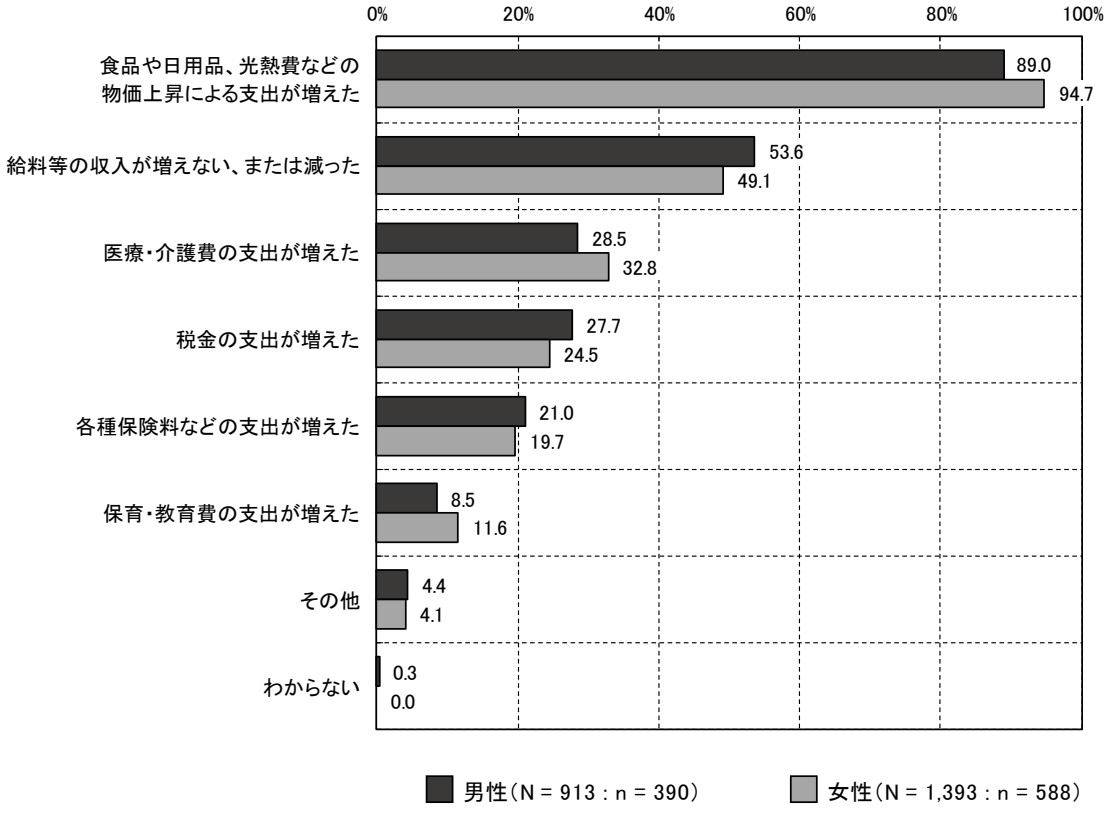
前々回・前回比較（図 1-2-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。また、「医療・介護費の支出が増えた」は、前回に比べて 6.4 ポイント増加している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】 くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、男性が 89.0%、女性が 94.7%と女性が男性より 5.7 ポイント高くなっている。「給料等の収入が増えない、または減った」では、男性が女性よりも 4.5 ポイント高くなっている。

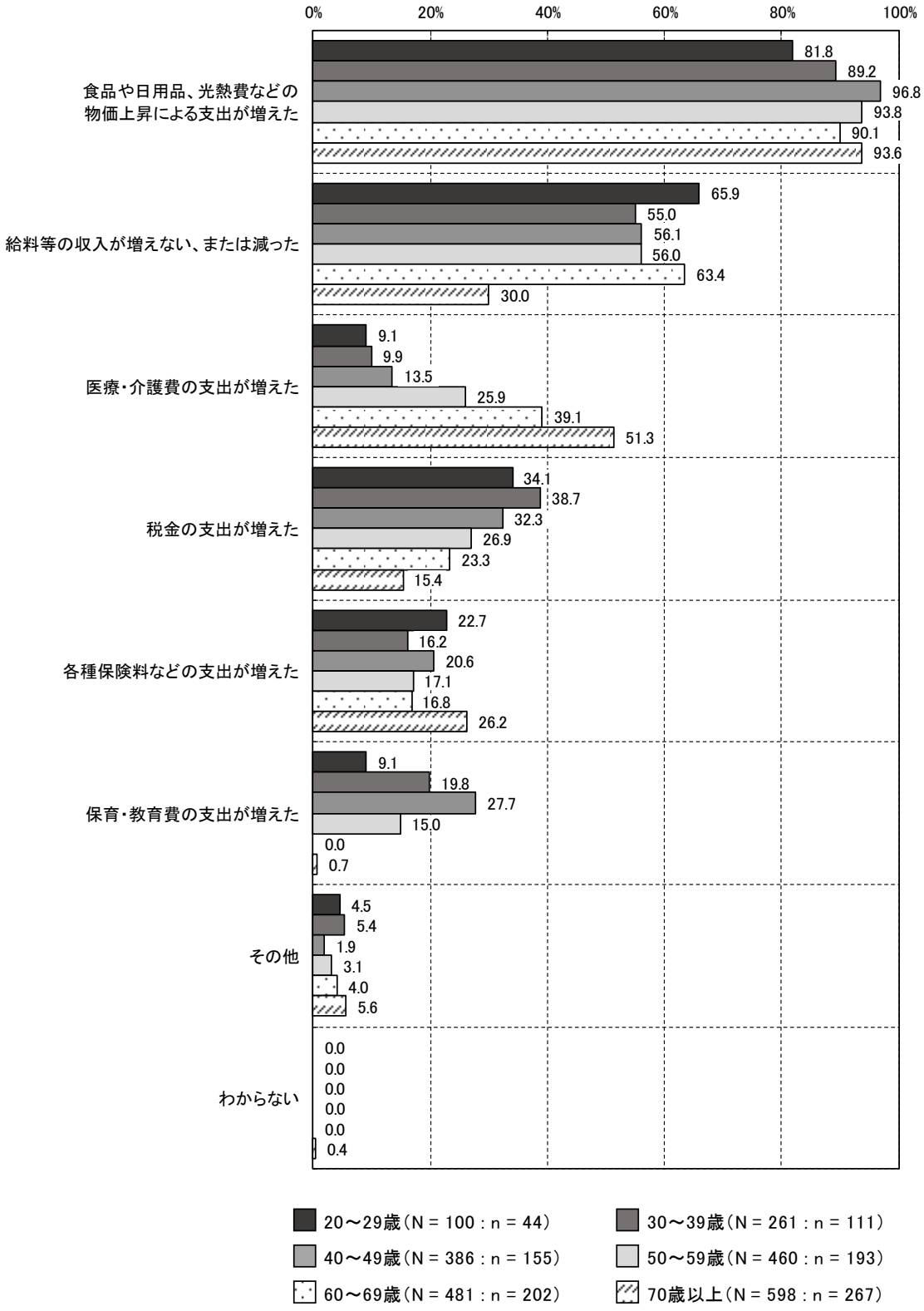
図 1-2-3 【性別】 くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、いずれの年代においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。また、30 歳代では「税金の支出が増えた」が、40 歳代では「保育・教育費の支出が増えた」が、70 歳以上では「医療・介護費の支出が増えた」が他の年代に比べて高くなっている。

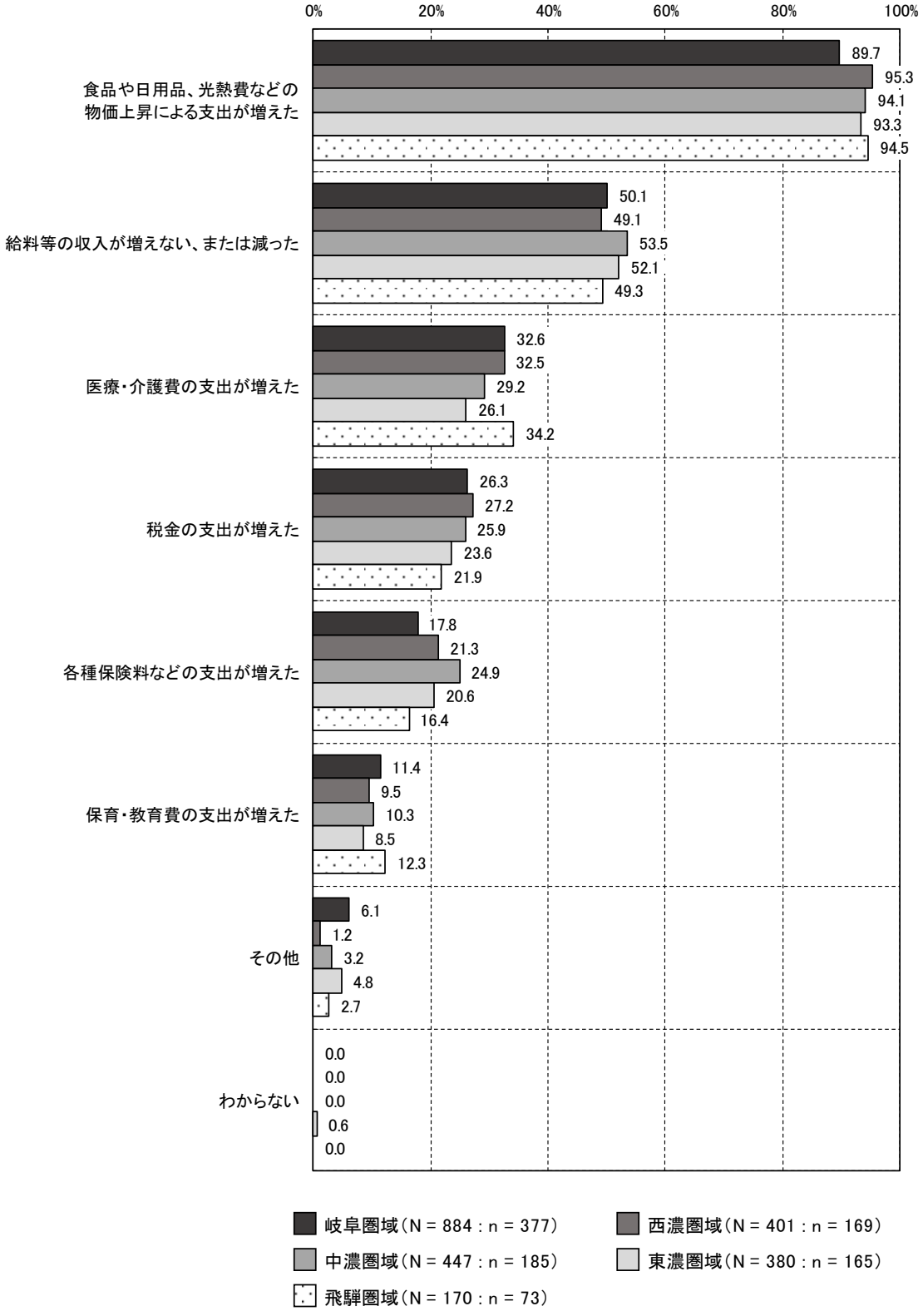
図 1-2-4 【年代別】 くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」の順となっている。

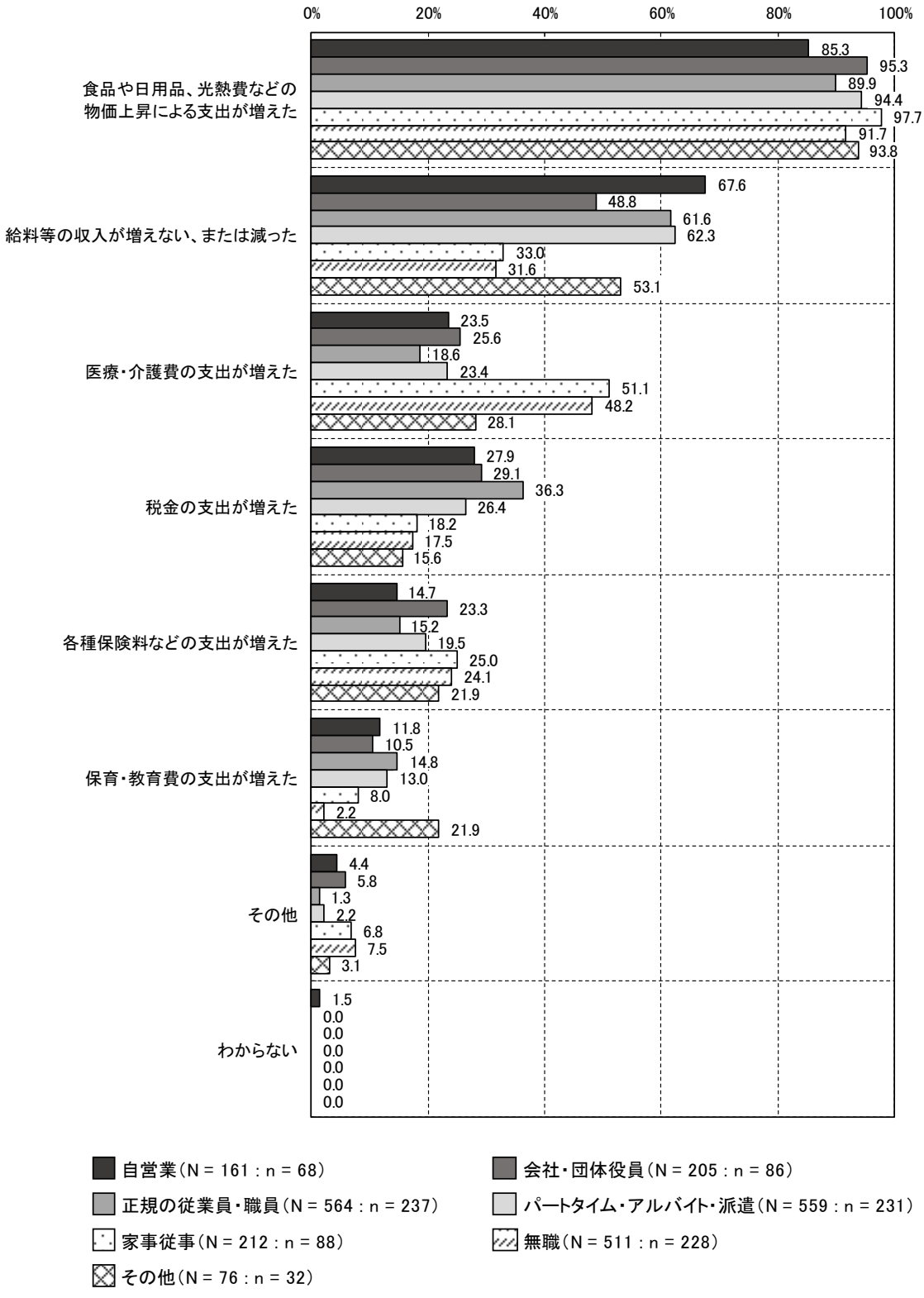
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、いずれの職業においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。自営業では「給料等の収入が増えない、または減った」が他の職業に比べて高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】 くらしが苦しくなったと感じる理由



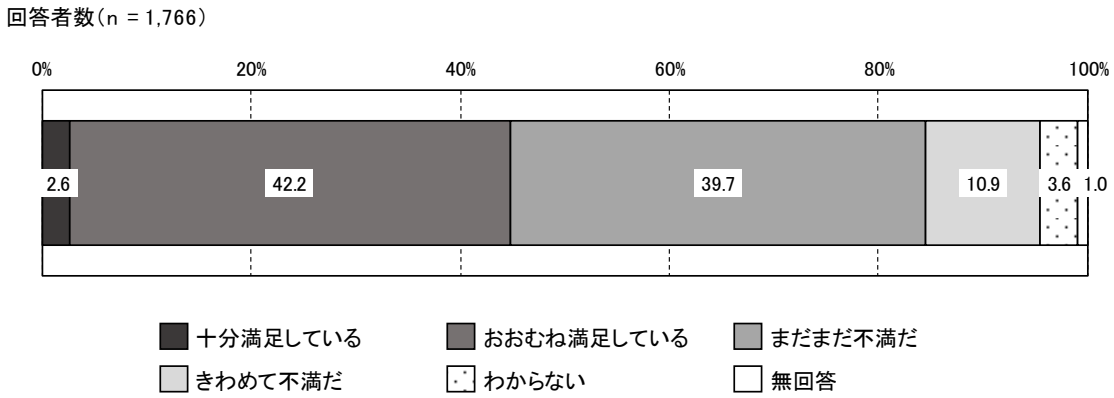
※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問２　くらしの満足度

問２　あなたは、現在のくらし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（１つだけ）

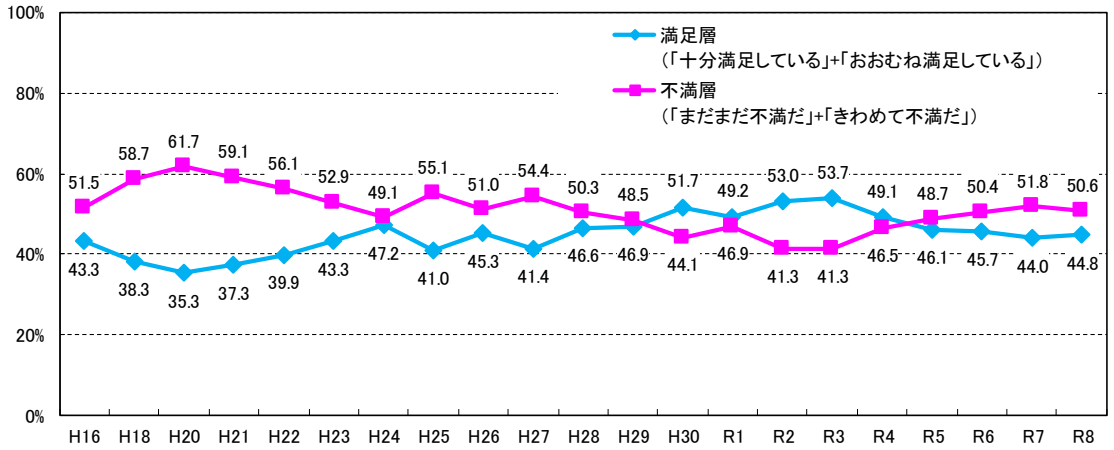
全体（図 2-1）でみると、「おおむね満足している」が 42.2%と最も高く、次いで「まだまだ不満だ」（39.7%）、「きわめて不満だ」（10.9%）の順となっている。

図 2-1　くらしの満足度



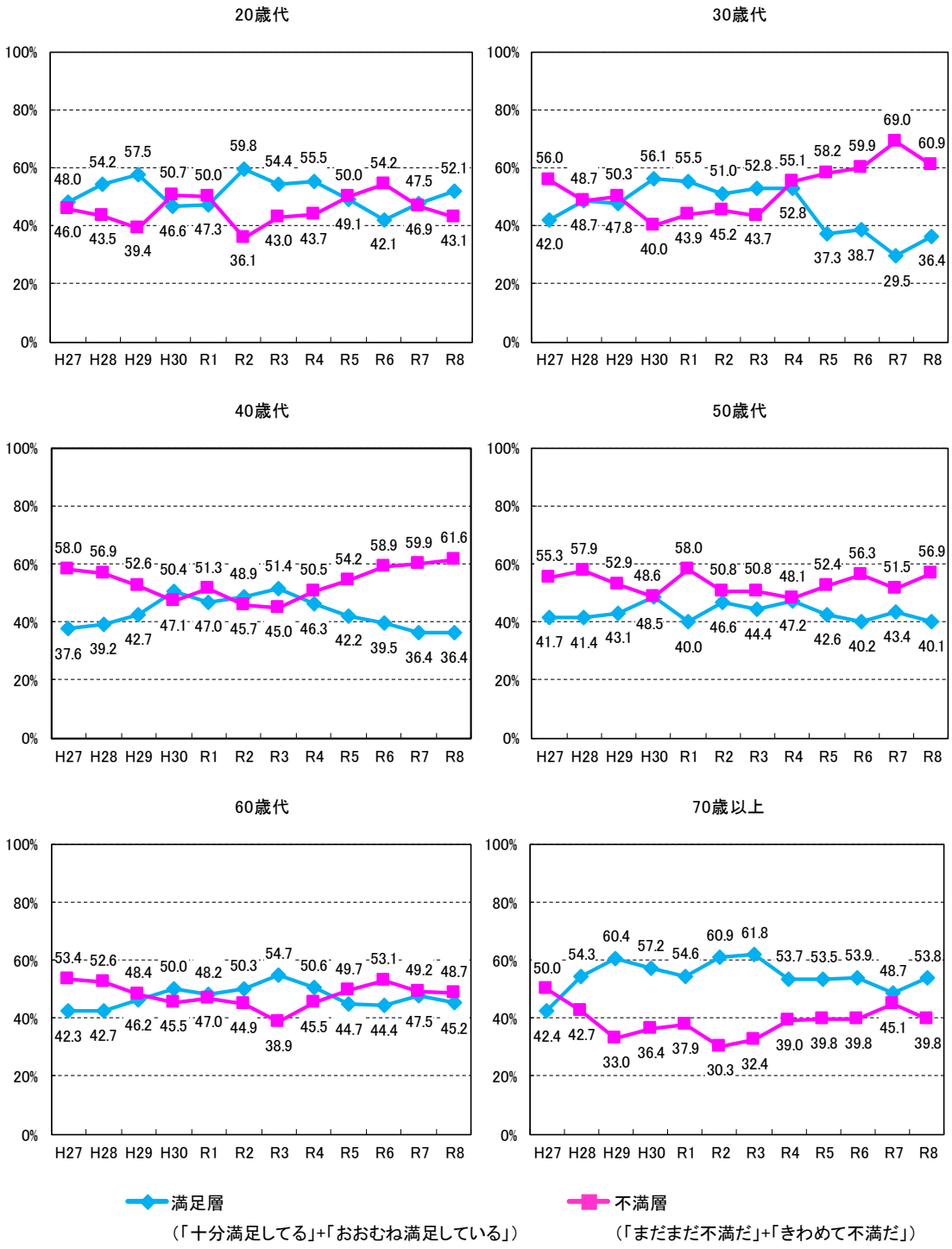
経年変化（図 2-2）でみると、平成 30 年以降、「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）が「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）を上回っていたが、令和 5 年以降では、「不満層」が「満足層」を上回っており、令和 8 年では「不満層」が「満足層」より 5.8 ポイント高くなっている。

図 2-2 【経年変化】くらしの満足度



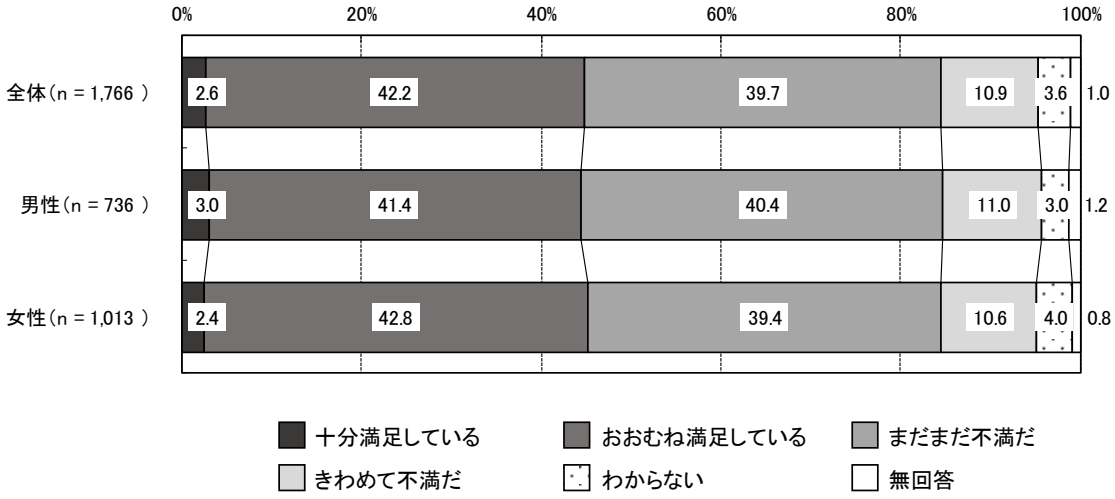
年代別の経年変化（図 2-3）でみると、30 歳代から 60 歳代では「不満層」が「満足層」を上回っており、50 歳代では令和 7 年より「不満層」が 5.4 ポイント増加している。一方、20 歳代では令和 7 年より「満足層」が 4.6 ポイント増加し、「満足層」が「不満層」を上回っている。70 歳以上では、平成 28 年より変わらず、「満足層」が「不満層」を上回っている。

図 2-3 【経年変化（年代別）】くらしの満足度



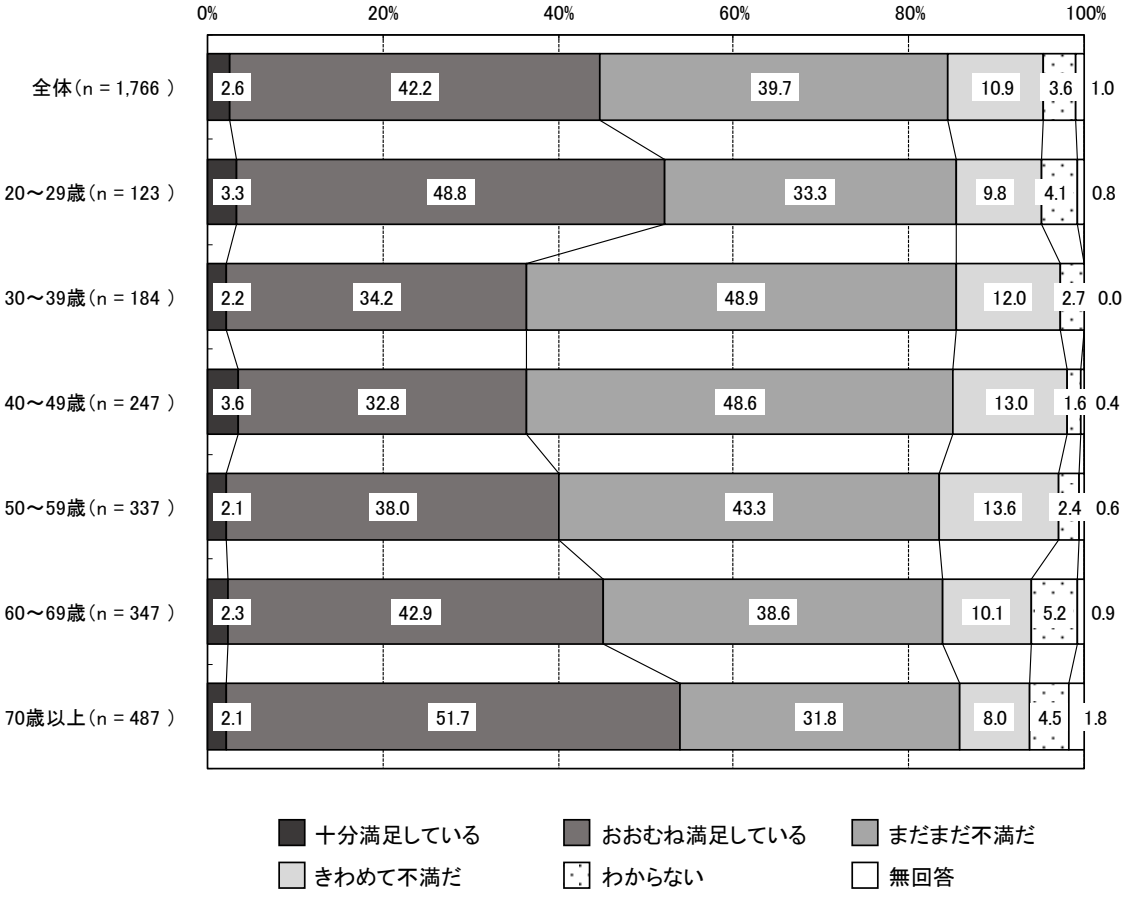
性別（図 2-4）でみると、男女ともに「おおむね満足している」が最も高く、男性が 41.4%、女性が 42.8%となっている。

図 2-4 【性別】くらしの満足度



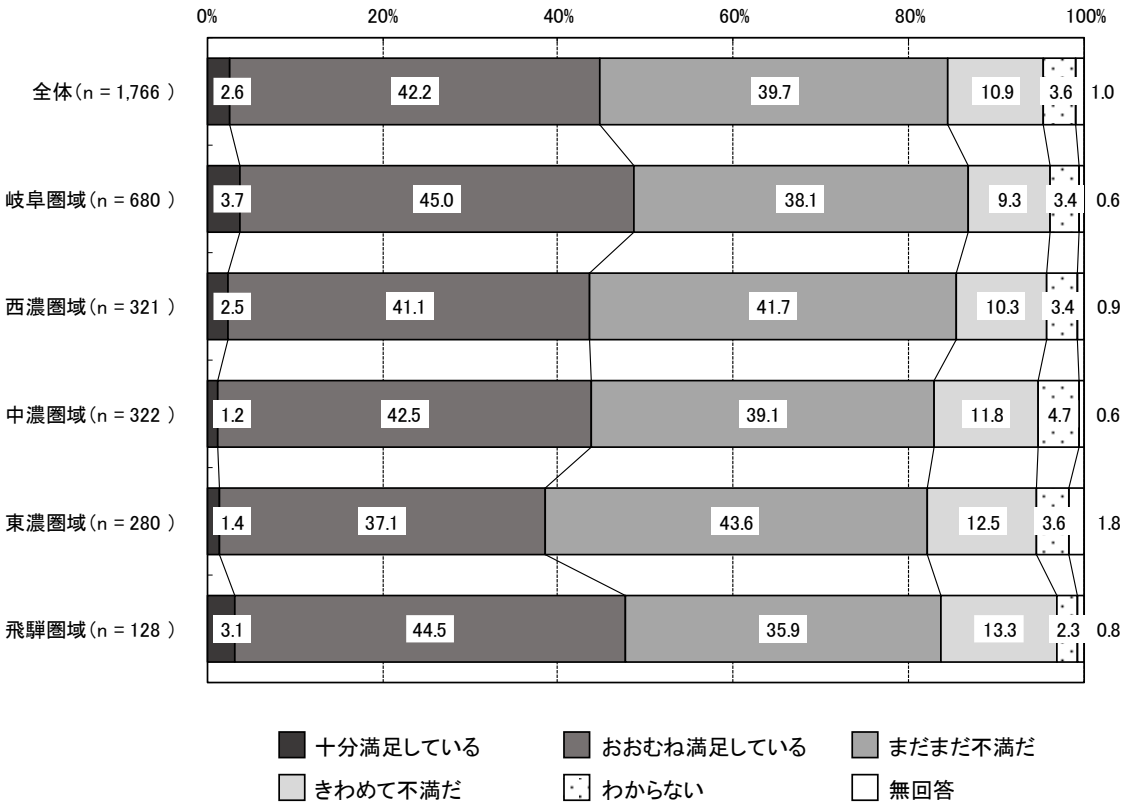
年代別（図 2-5）でみると、20 歳代、60 歳代、70 歳以上では「おおむね満足している」が最も高くなっており、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-5 【年代別】くらしの満足度



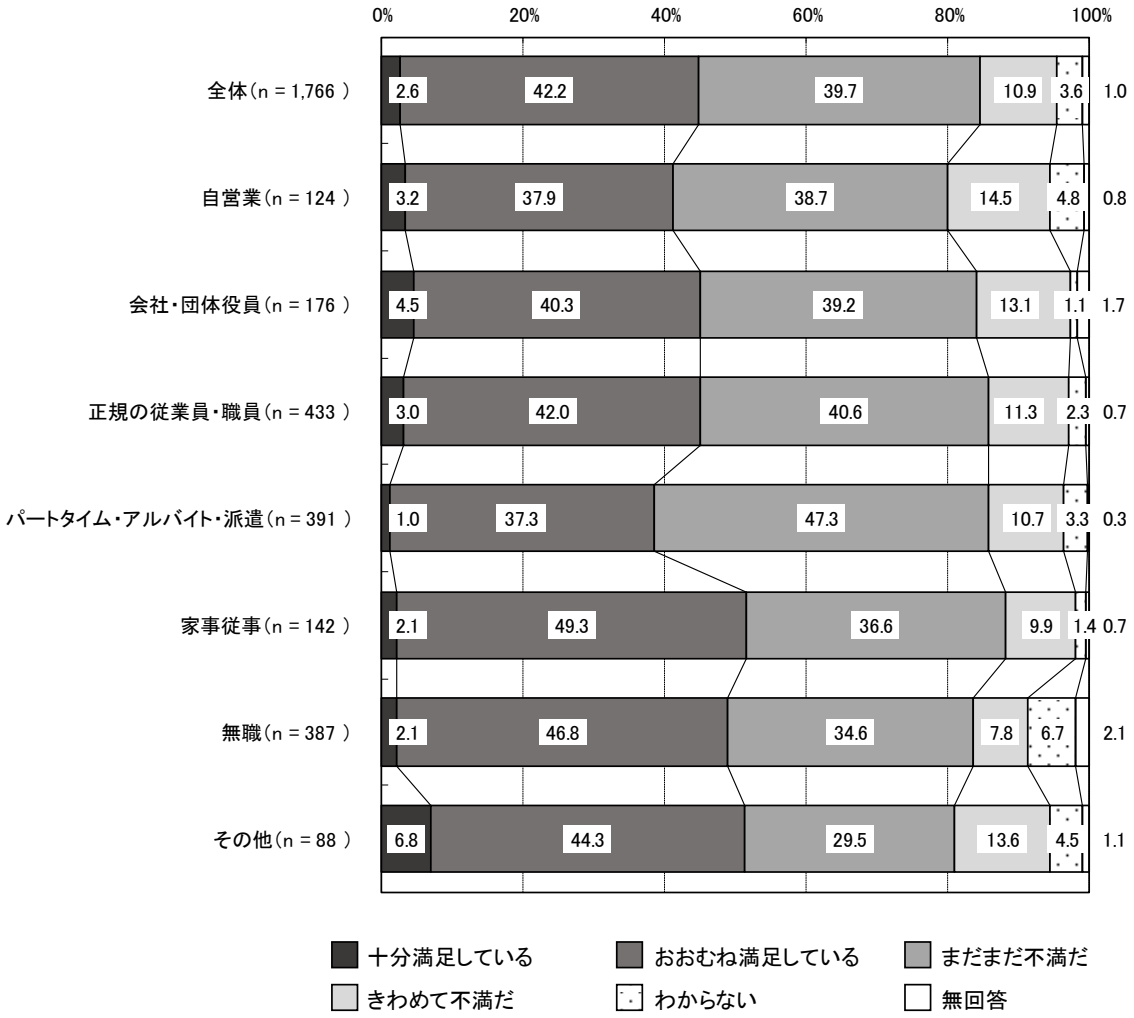
居住圏域別（図 2-6）でみると、岐阜圏域、中濃圏域、飛騨圏域では「おおむね満足している」が最も高くなっており、西濃圏域、東濃圏域では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】くらしの満足度



職業別（図 2-7）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、家事従事、無職、その他では「おおむね満足している」が最も高く、自営業、パートタイム・アルバイト・派遣では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】 くらしの満足度



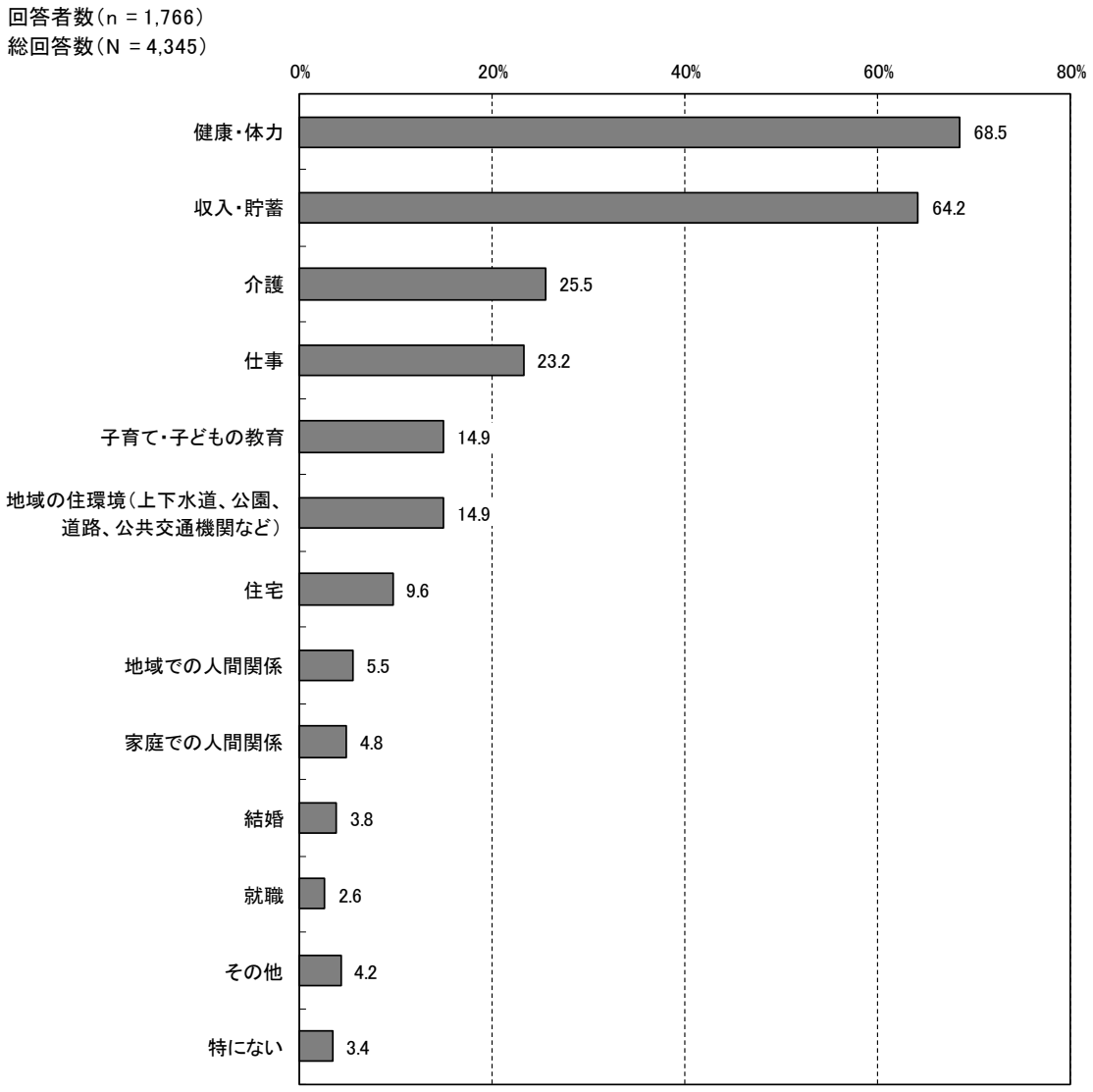
※ その他には、自由業、学生を含む。

問３　生活面での不安

問３　あなたは、日頃のくらしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。（３つまで）

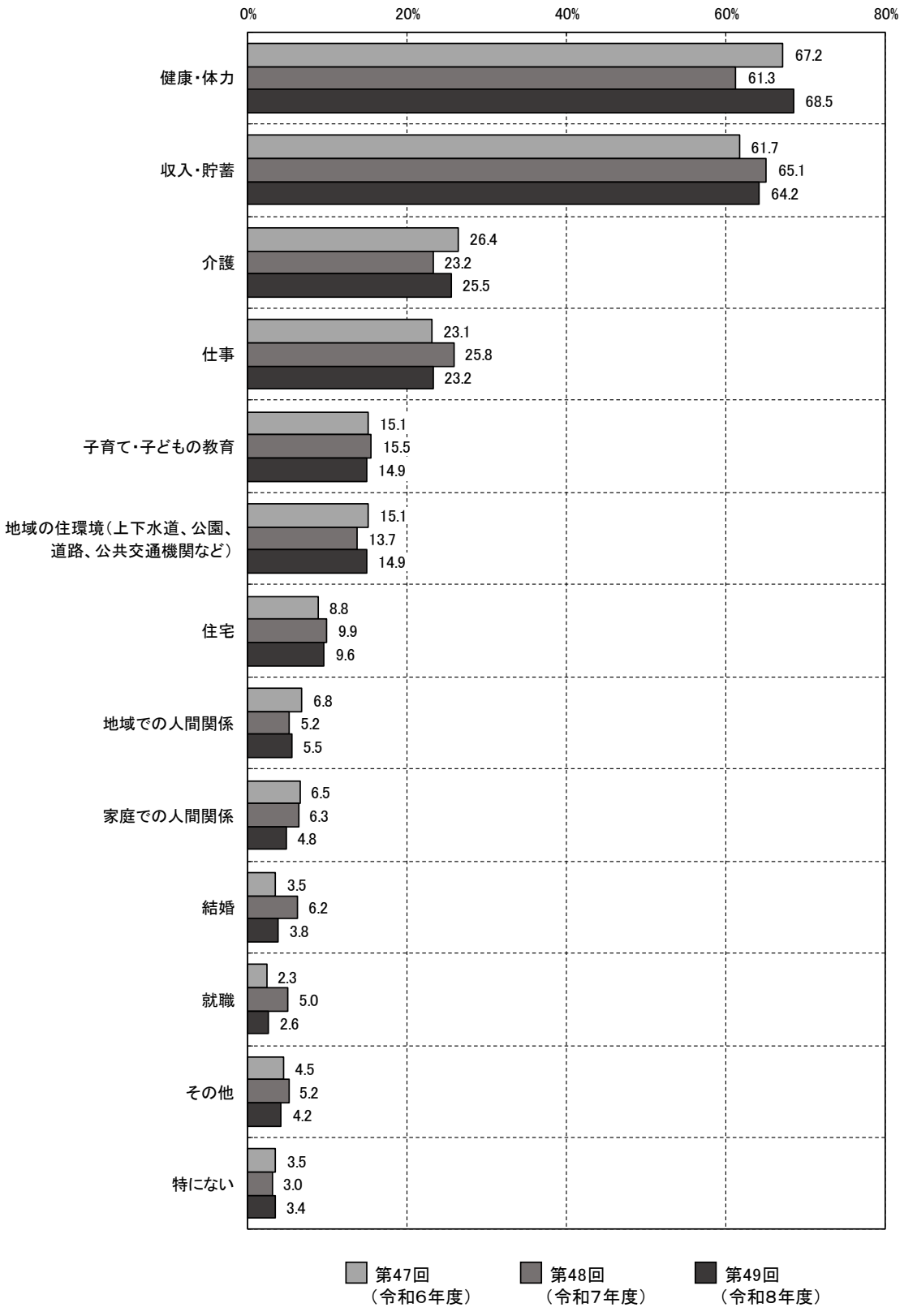
全体（図 3-1）でみると、「健康・体力」が 68.5％と最も高く、次いで「収入・貯蓄」（64.2％）、「介護」（25.5％）の順となっている。

図 3-1　生活面での不安



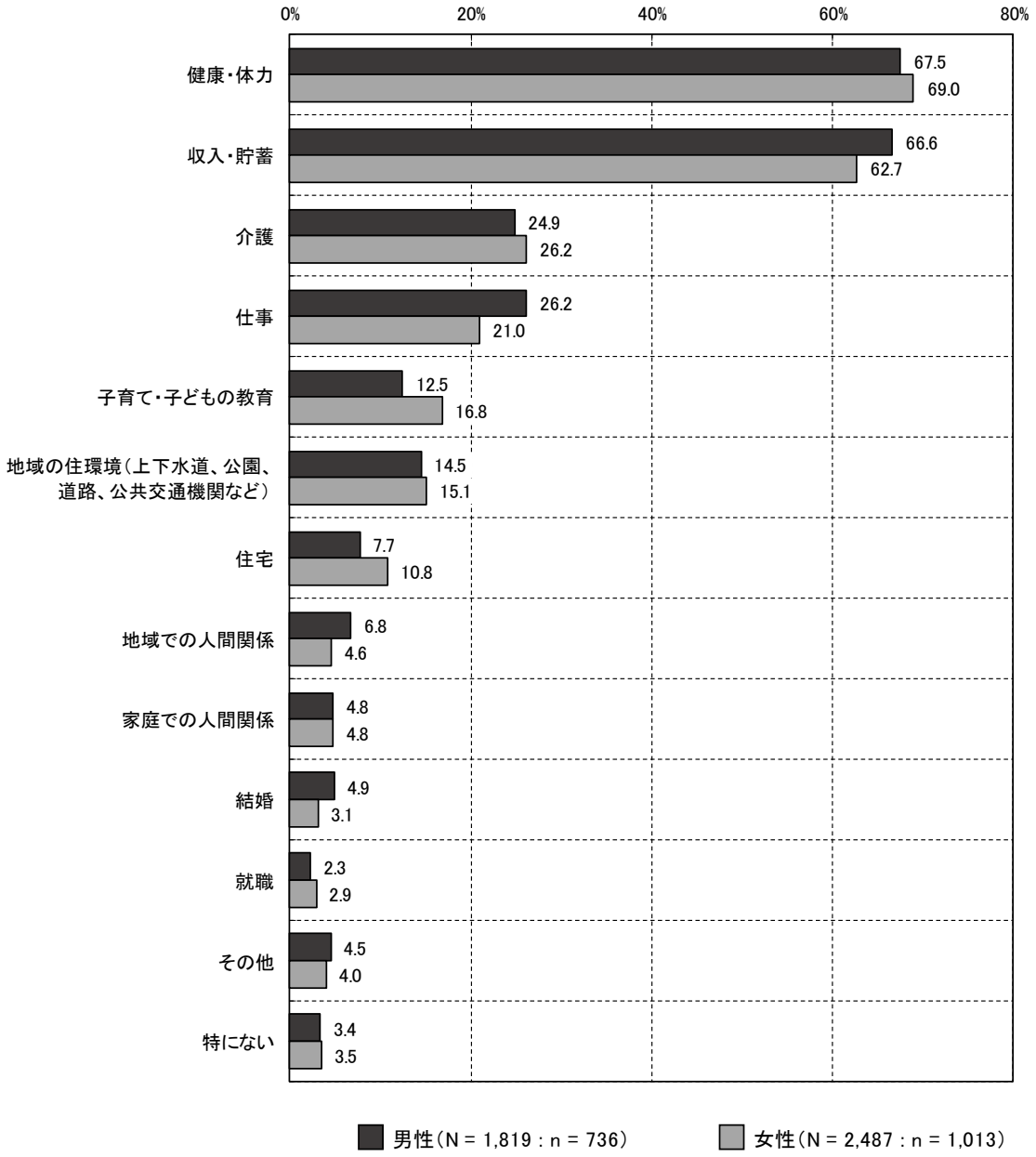
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、前回に比べて、「健康・体力」は 7.2 ポイント増加している。

図 3-2【前々回・前回比較】 生活面での不安



性別（図 3-3）でみると、男女ともに「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」の順となっている。「仕事」では男性が女性より 5.2 ポイント高くなっている。

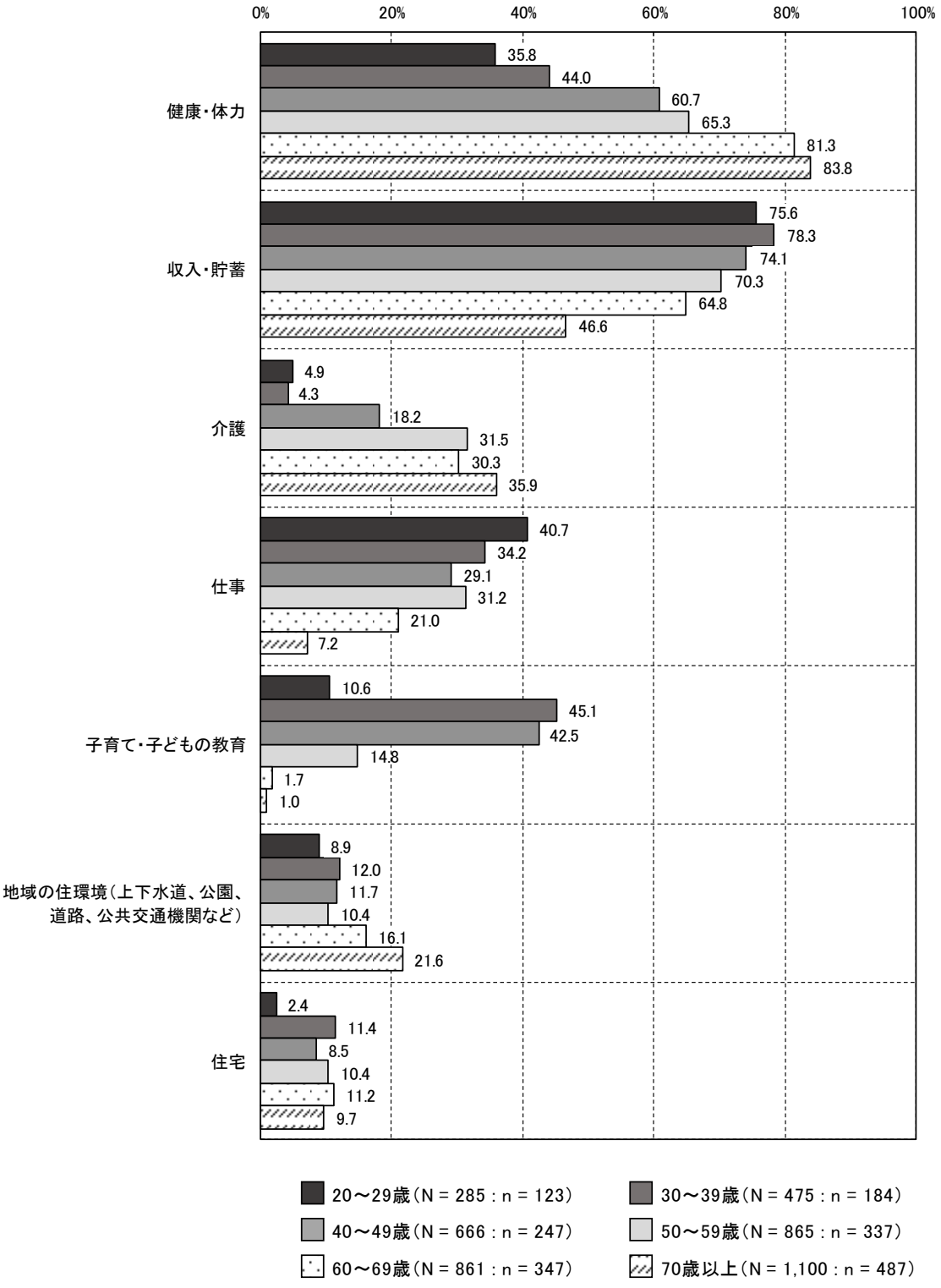
図 3-3 【性別】 生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

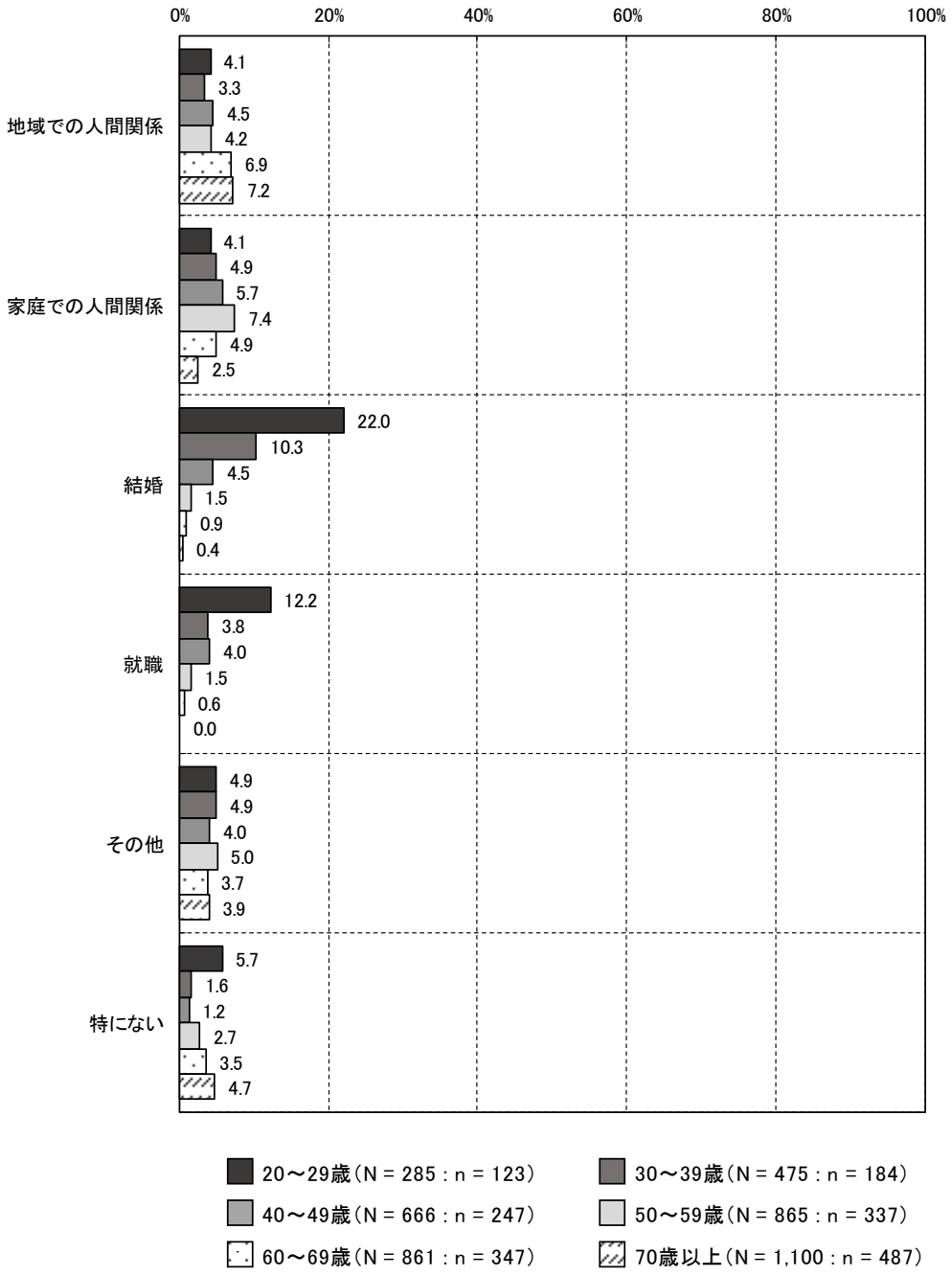
年代別（図 3-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「収入・貯蓄」が、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。また、20 歳代では「仕事」「結婚」「就職」、30 歳代、40 歳代では「子育て・子どもの教育」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「介護」が他の年代に比べて高くなっている。

図 3-4【年代別】 生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

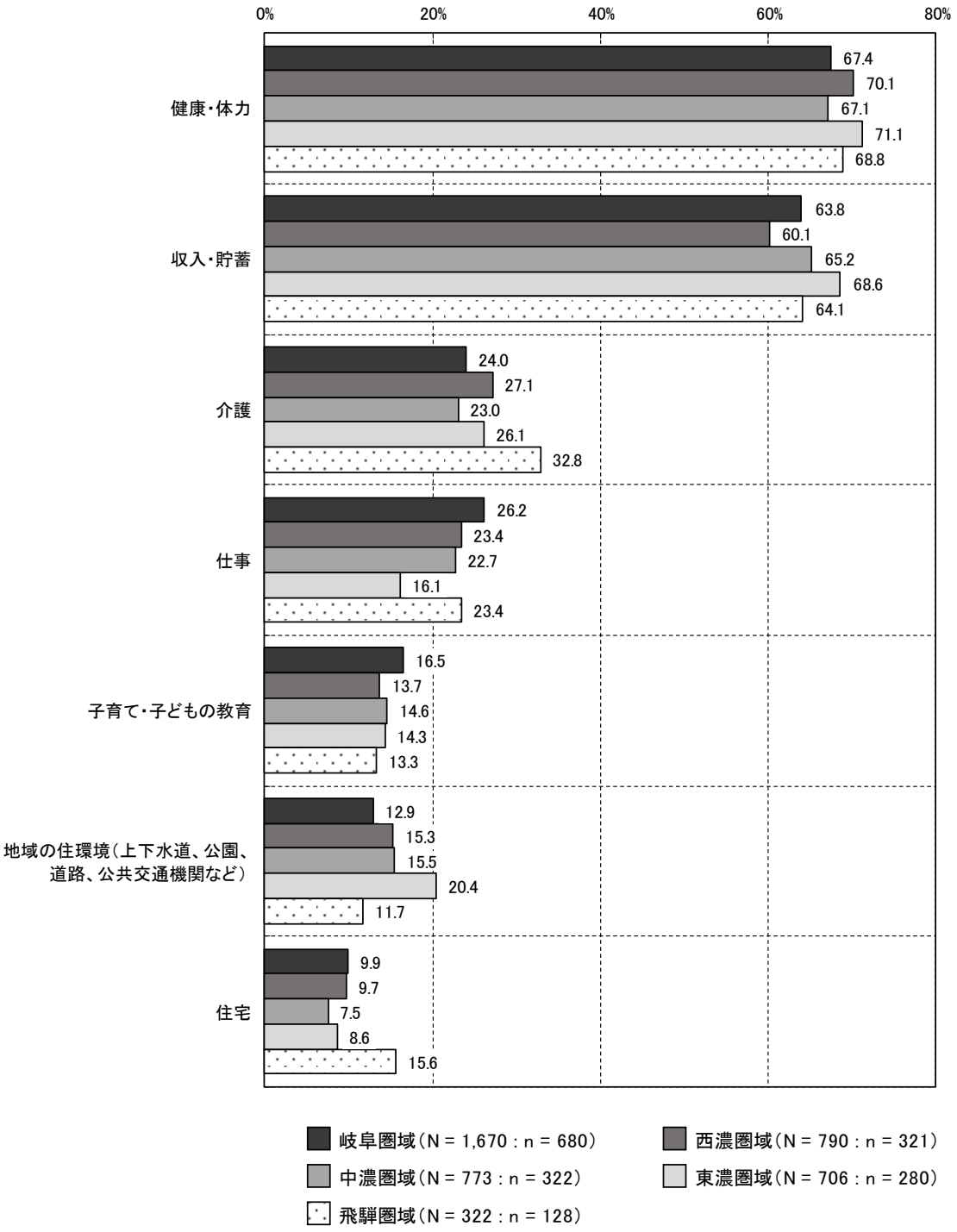
図 3-4 【年代別】 生活面での不安 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

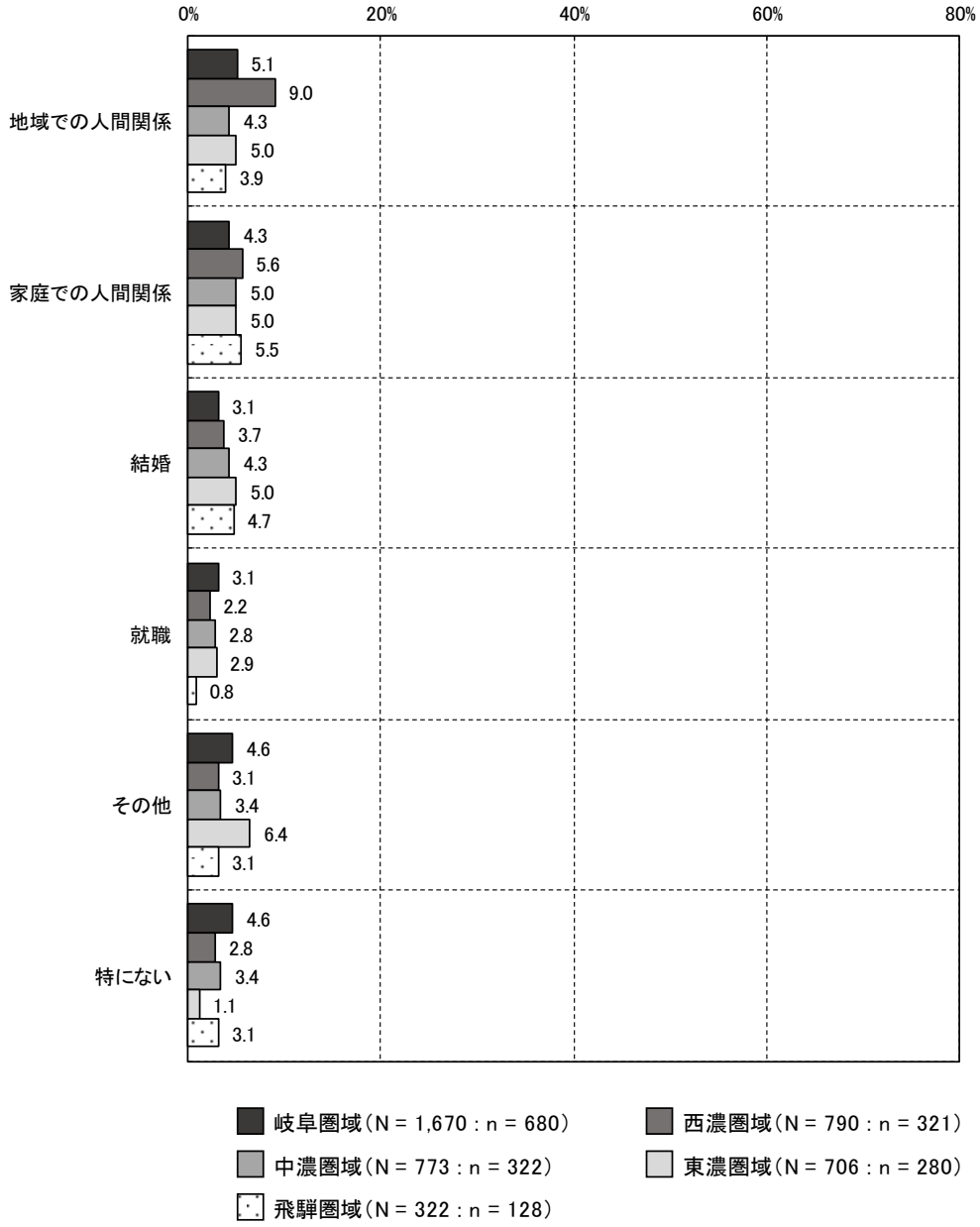
居住圏域別（図 3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」の順となっている。

図 3-5【居住圏域別】 生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

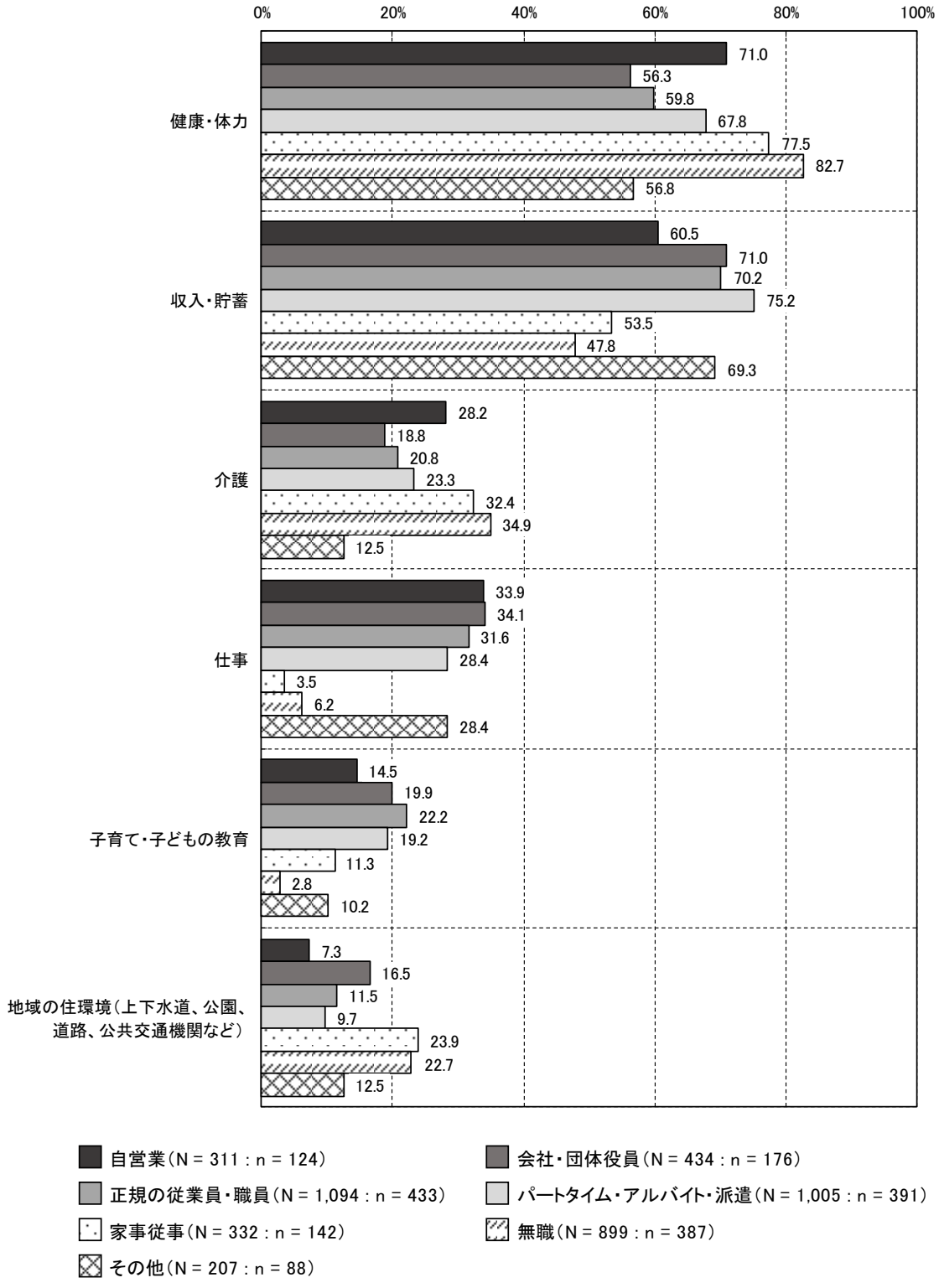
図 3-5【居住圏域別】生活面での不安（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

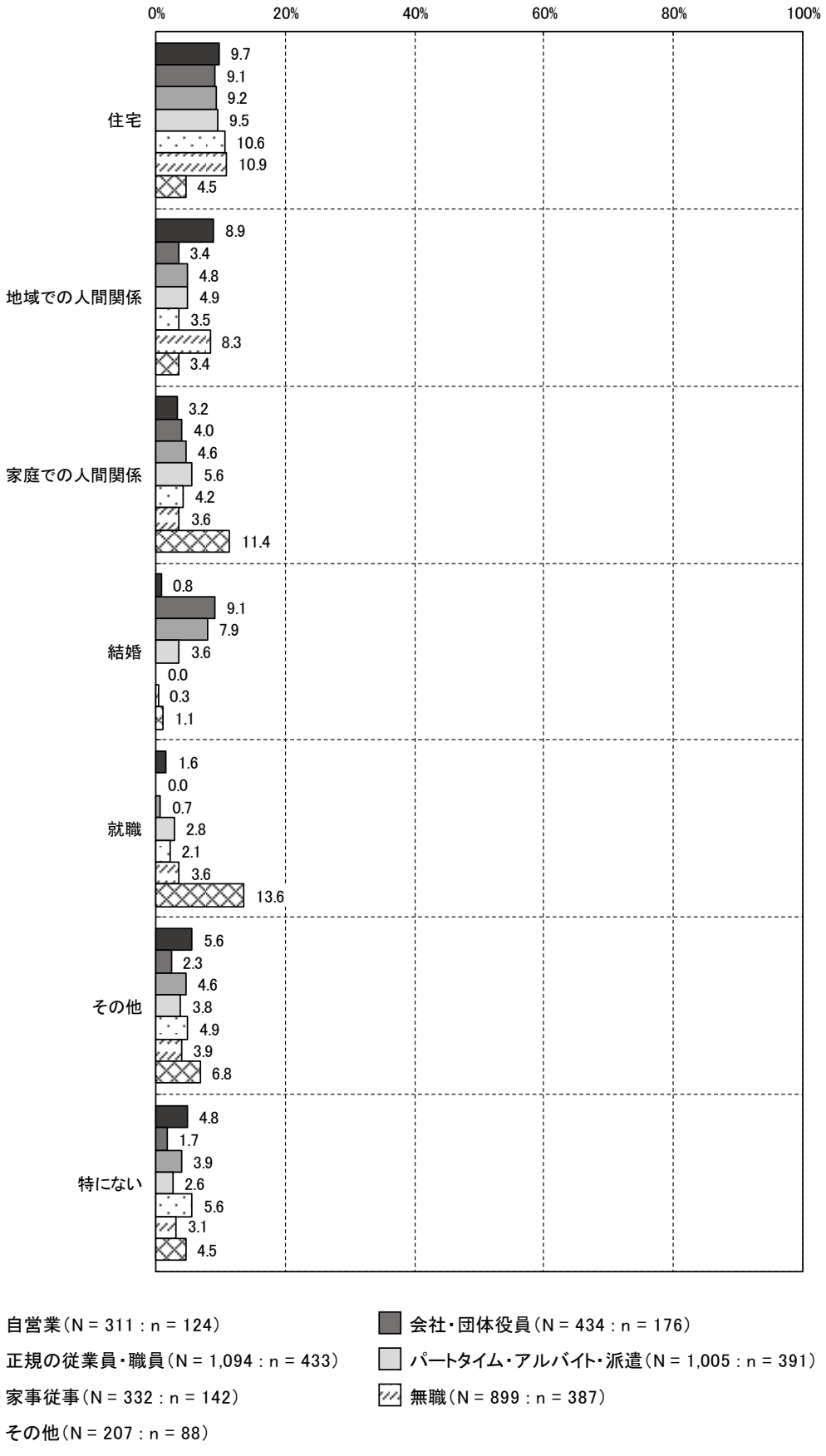
職業別（図 3-6）でみると、自営業、家事従事、無職では「健康・体力」、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「収入・貯蓄」が最も高くなっている。

図 3-6 【職業別】 生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 3-6 【職業別】 生活面での不安 （続き）



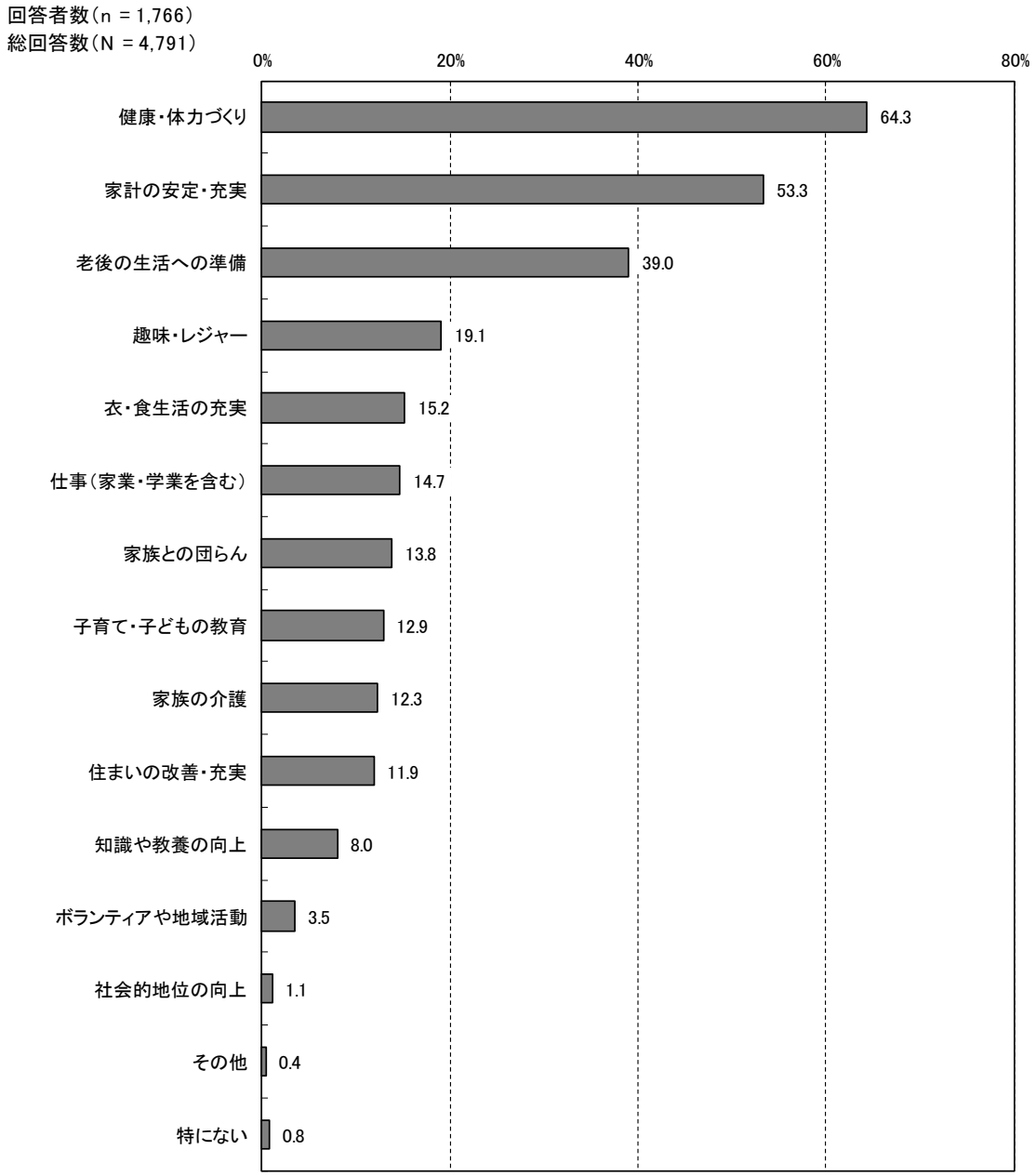
※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと

問４　あなたが、今後のくらしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。（３つまで）

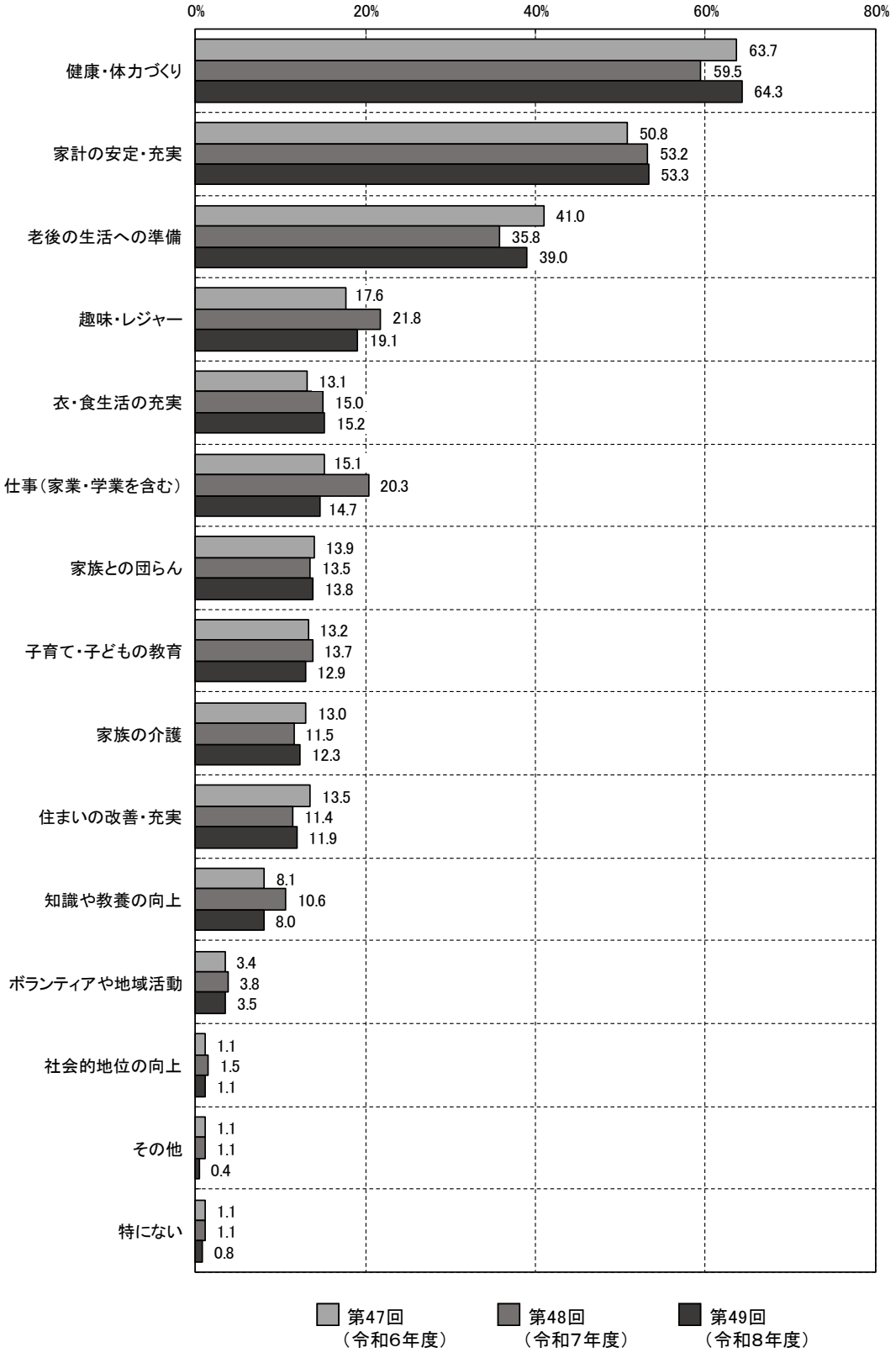
全体（図 4-1）でみると、「健康・体力づくり」が 64.3％と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（53.3％）、「老後の生活への準備」（39.0％）の順となっている。

図 4-1　今後のくらしの中で重視していきたいこと



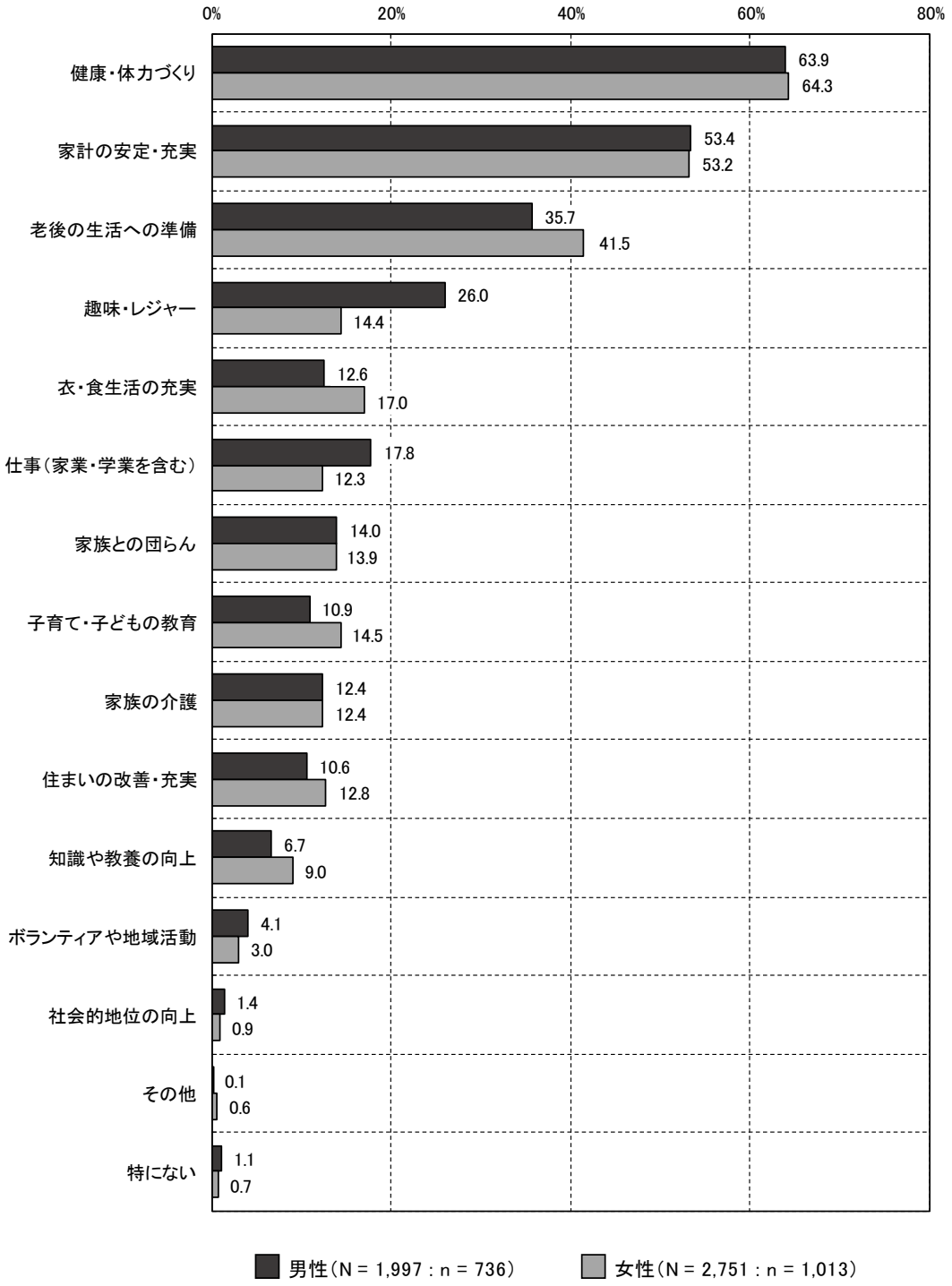
前々回・前回比較（図 4-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）でみると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。「老後の生活への準備」では女性が男性より 5.8 ポイント高くなっており、「趣味・レジャー」では男性が女性より 11.6 ポイント高くなっている。

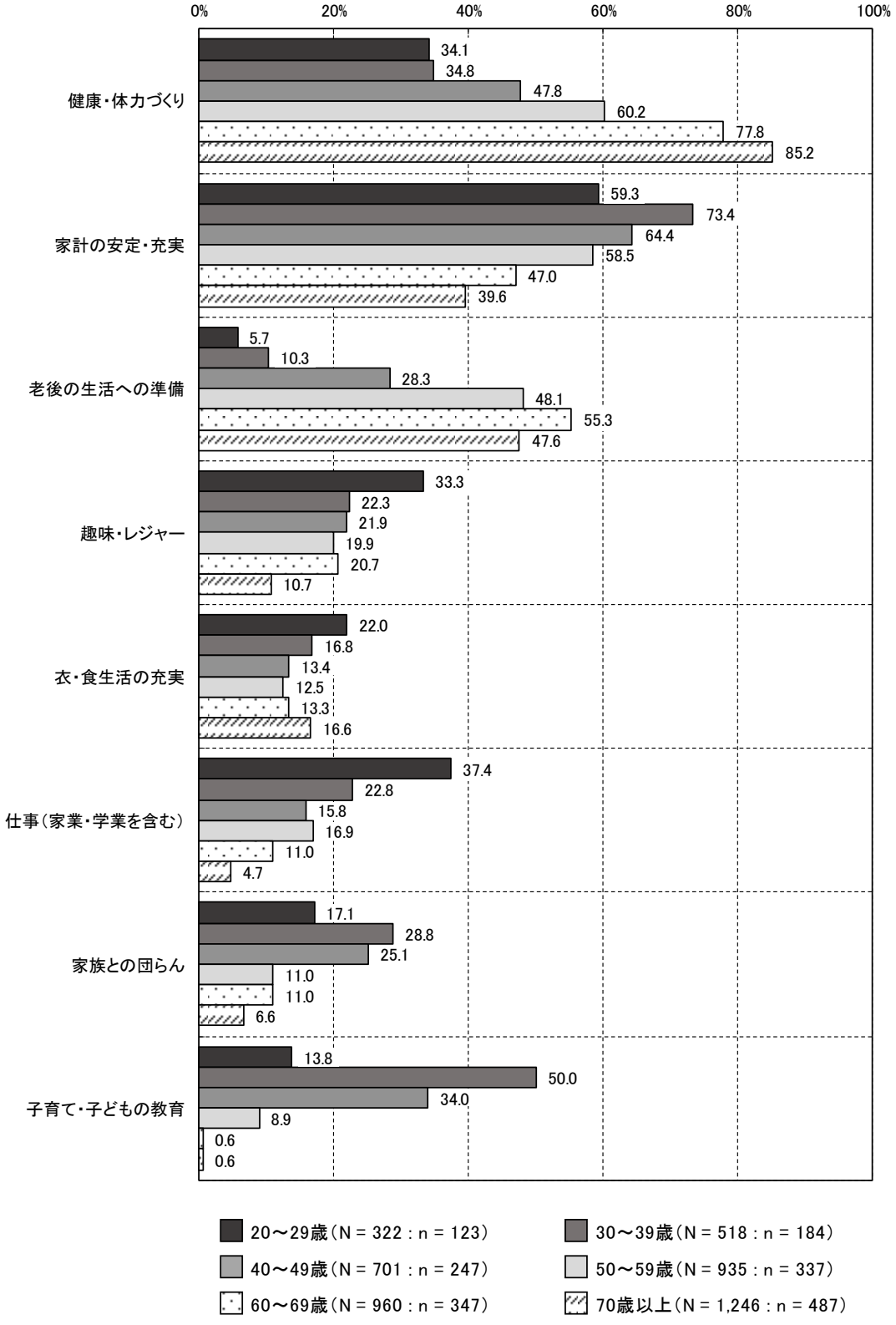
図 4-3 【性別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

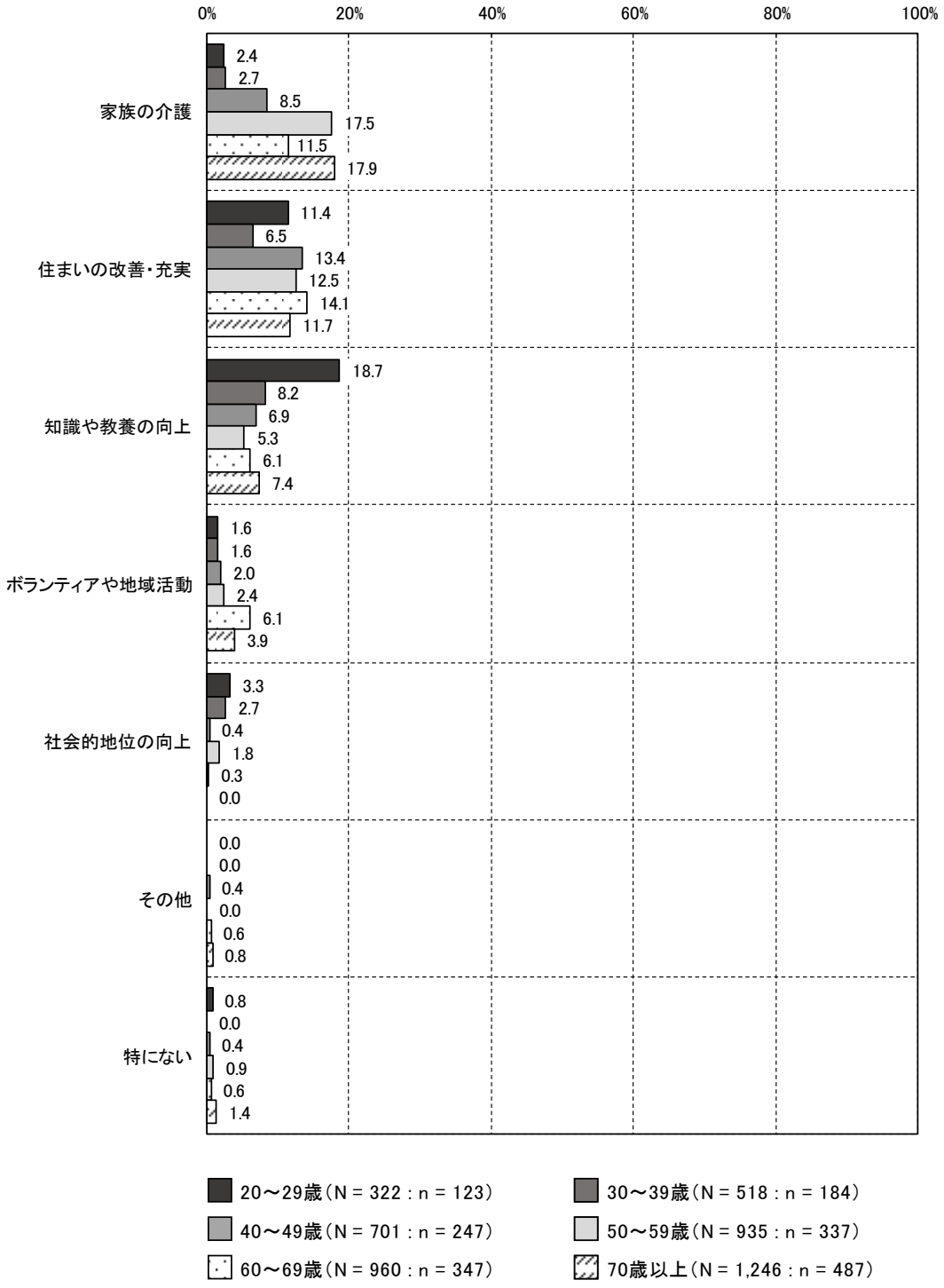
年代別（図 4-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力づくり」が最も高くなっている。20 歳代では「趣味・レジャー」「仕事（家業・学業を含む）」、30 歳代では「子育て・子どもの教育」、60 歳代では「老後の生活への準備」が他の年代に比べて高くなっている。

図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

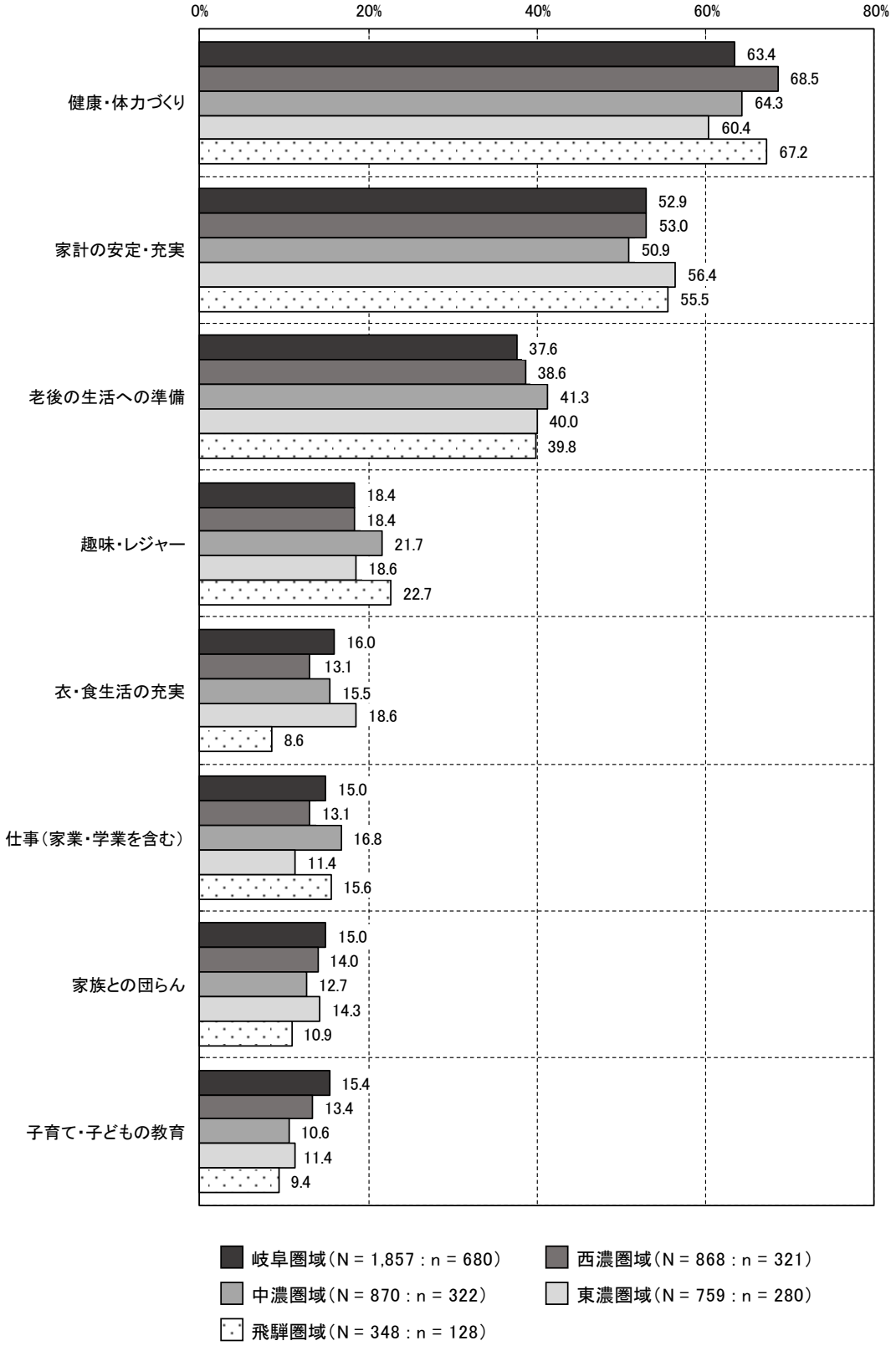
図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

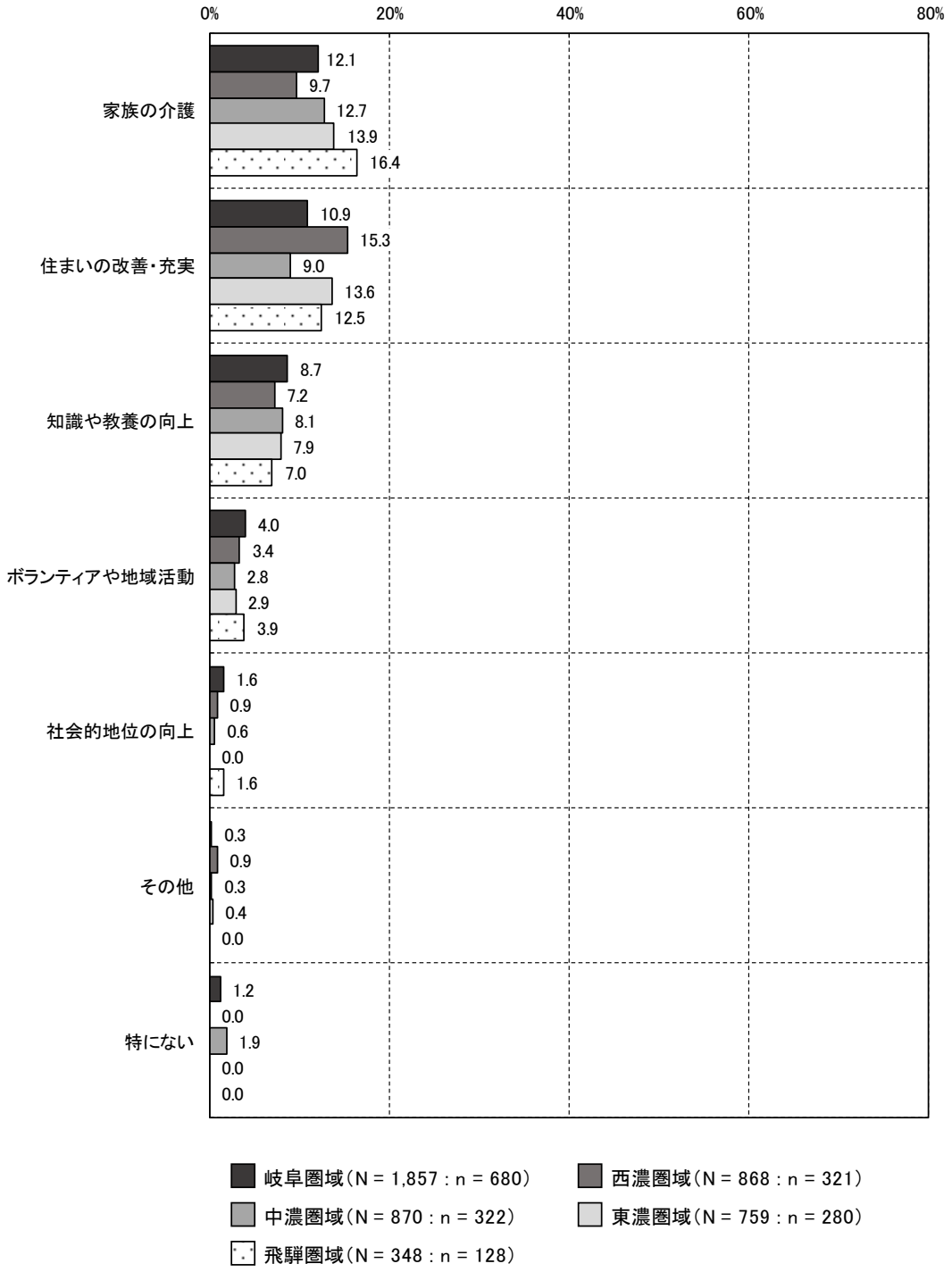
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

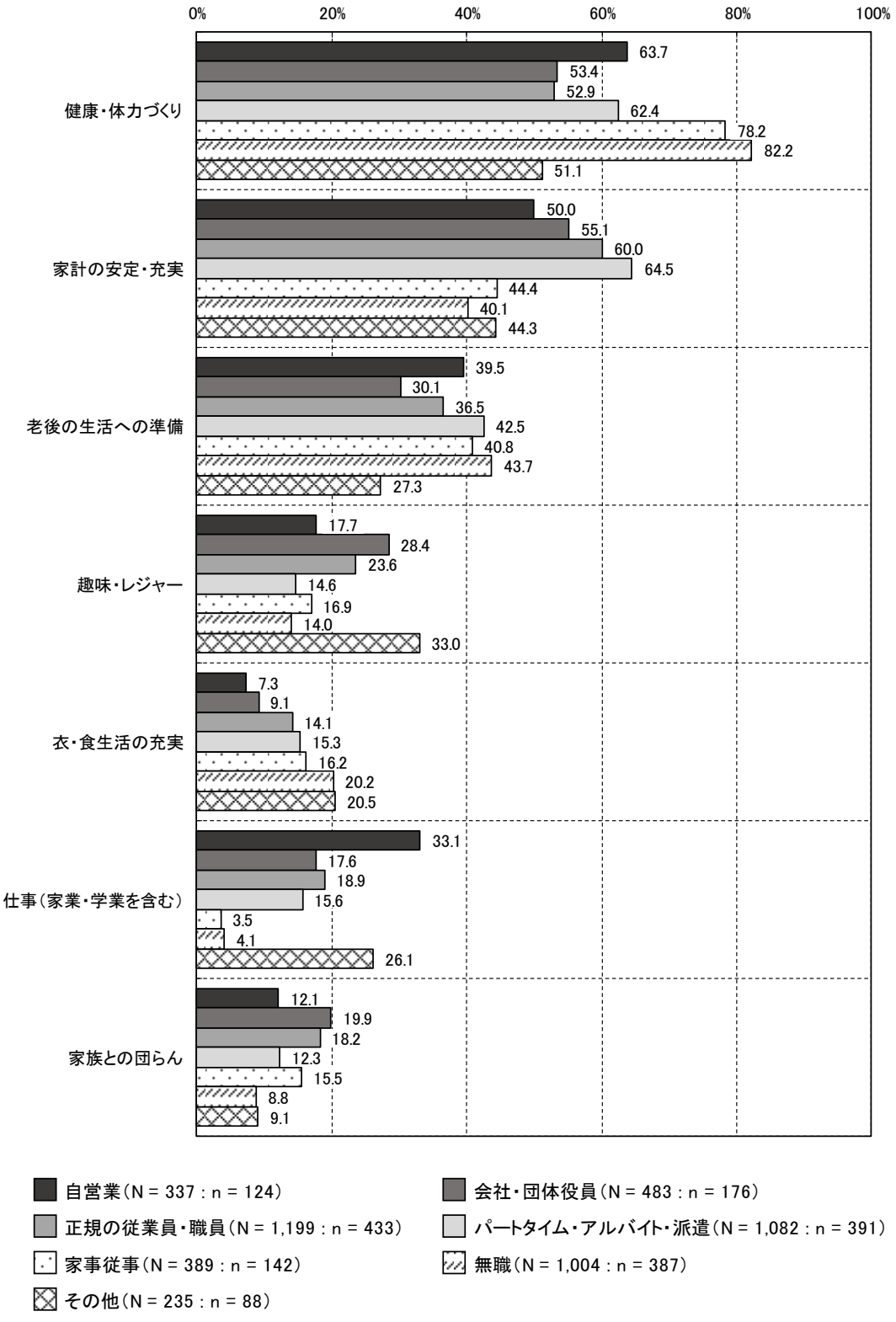
図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

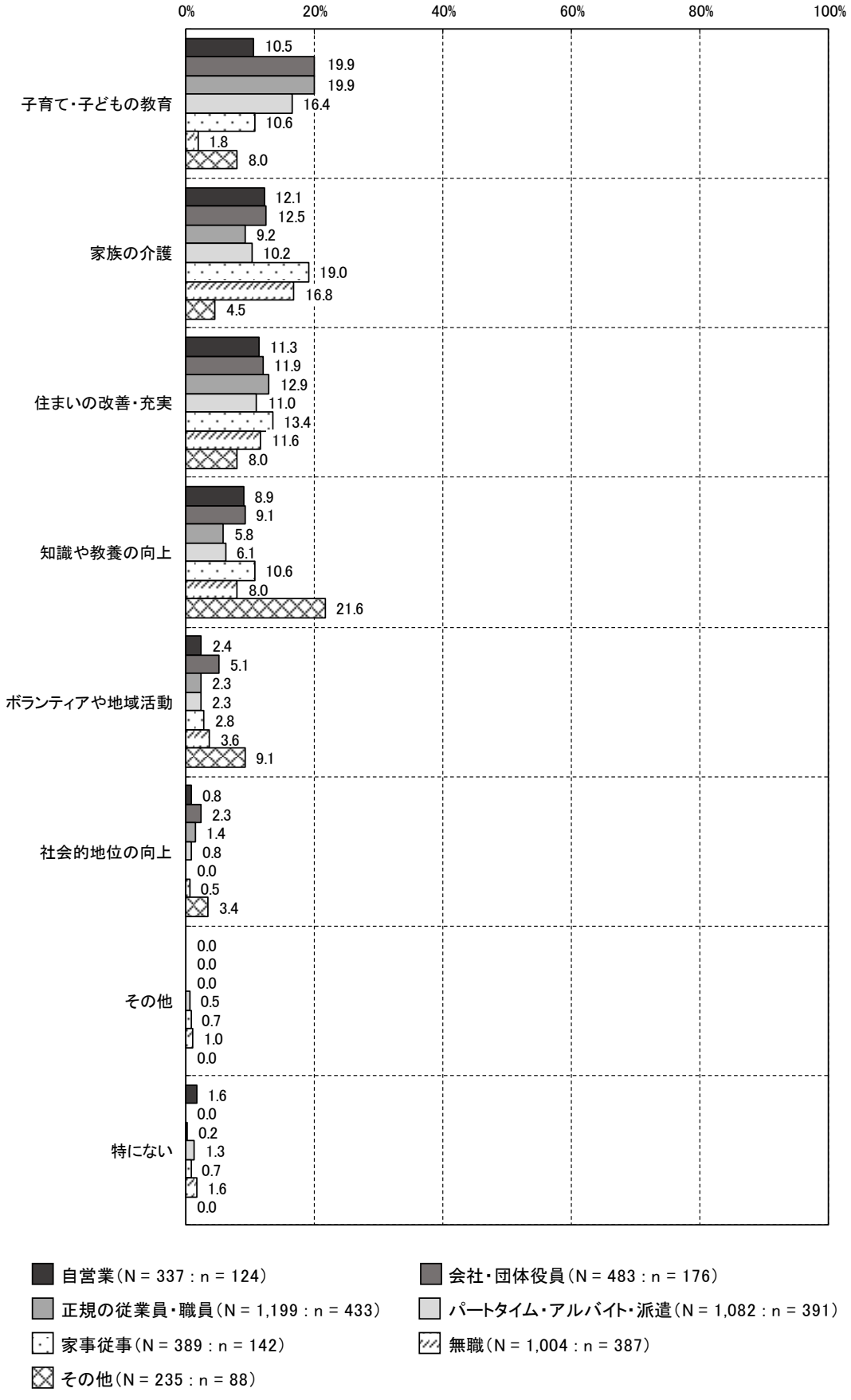
職業別（図 4-6）でみると、自営業、家事従事、無職、その他では「健康・体力づくり」が最も高く、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「家計の安定・充実」が最も高くなっている。

図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



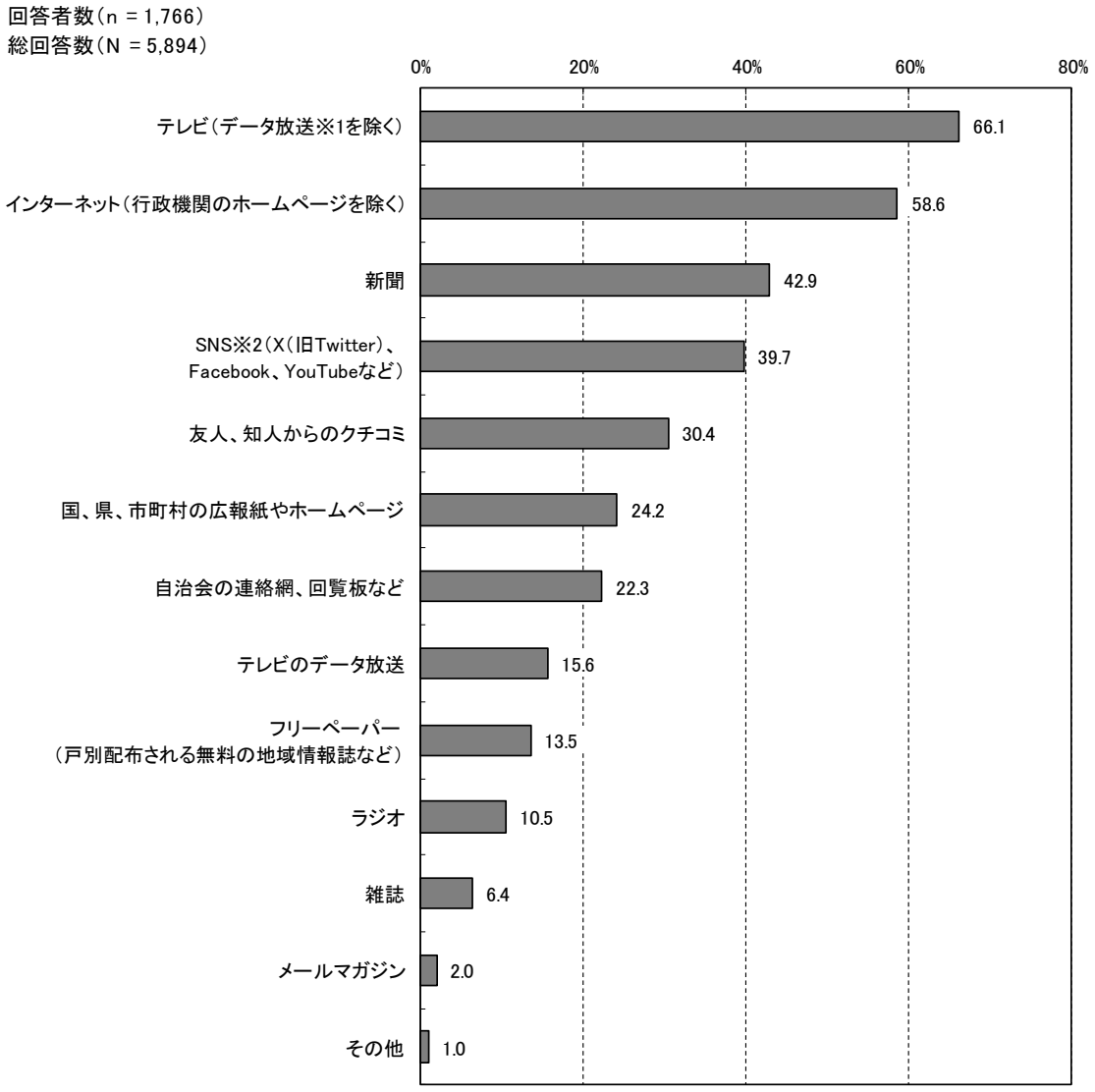
※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問５　生活に必要な情報の入手媒体

問５　あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。（いくつでも）

全体（図 5-1）でみると、「テレビ（データ放送を除く）」が 66.1％と最も高く、次いで「インターネット（行政機関のホームページを除く）」（58.6％）、「新聞」（42.9％）の順となっている。

図 5-1　生活に必要な情報の入手媒体



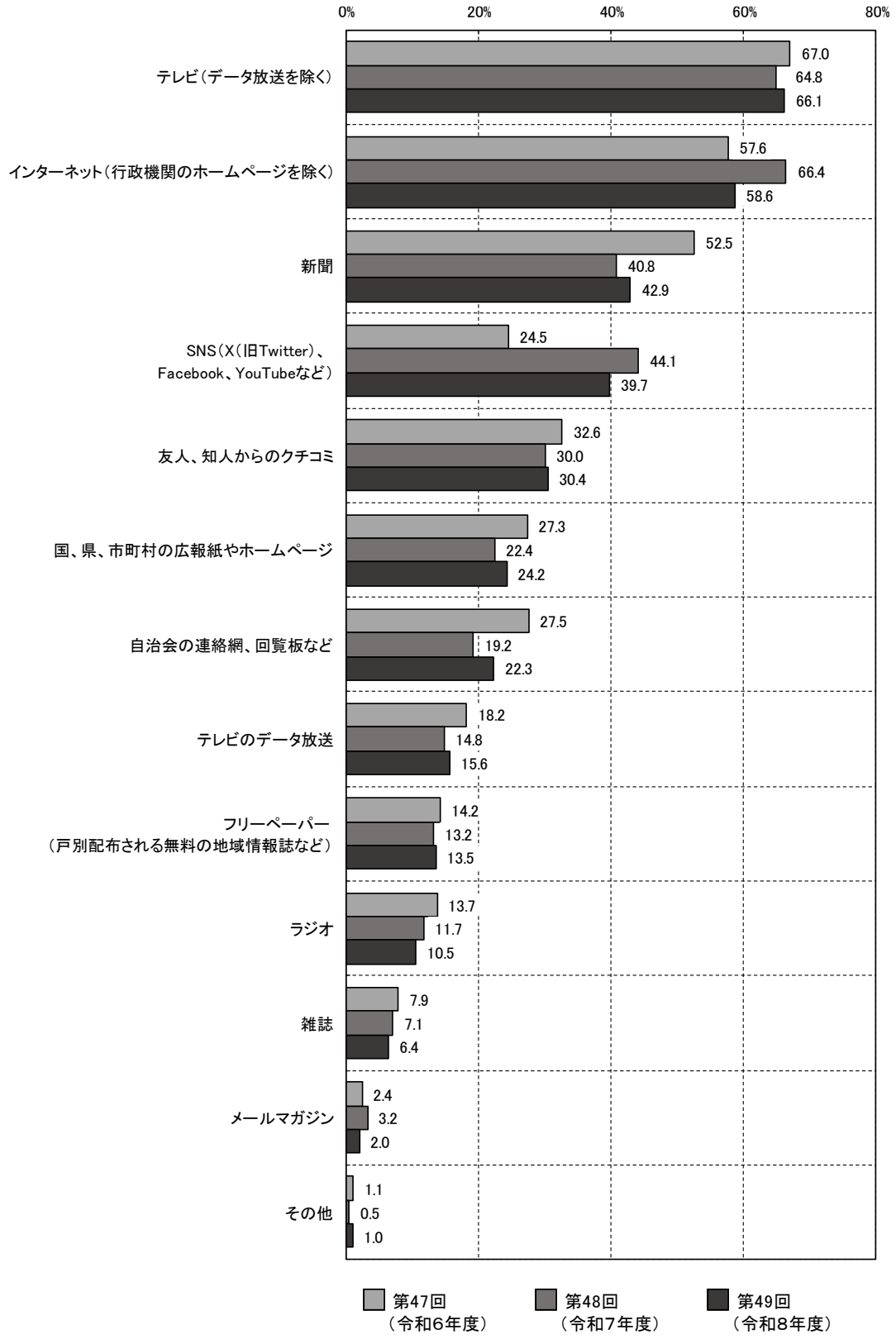
※1　データ放送：リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

※2　SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス

※　本問における選択肢「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は、前々回調査「フェイスブック、X（旧 Twitter）などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」より変更

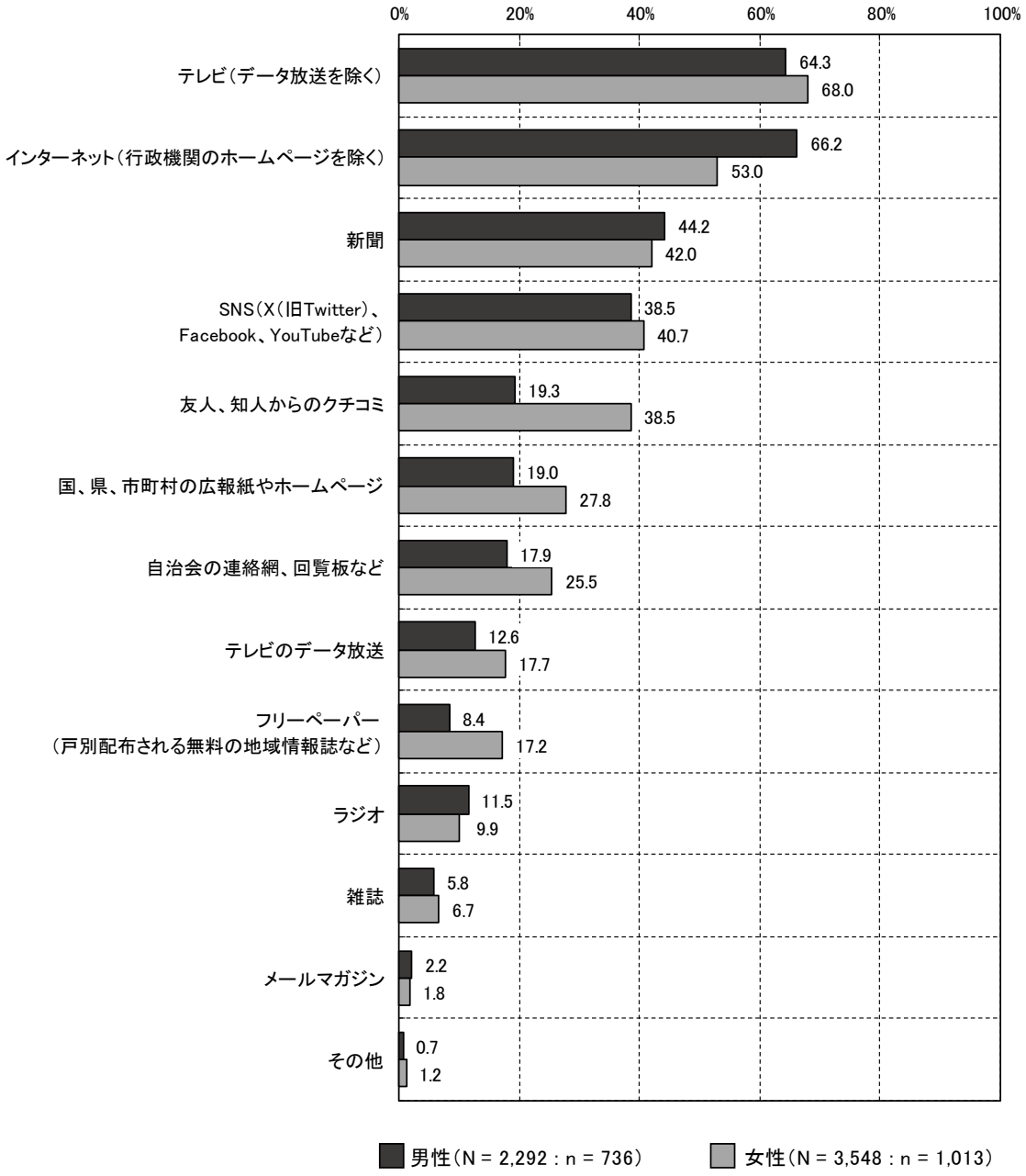
前々回・前回比較（図 5-2）でみると、前回に比べて、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」は 7.8 ポイント減少している。

図 5-2 【前々回・前回比較】 生活に必要な情報の入手媒体



性別（図5-3）でみると、男性では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」(66.2%)、女性では「テレビ（データ放送を除く）」(68.0%）が最も高くなっている。また、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」では男性が女性より13.2ポイント、「友人、知人からのクチコミ」では女性が男性より19.2ポイント高くなっている。

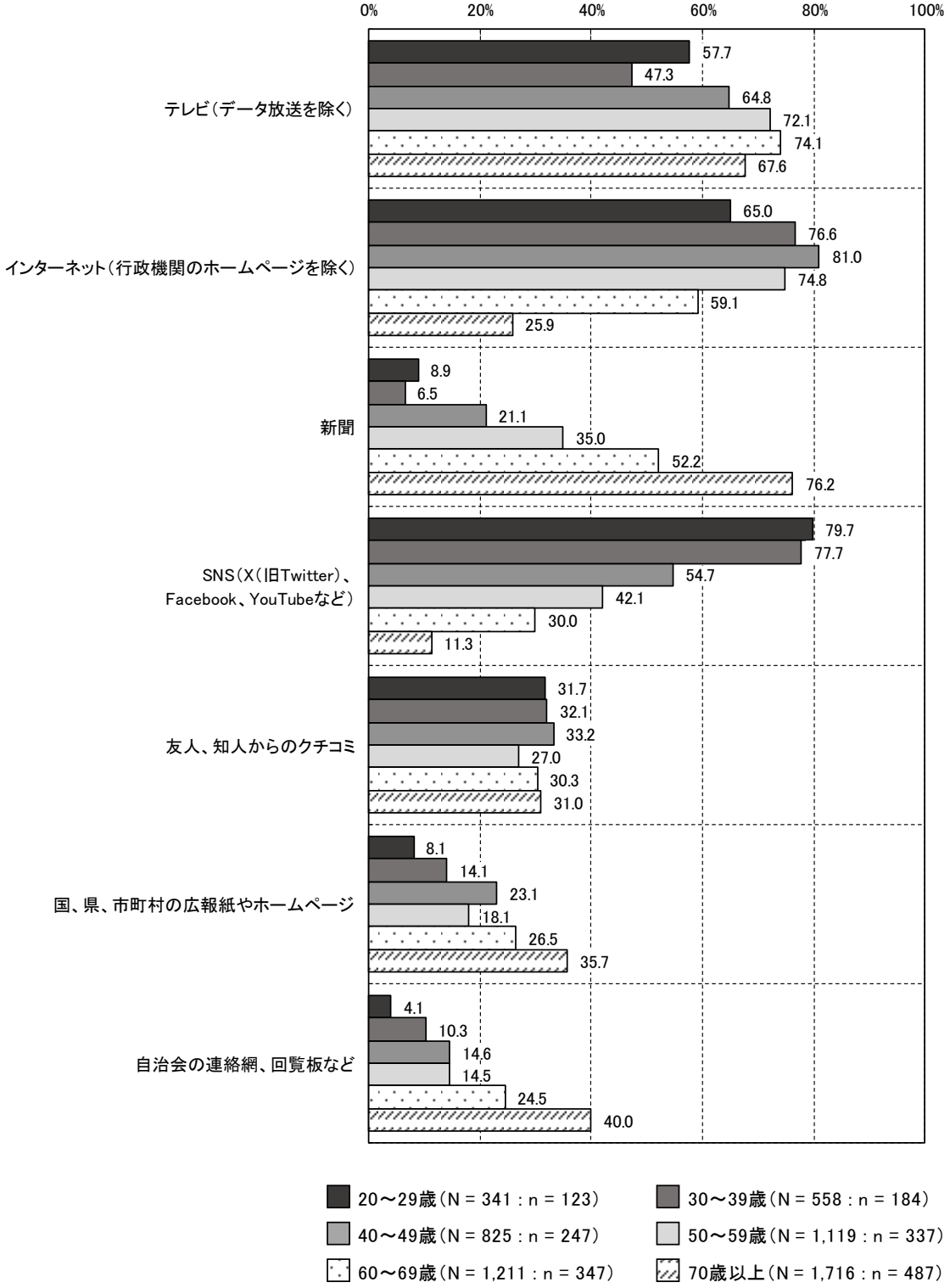
図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

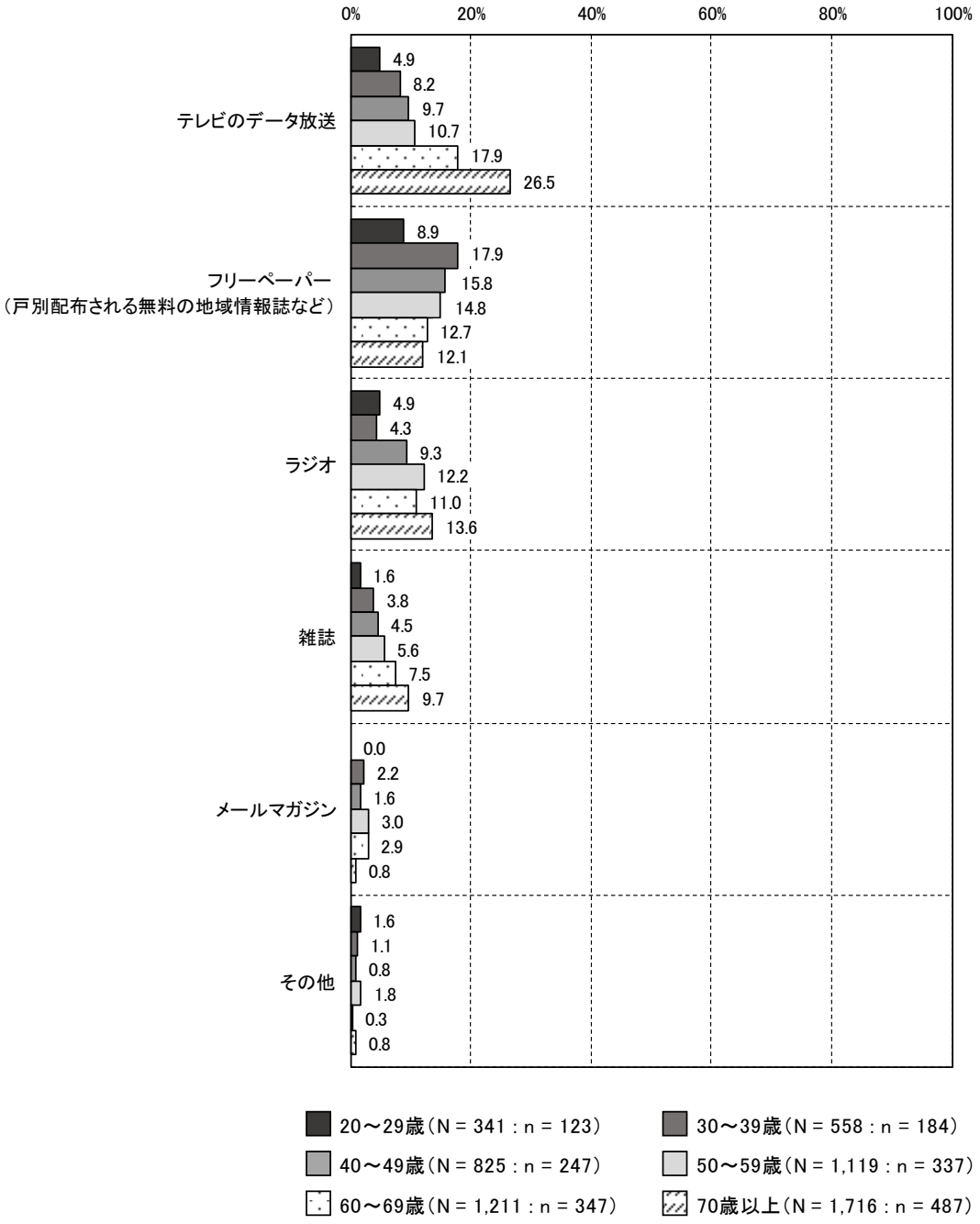
年代別（図 5-4）でみると、20 歳代、30 歳代では「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」、40 歳代、50 歳代では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、60 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」、70 歳以上では「新聞」が最も高くなっている。また、「新聞」「国、県、市町村の広報紙やホームページ」「自治会の連絡網、回覧板など」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。一方で、「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は年代が下がるにつれて高くなっている。

図 5-4【年代別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

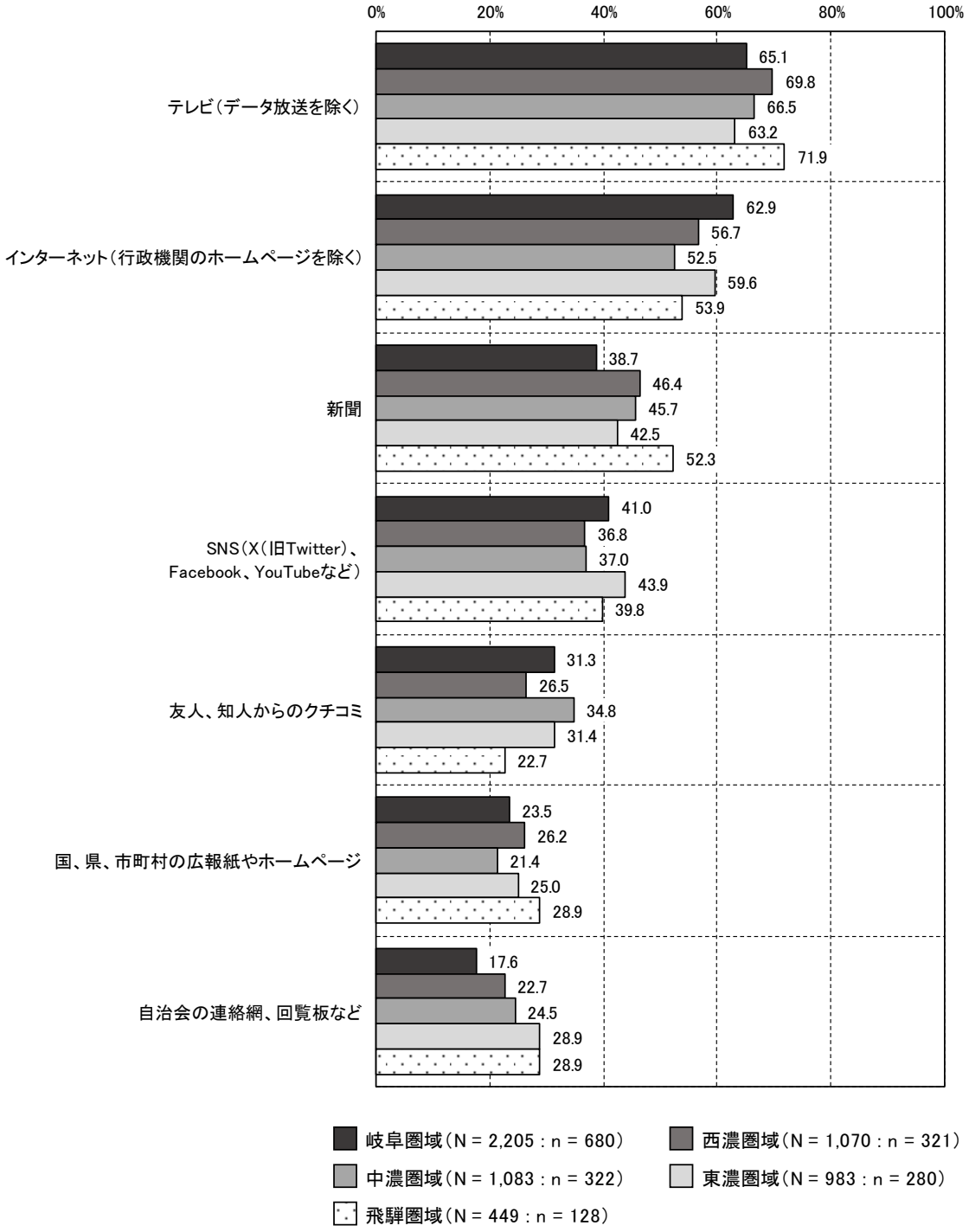
図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

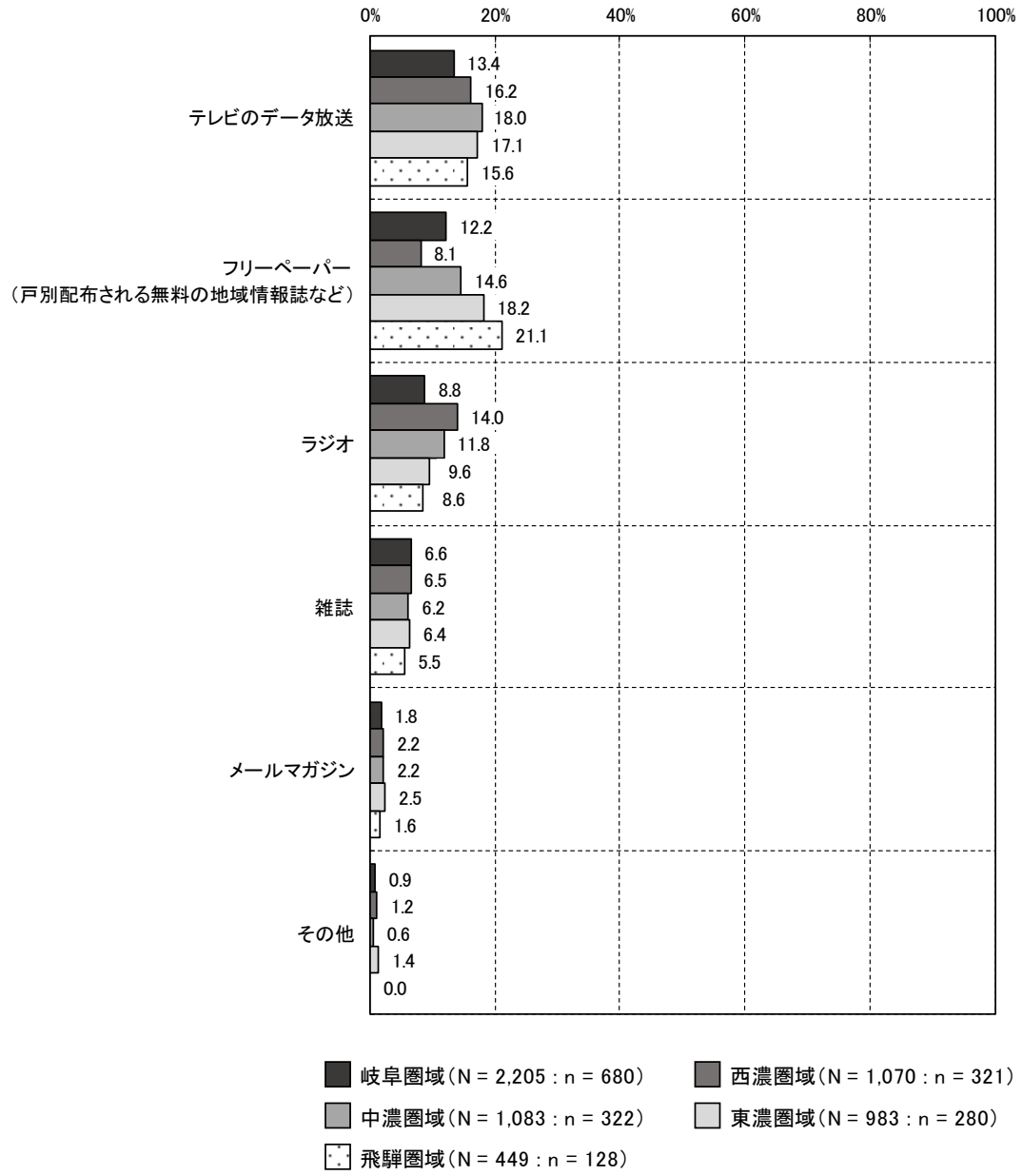
居住圏域別（図 5-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



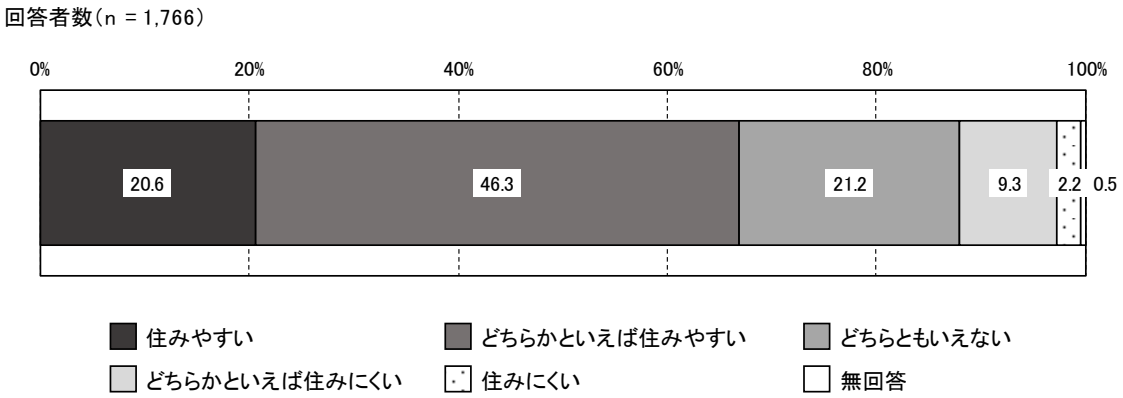
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問６　現在住んでいる地域は住みやすいか

問６　あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（１つだけ）

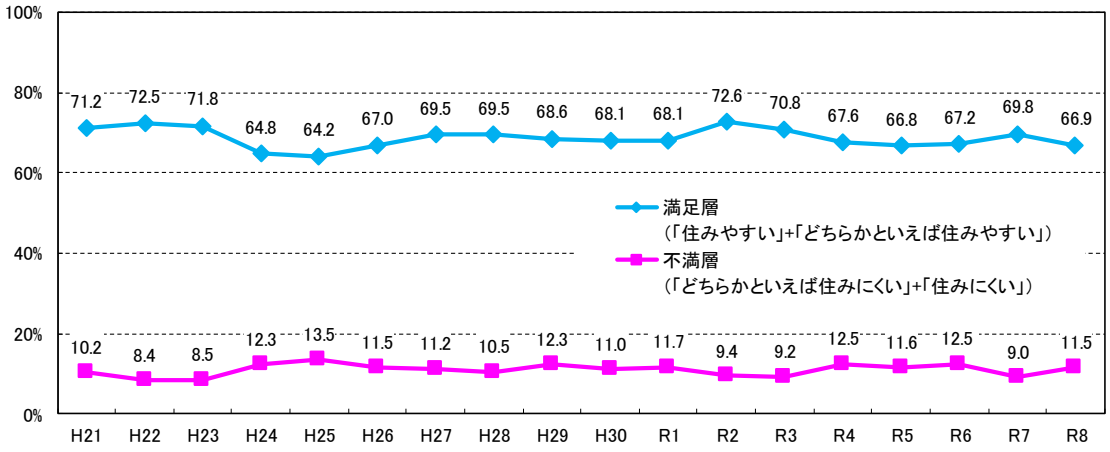
全体（図 6-1）でみると、「どちらかといえば住みやすい」が 46.3%と最も高くなっている。次いで「どちらともいえない」(21.2%)、「住みやすい」(20.6%）の順となっている。

図 6-1　現在住んでいる地域は住みやすいか



経年変化（図 6-2）でみると、令和 8 年は、前年に比べて「満足層」(「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）が 2.9 ポイント減少し、「不満層」(「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」）が 2.5 ポイント増加している。

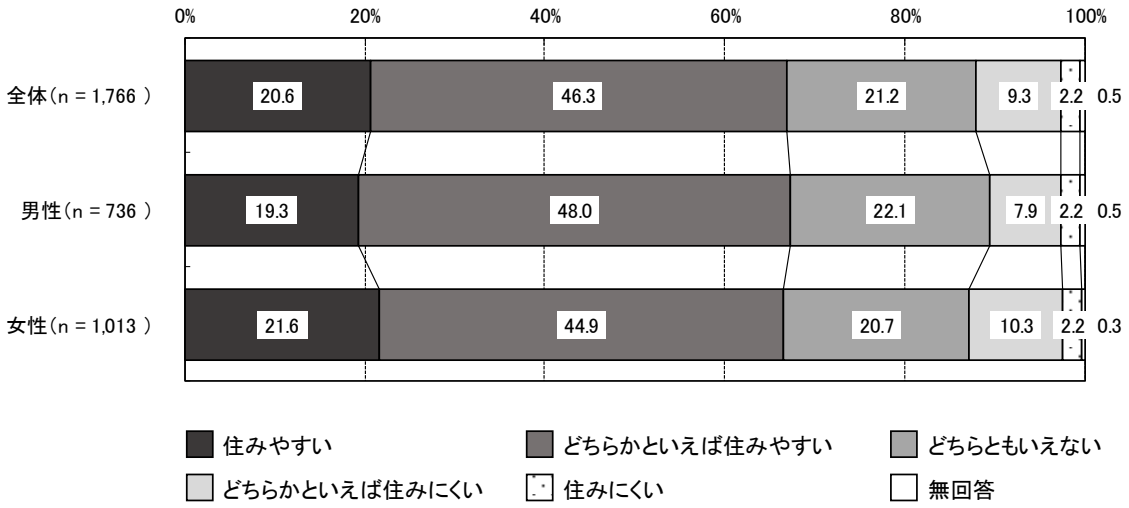
図 6-2【経年変化】現在住んでいる地域は住みやすいか



※　平成 21 年度から調査

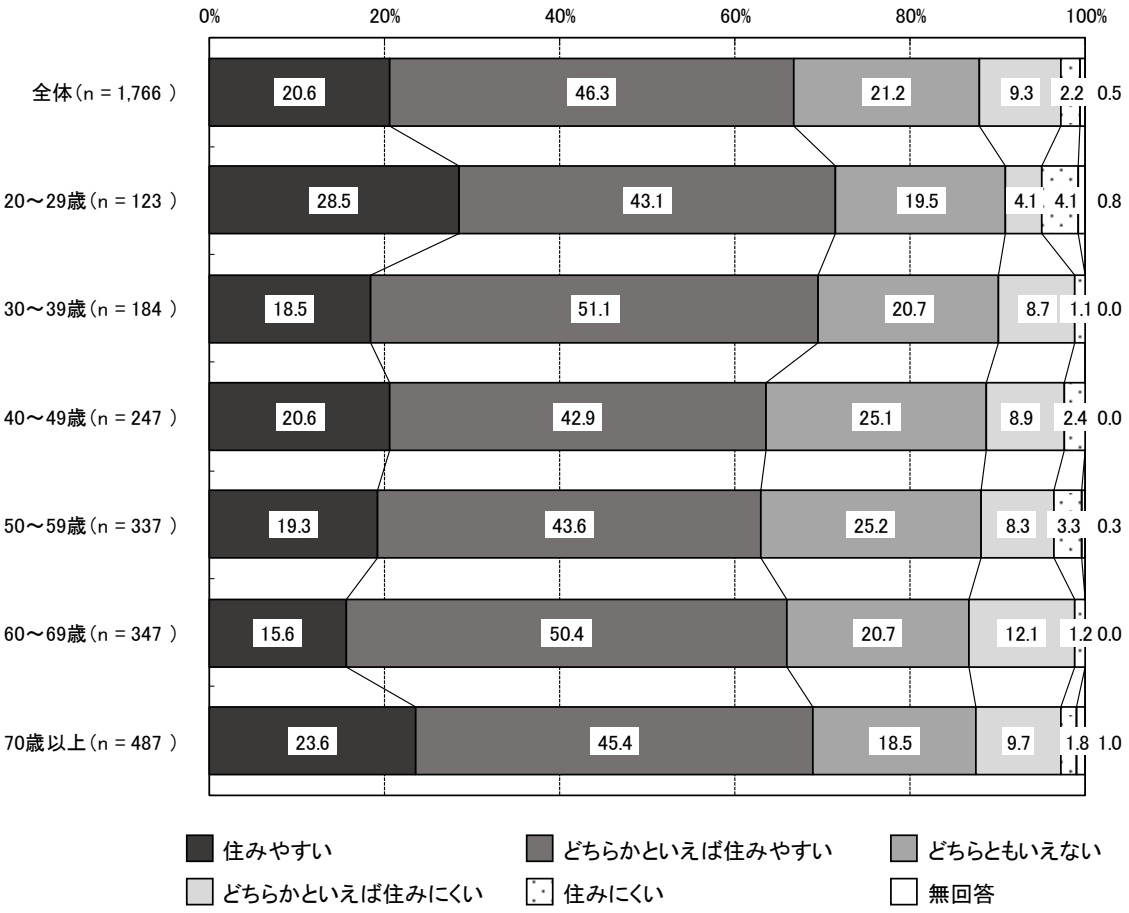
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 48.0%、女性が 44.9%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



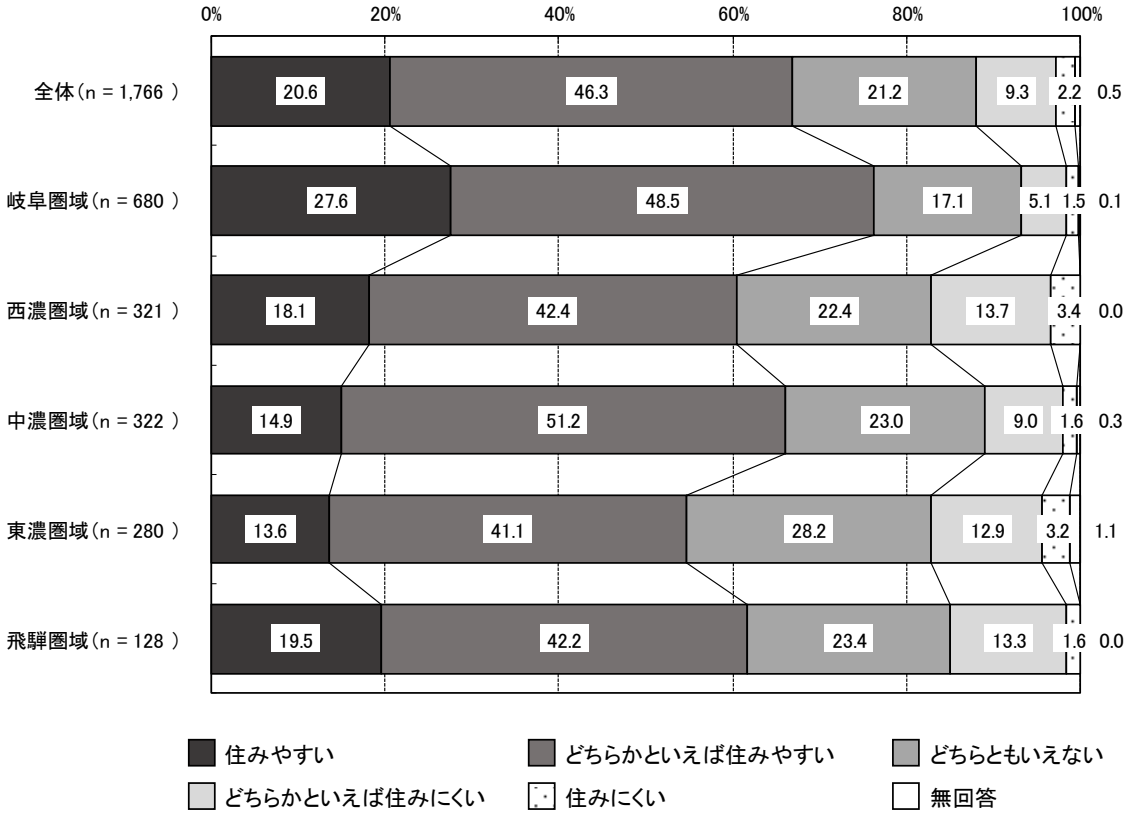
年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



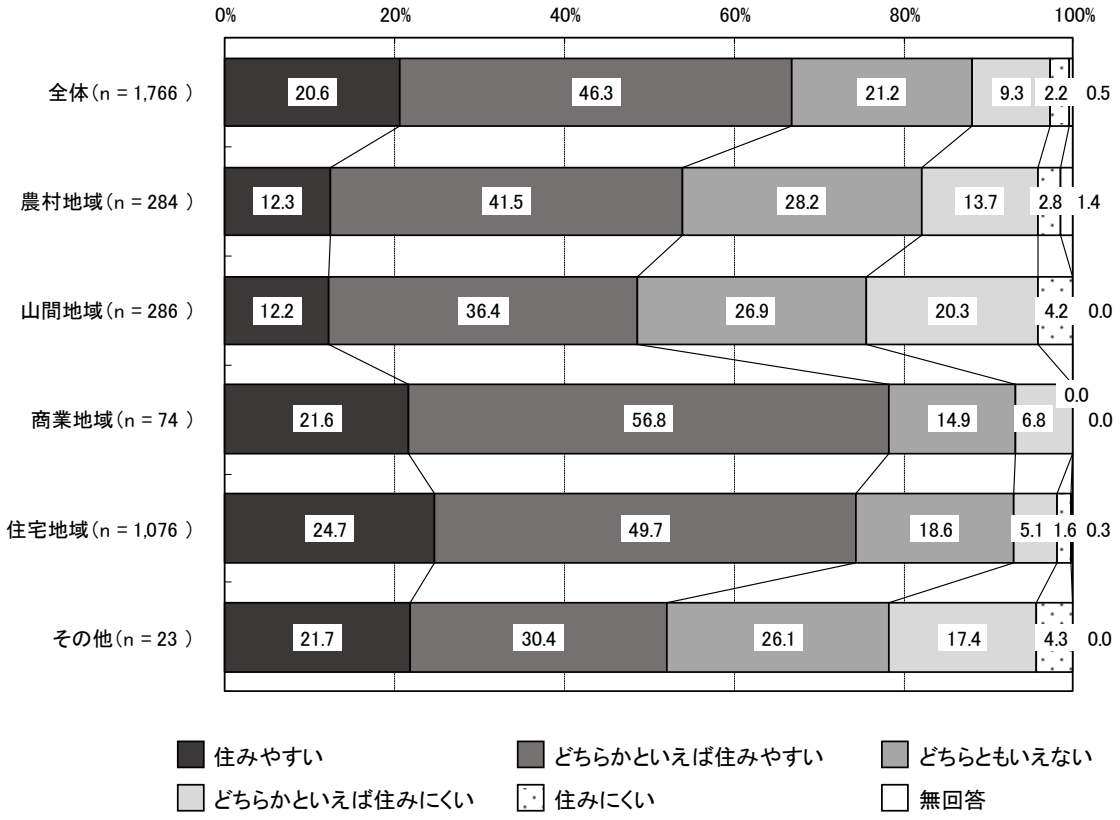
居住圏域別（図 6-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。山間地域では「不満層」（「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」）が 24.5%と、他の居住環境に比べて高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか

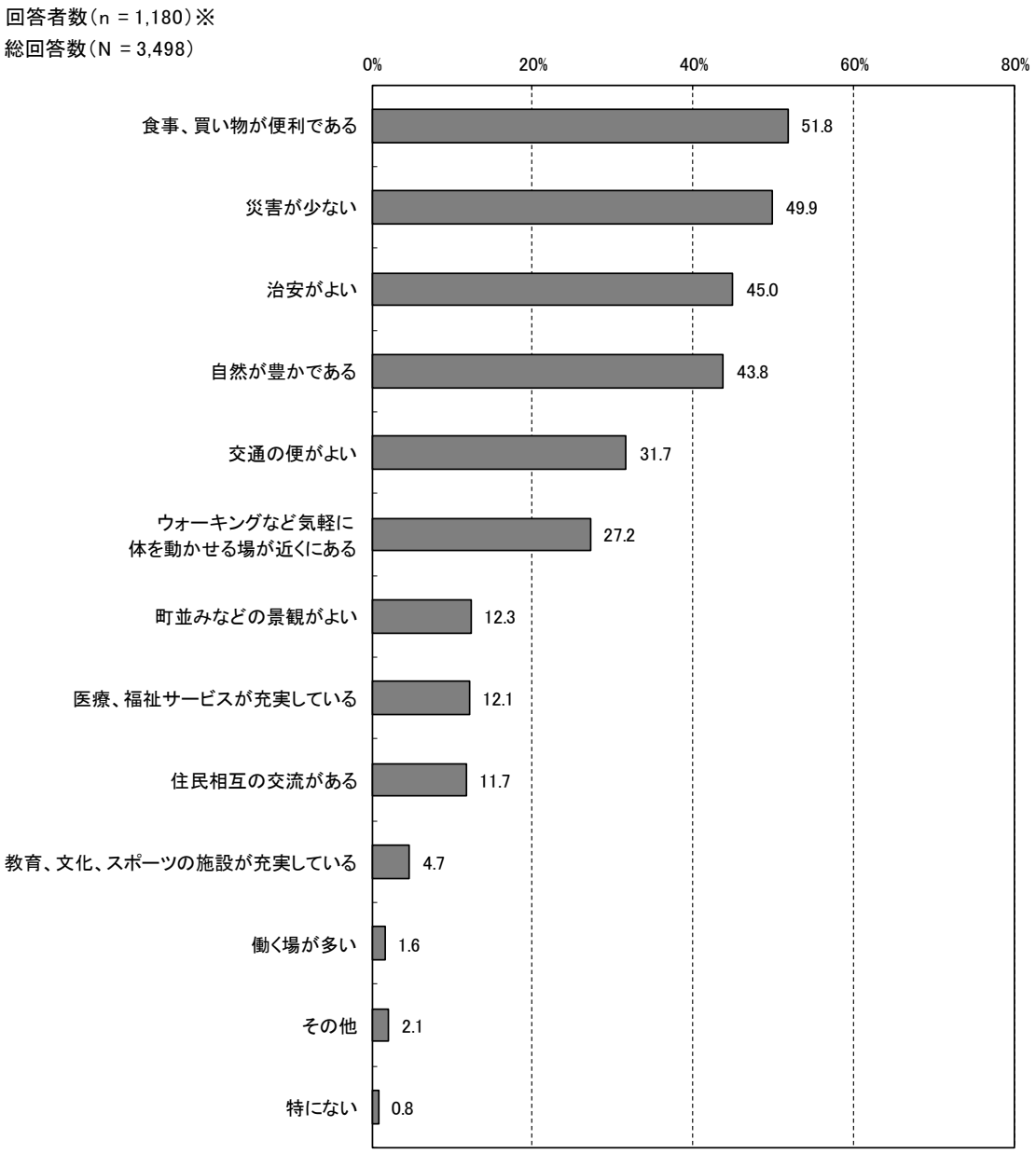


問６－２　住んでいる地域が住みやすいと感じる点

問６－２　「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。あなたが、現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図 6-2-1）でみると、「食事、買い物が便利である」が 51.8%と最も高く、次いで「災害が少ない」（49.9%）、「治安がよい」（45.0%）、「自然が豊かである」（43.8%）の順となっている。

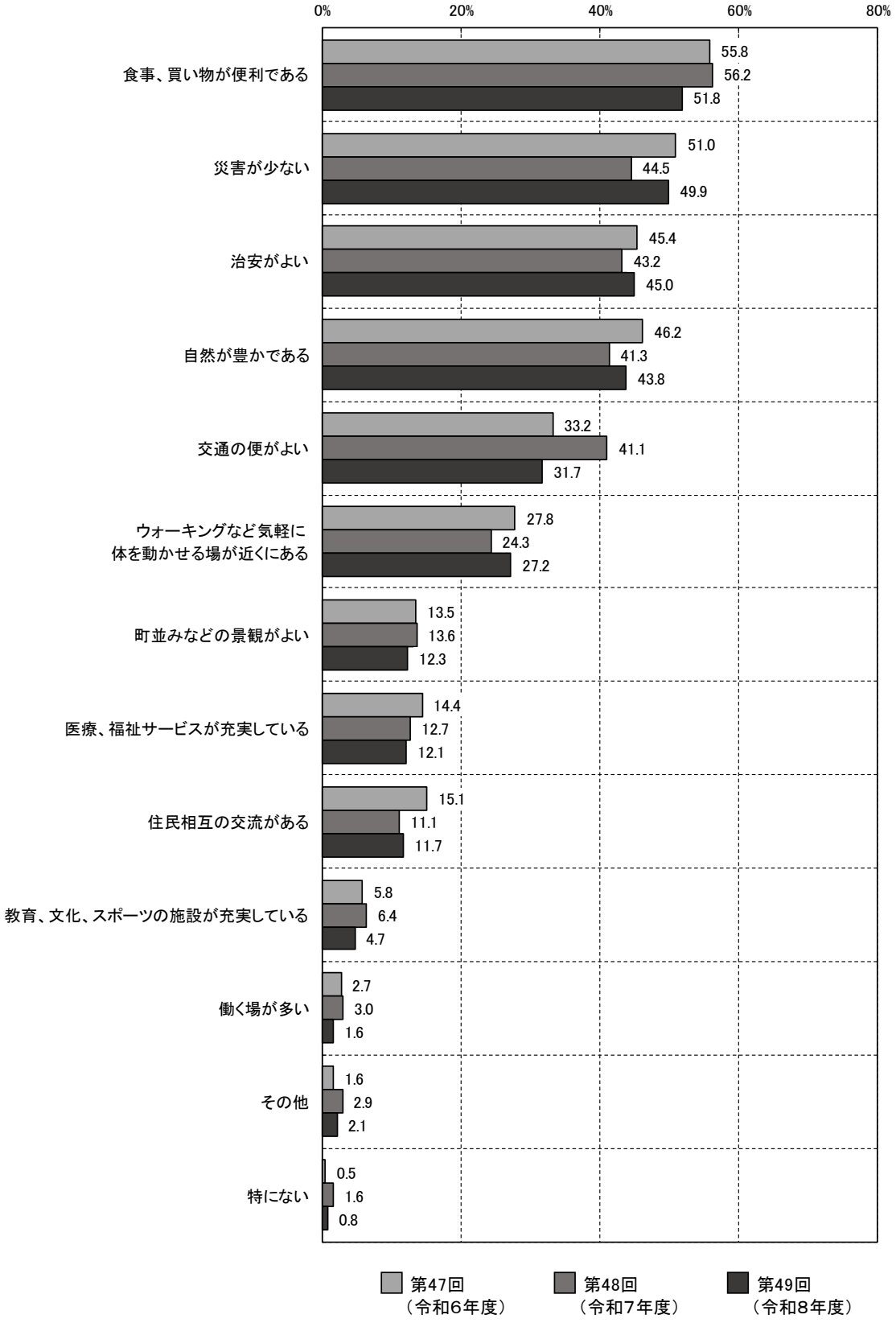
図 6-2-1　住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※　問 6 で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

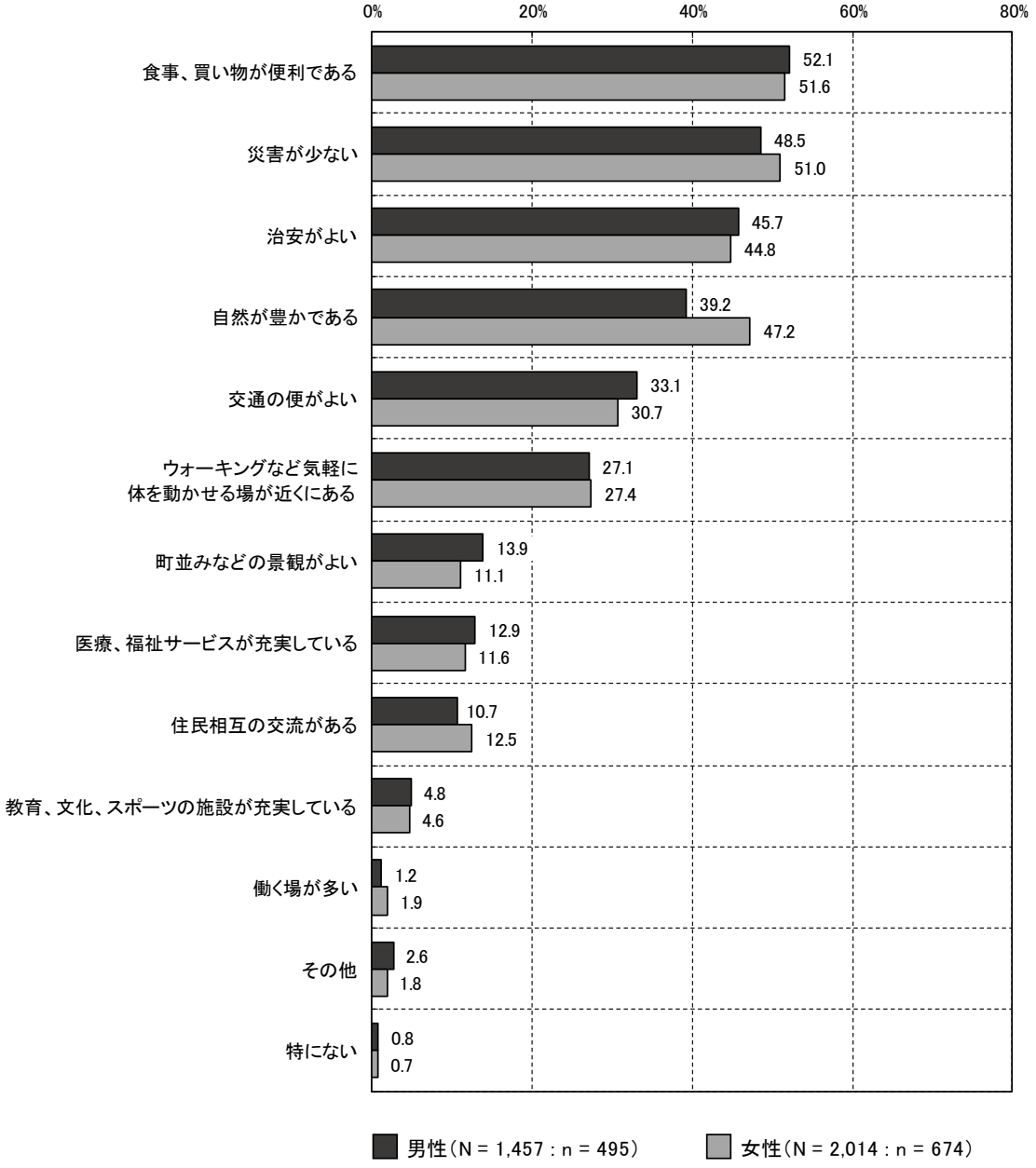
前々回・前回比較（図 6-2-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「食事、買い物が便利である」が最も高くなっている。前回に比べて、「災害が少ない」は 5.4 ポイント増加し、「交通の便がよい」は 9.4 ポイント減少している。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高く、男性が 52.1%、女性が 51.6%となっている。次いで「災害が少ない」の順となっている。また、「自然が豊かである」は女性が男性より 8.0 ポイント高くなっている。

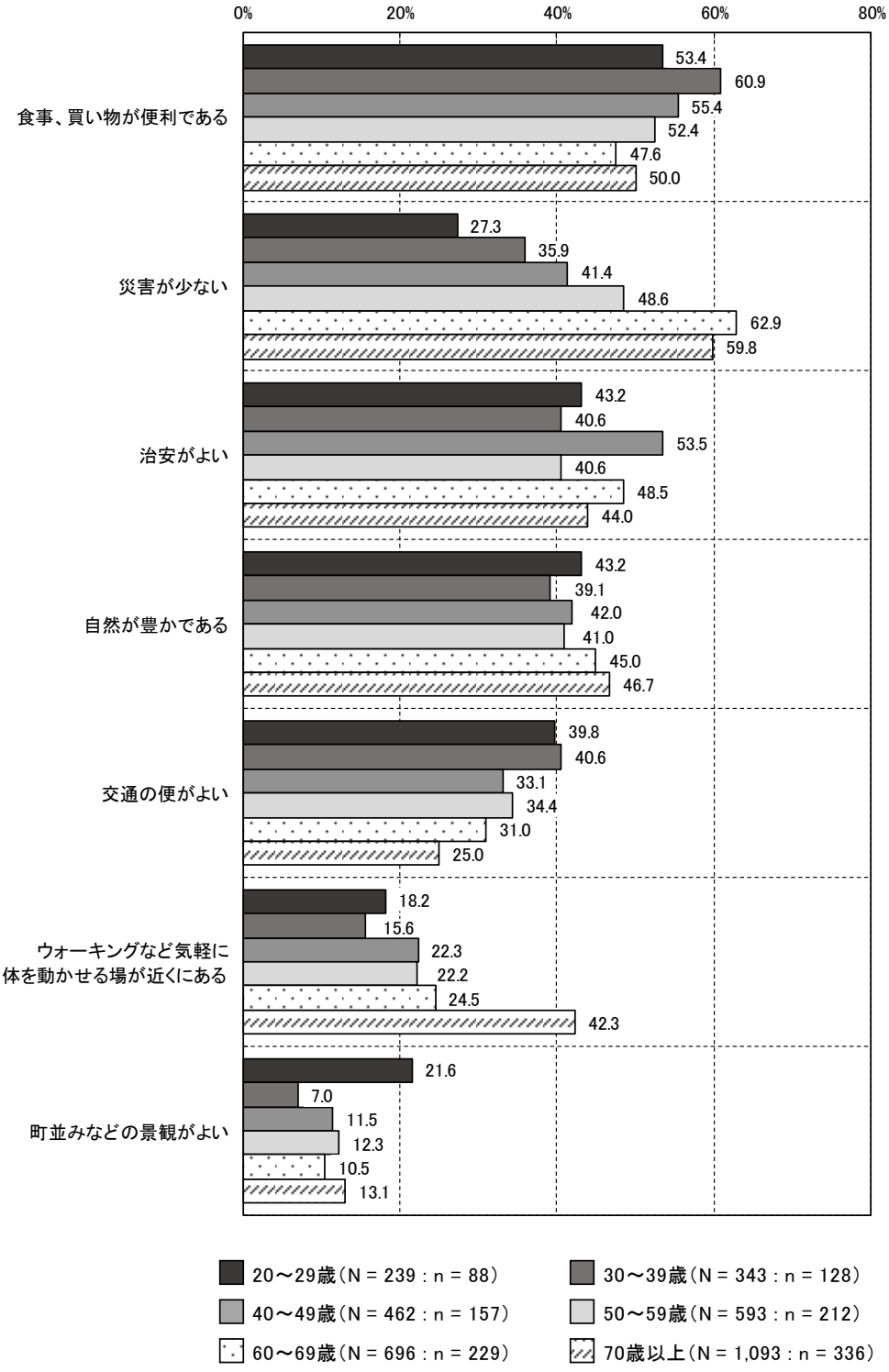
図 6-2-3 【性別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

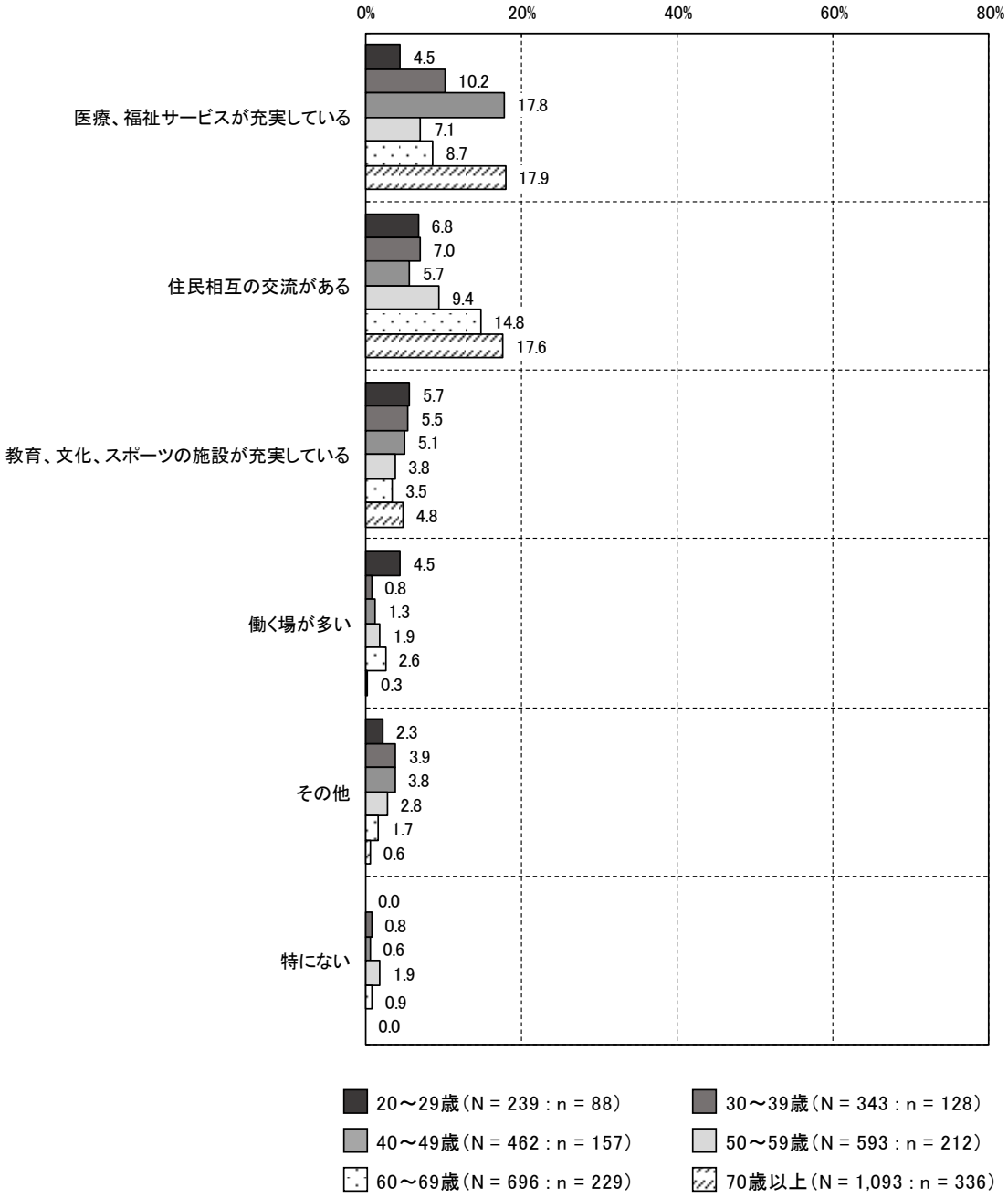
年代別（図 6-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「食事、買い物が便利である」が最も高く、60 歳代、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高くなっている。40 歳代では「治安がよい」、70 歳以上では「ウォーキングなど気軽に体を動かせる場が近くにある」が他の年代に比べて高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

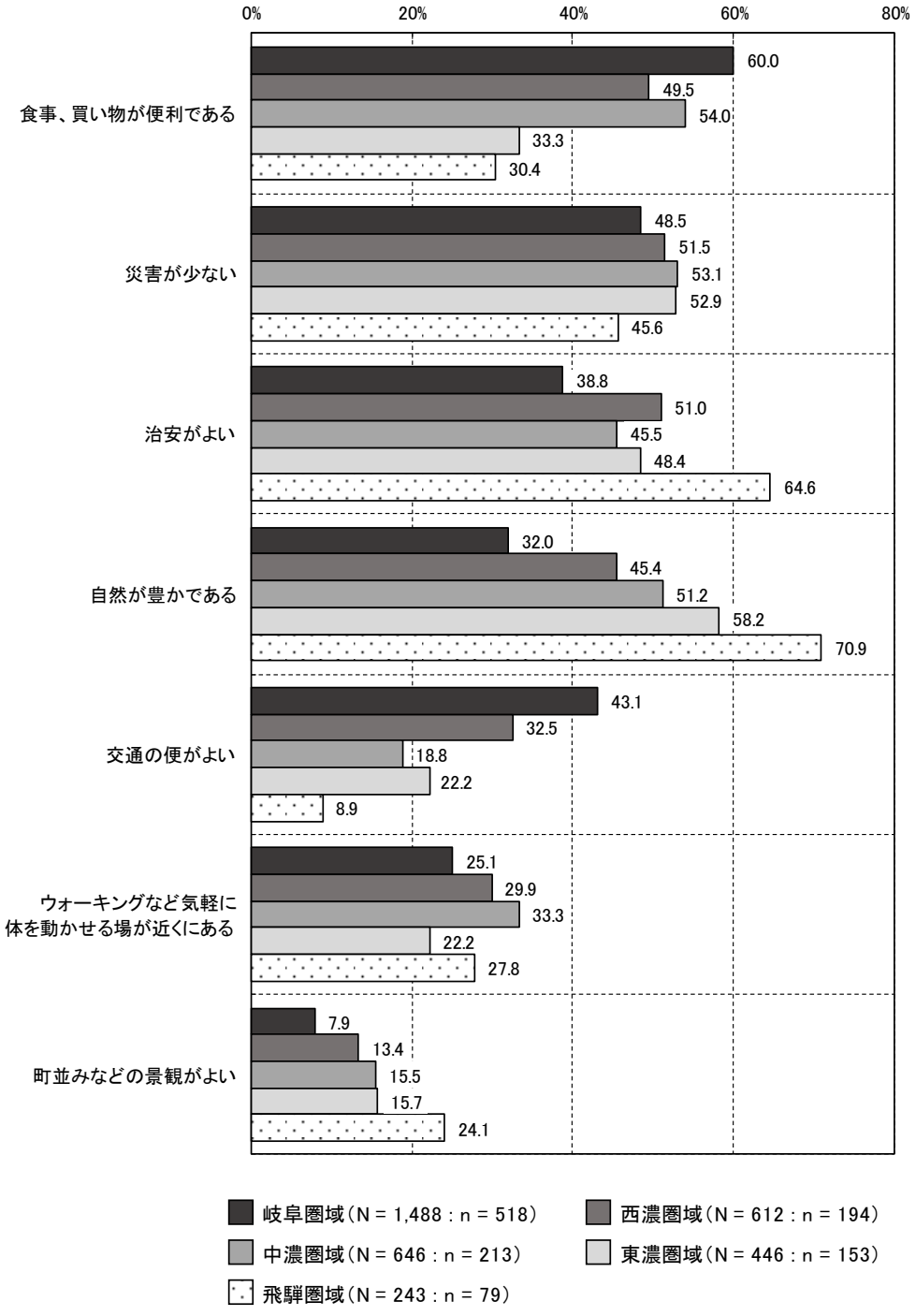
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

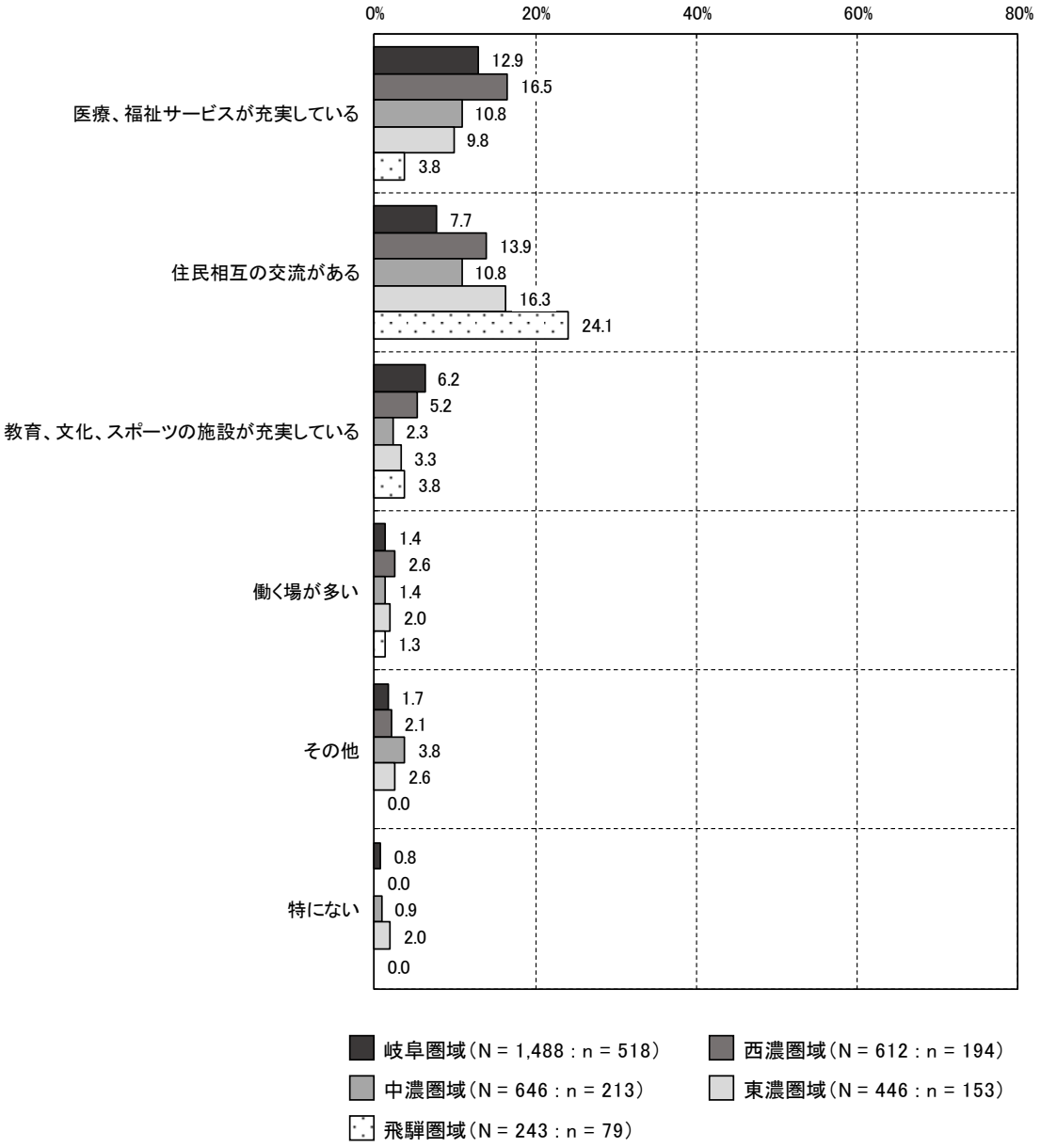
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域、中濃圏域では「食事、買い物が便利である」、西濃圏域では「災害が少ない」、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）



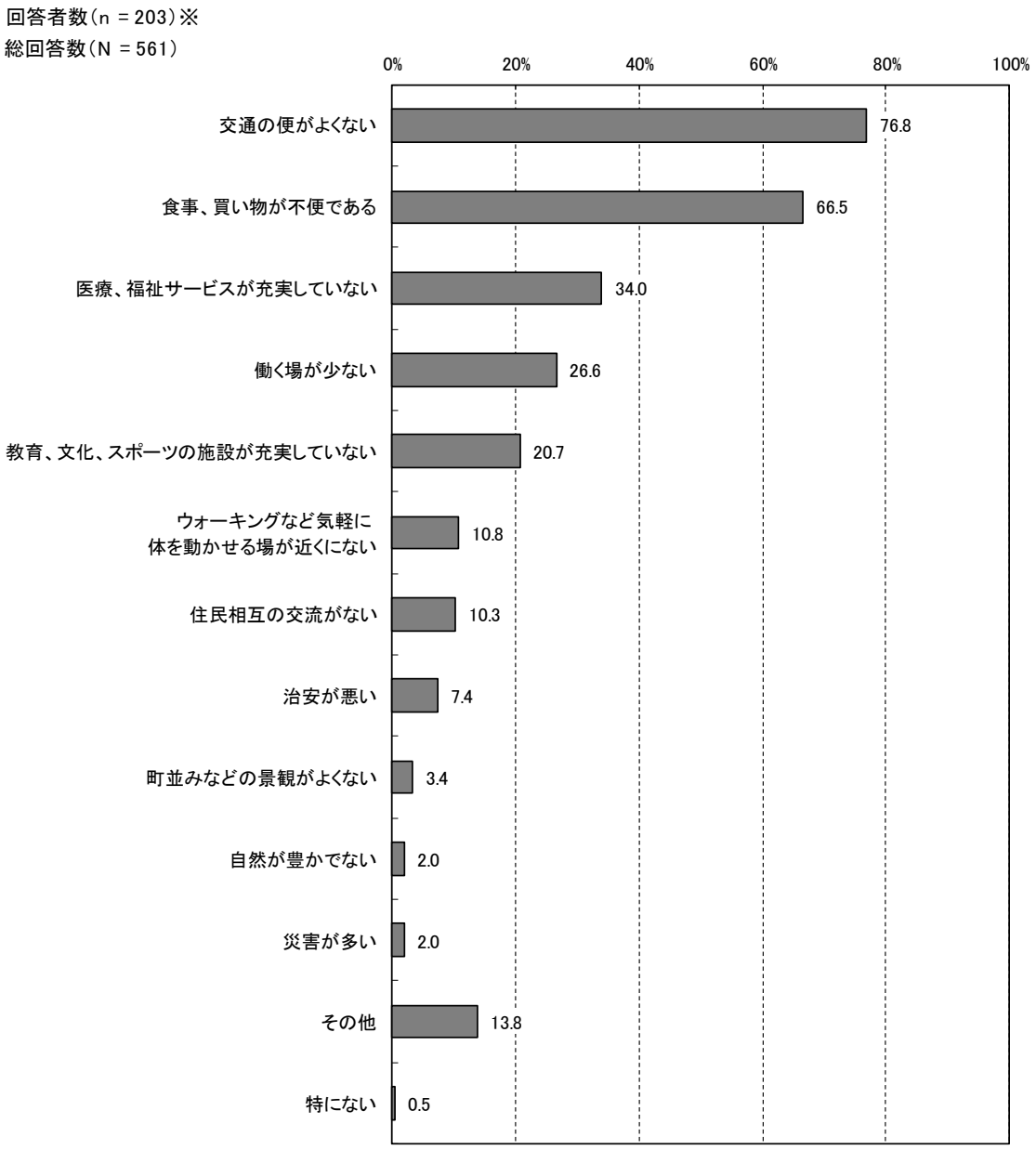
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問６－３　住んでいる地域が住みにくいと感じる点

問６－３　「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。あなたが、現在お住まいの地域が住みにくいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図 6-3-1）でみると、「交通の便がよくない」が 76.8%と最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」（66.5%）、「医療、福祉サービスが充実していない」（34.0%）の順となっている。

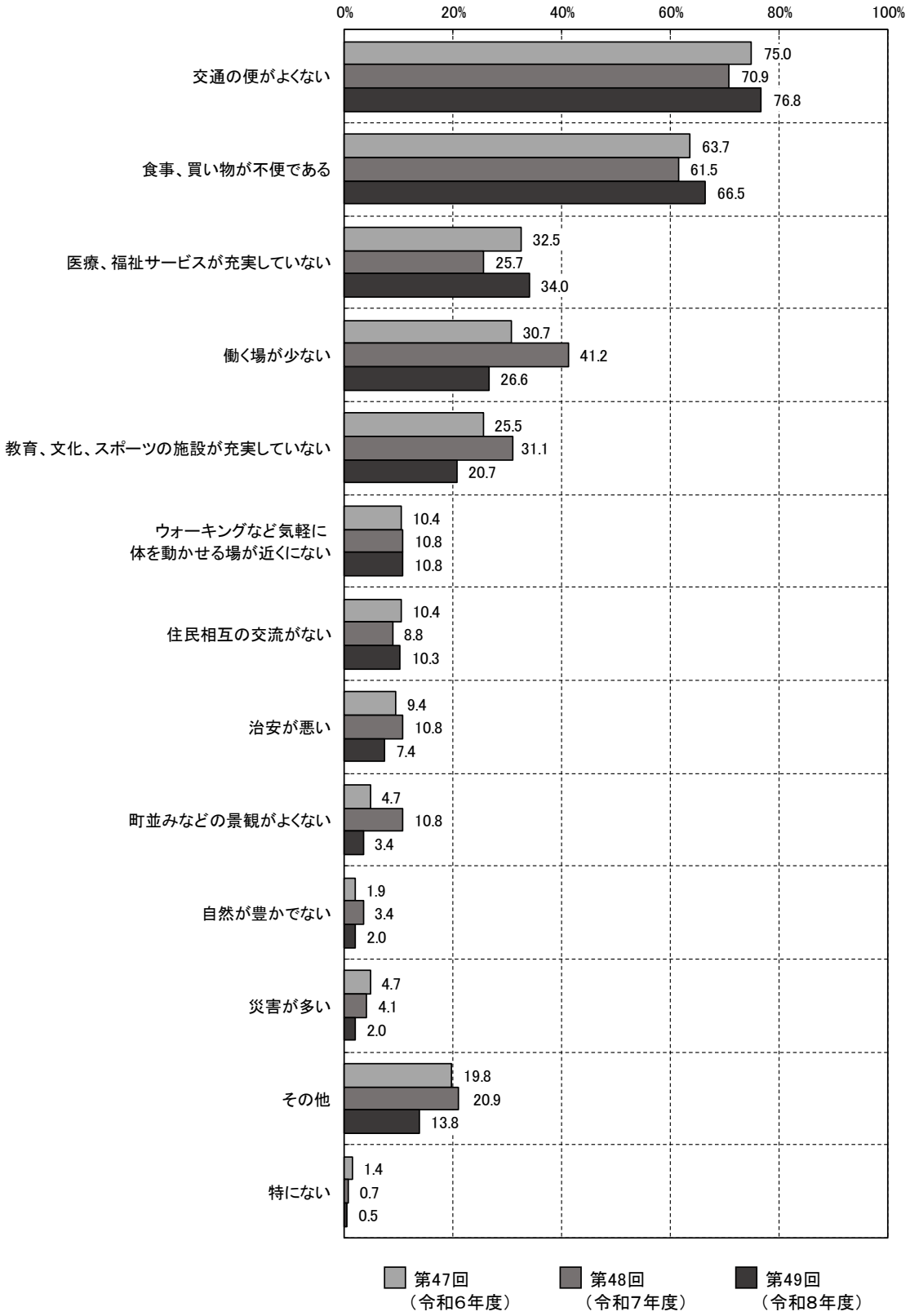
図 6-3-1　住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※　問 6 で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

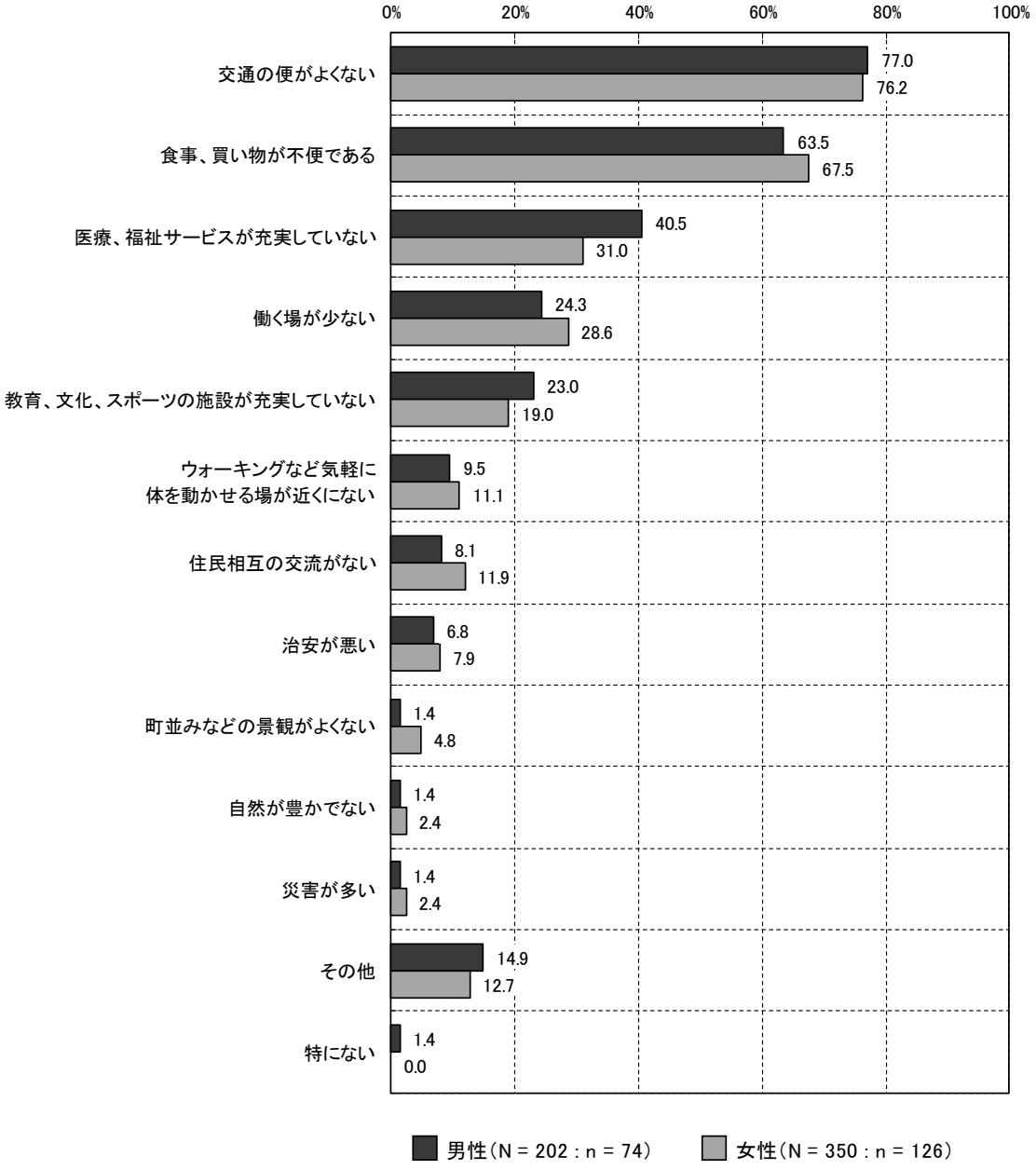
前々回・前回比較（図 6-3-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「交通の便がよくない」が最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」の順となっている。前回に比べて、「医療、福祉サービスが充実していない」は 8.3 ポイント、「交通の便がよくない」は 5.9 ポイントそれぞれ増加し、「働く場が少ない」は 14.6 ポイント、「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」は 10.4 ポイントそれぞれ減少している。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別(図 6-3-3)でみると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高く、男性が 77.0%、女性が 76.2%となっている。「医療、福祉サービスが充実していない」は男性が女性より 9.5 ポイント高くなっている。

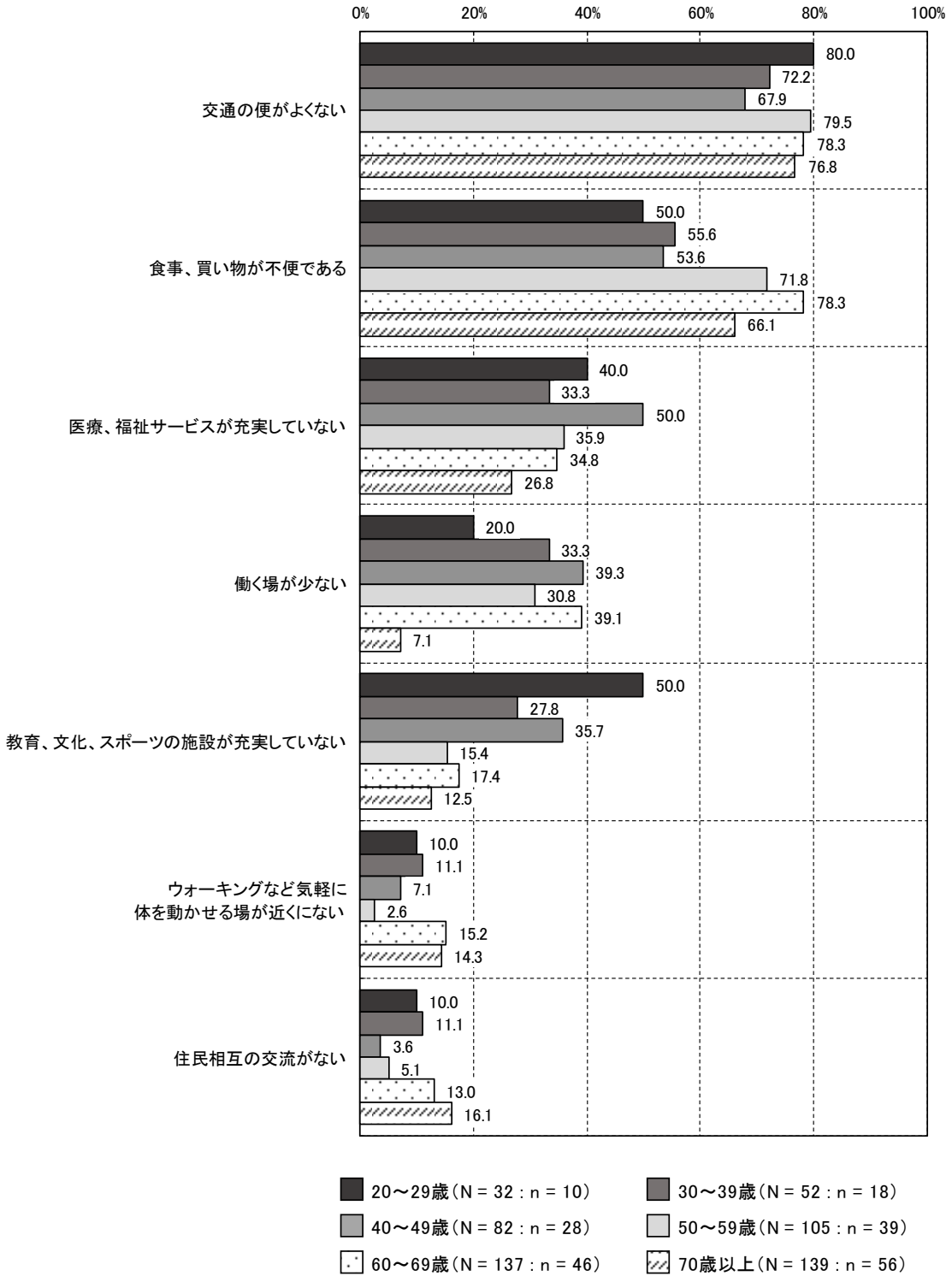
図 6-3-3 【性別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

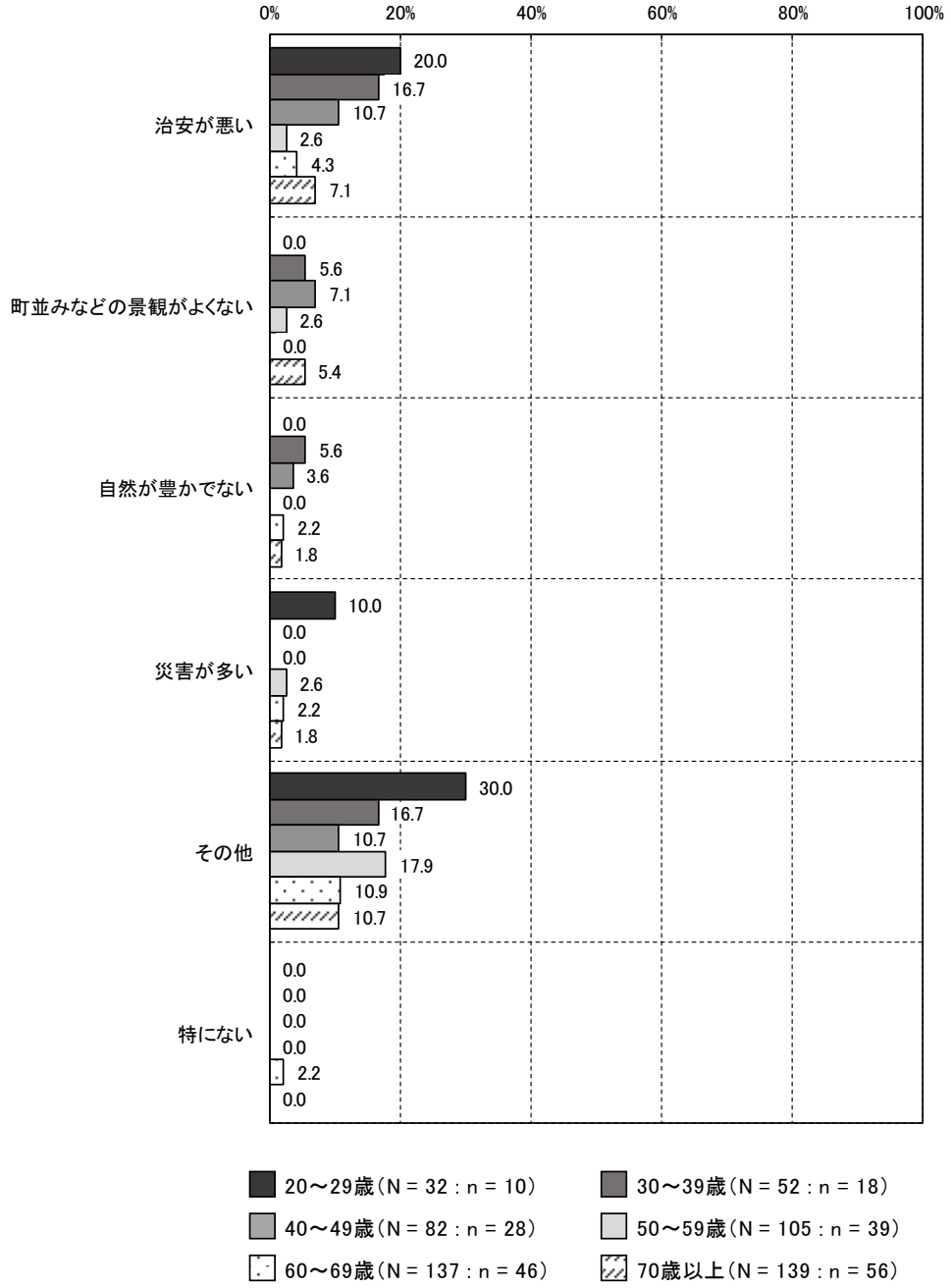
年代別（図 6-3-4）でみると、いずれの年代においても「交通の便がよくない」が最も高くなっている（60 歳代では「食事、買い物が不便である」が同率）。20 歳代では「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」、40 歳代では「医療、福祉サービスが充実していない」が他の年代に比べて高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

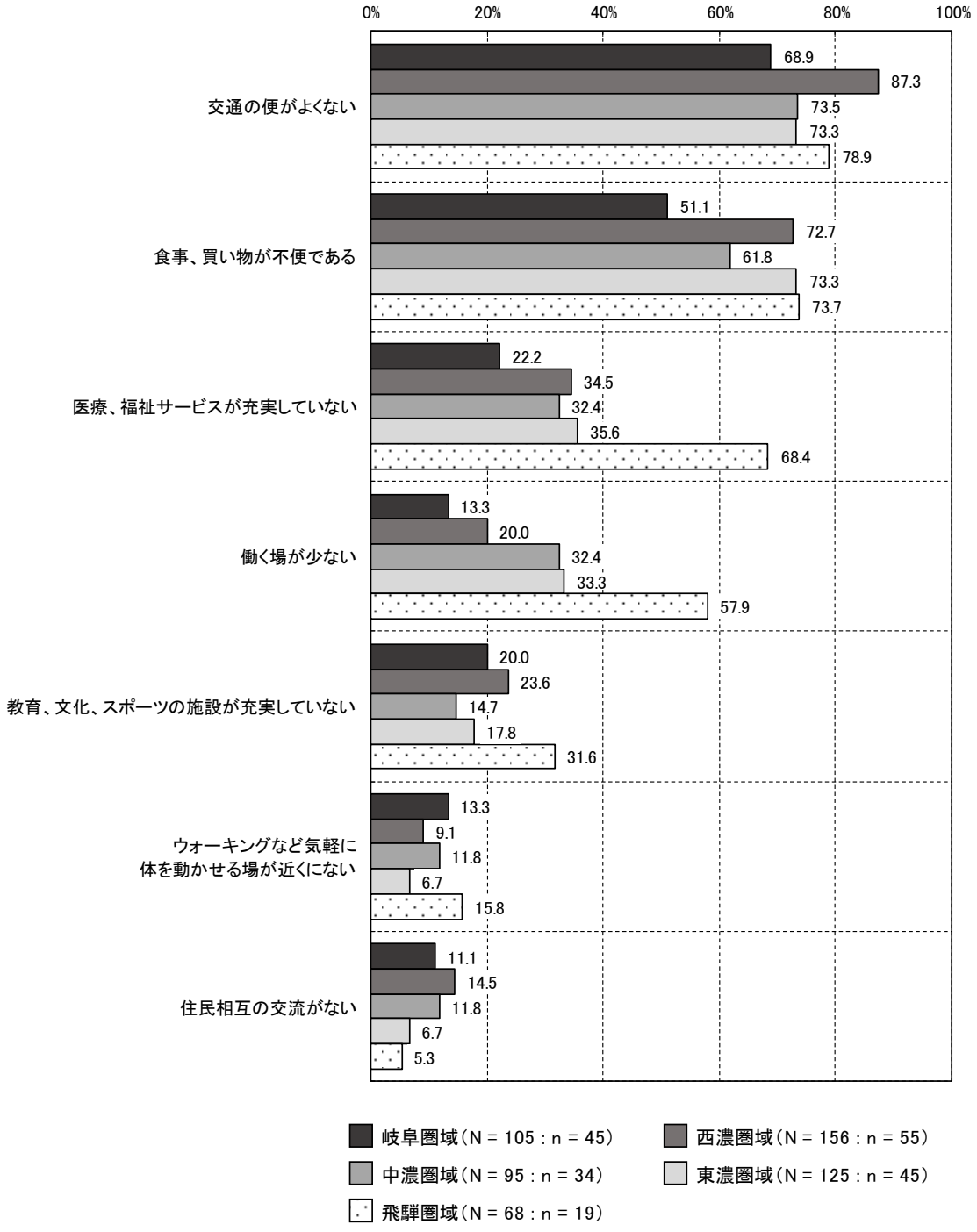
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

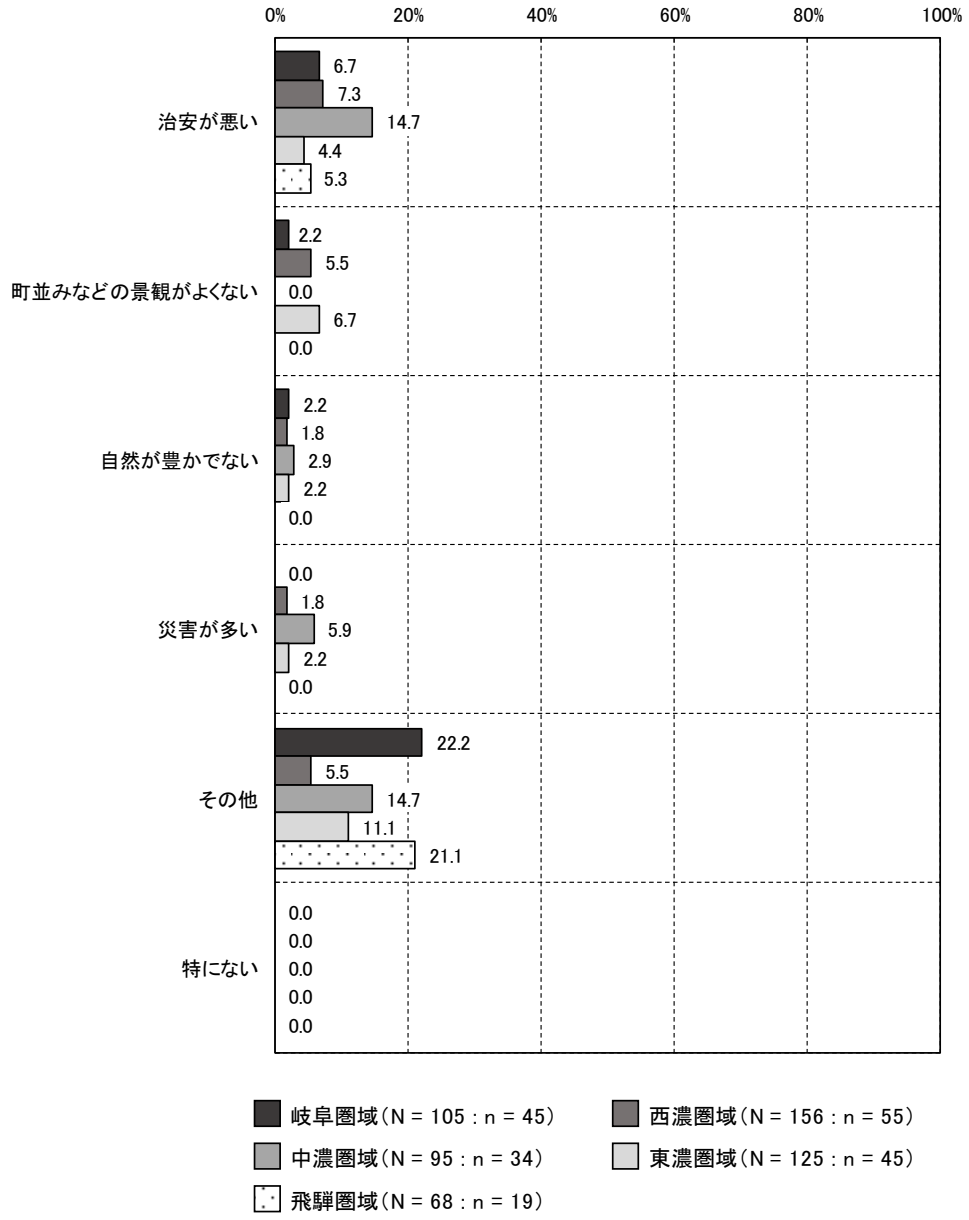
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「交通の便がよくない」が最も高くなっている（東濃圏域では「食事、買い物が不便である」が同率）。また、飛騨圏域では「医療、福祉サービスが充実していない」「働く場が少ない」が他の居住圏域に比べて高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）



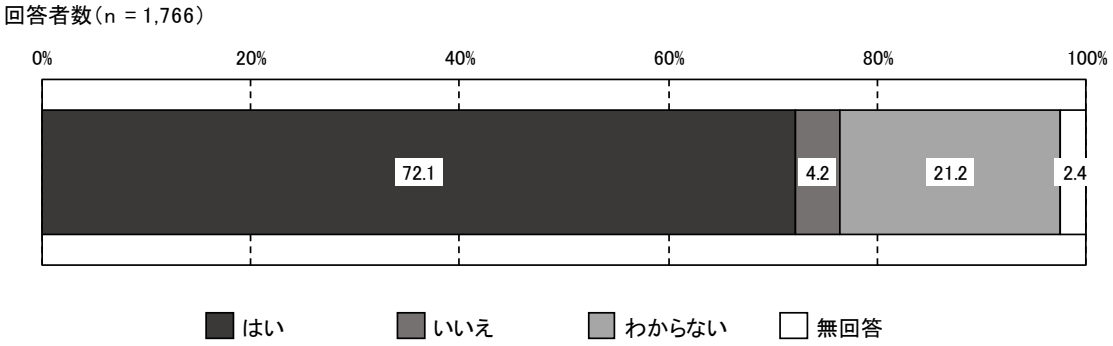
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問７　今後も岐阜県に住み続けたいか

問７　あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。（１つだけ）

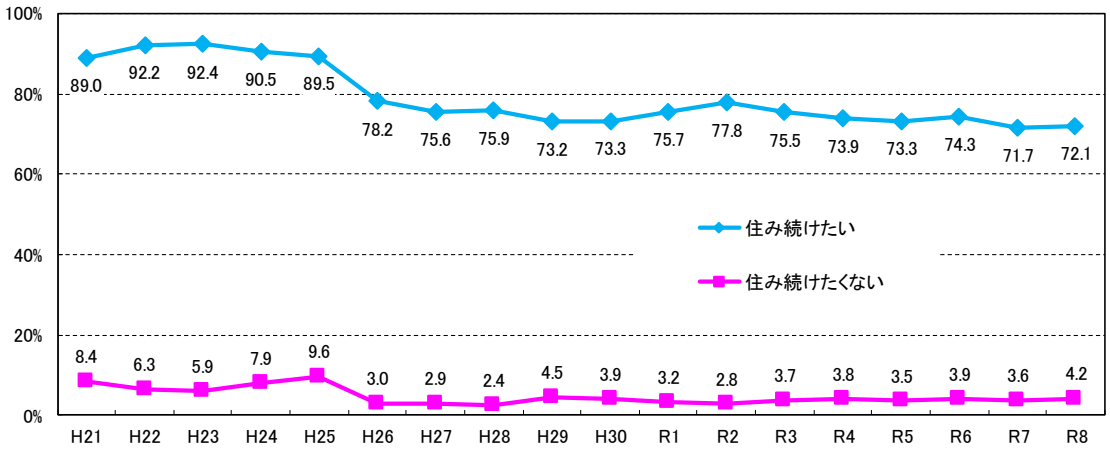
全体（図 7-1）でみると、「はい」が 72.1%と最も高くなっている。

図 7-1　今後も岐阜県に住み続けたいか



経年変化（図 7-2）でみると、令和８年は、前年に比べて「住み続けたい」が 0.4 ポイント増加、「住み続けたくない」が 0.6 ポイント増加している。

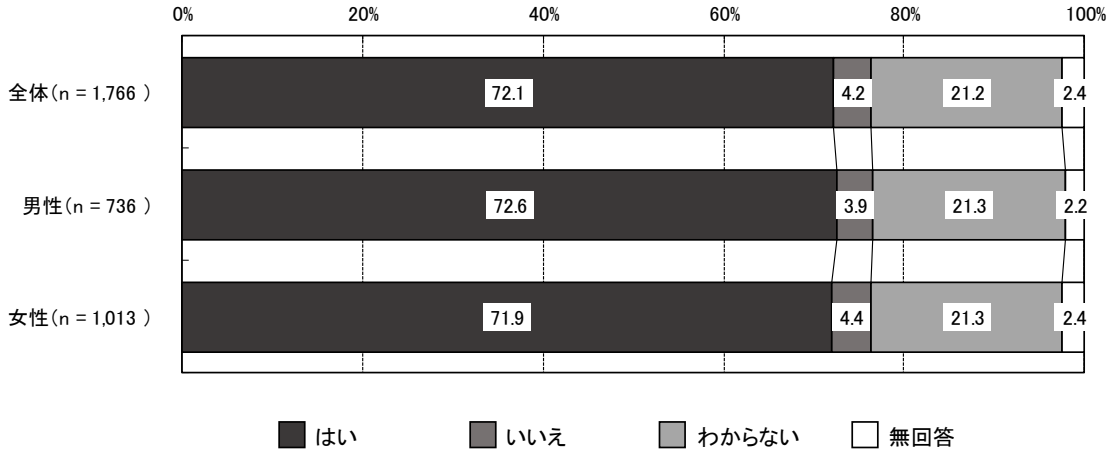
図 7-2【経年変化】今後も岐阜県に住み続けたいか



※　平成 21 年度から調査

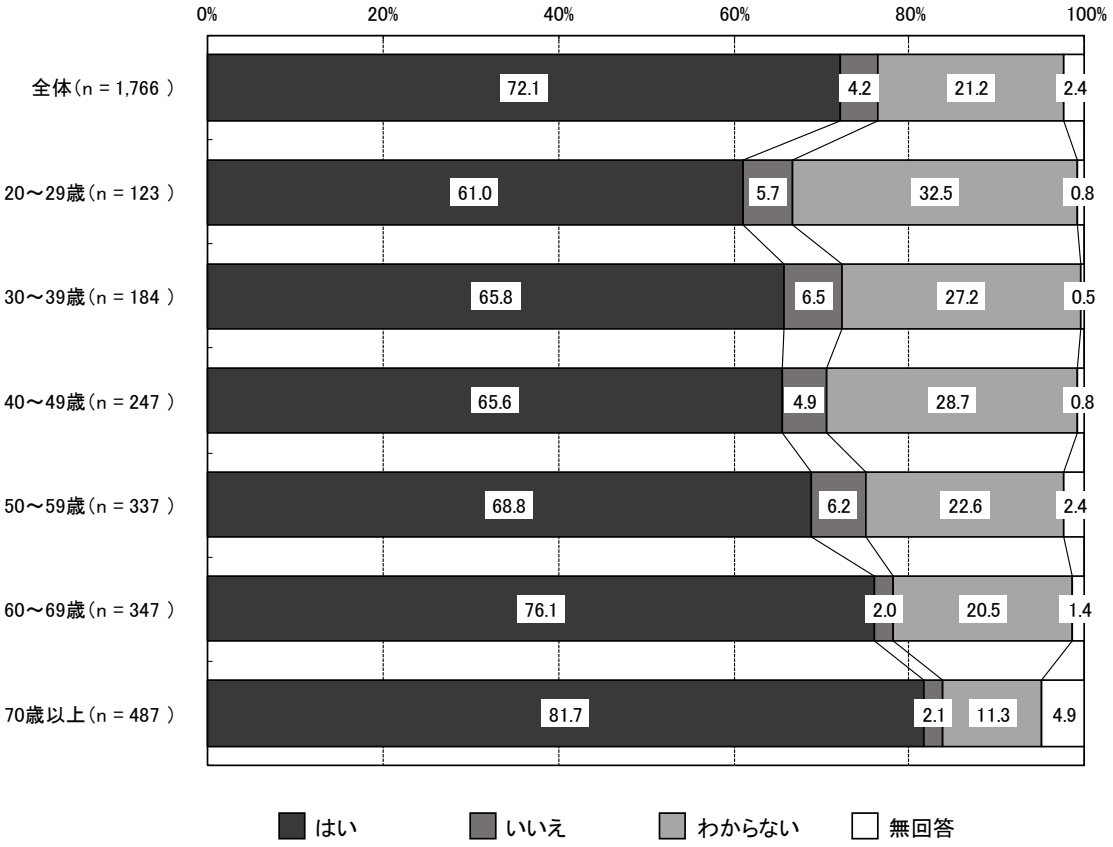
性別（図 7-3）でみると、男女ともに「はい」が最も高く、男性が 72.6%、女性が 71.9%となっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



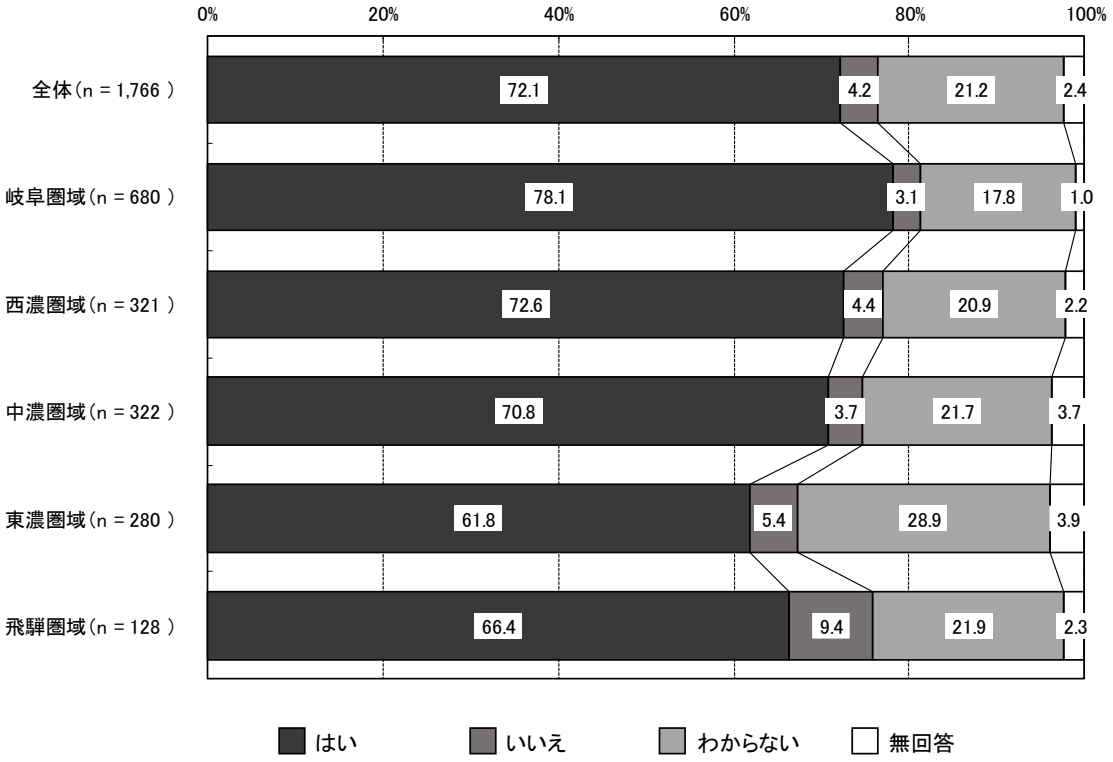
年代別（図 7-4）でみると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 81.7%と最も高くなっている。

図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



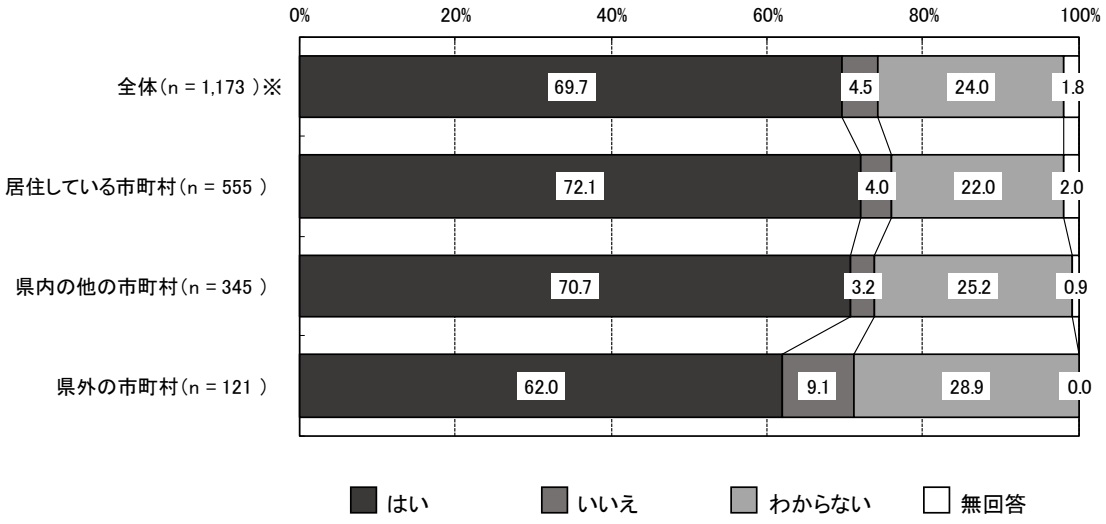
居住圏域別（図 7-5）でみると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 78.1%と最も高くなっている。

図 7-5【居住圏域別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



通勤、通学先別（図 7-6）でみると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち居住している市町村が 72.1%と最も高くなっている。

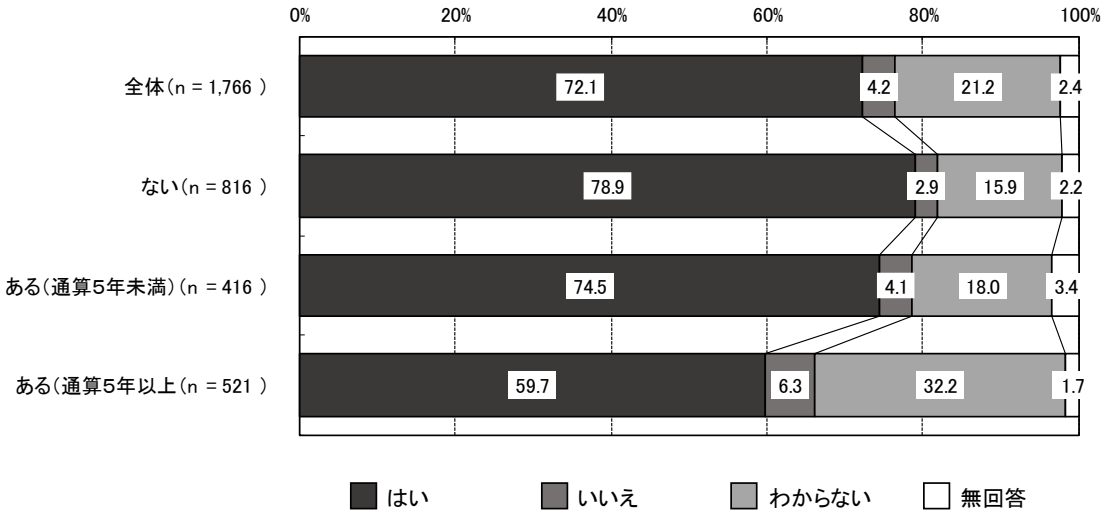
図 7-6【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



※「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

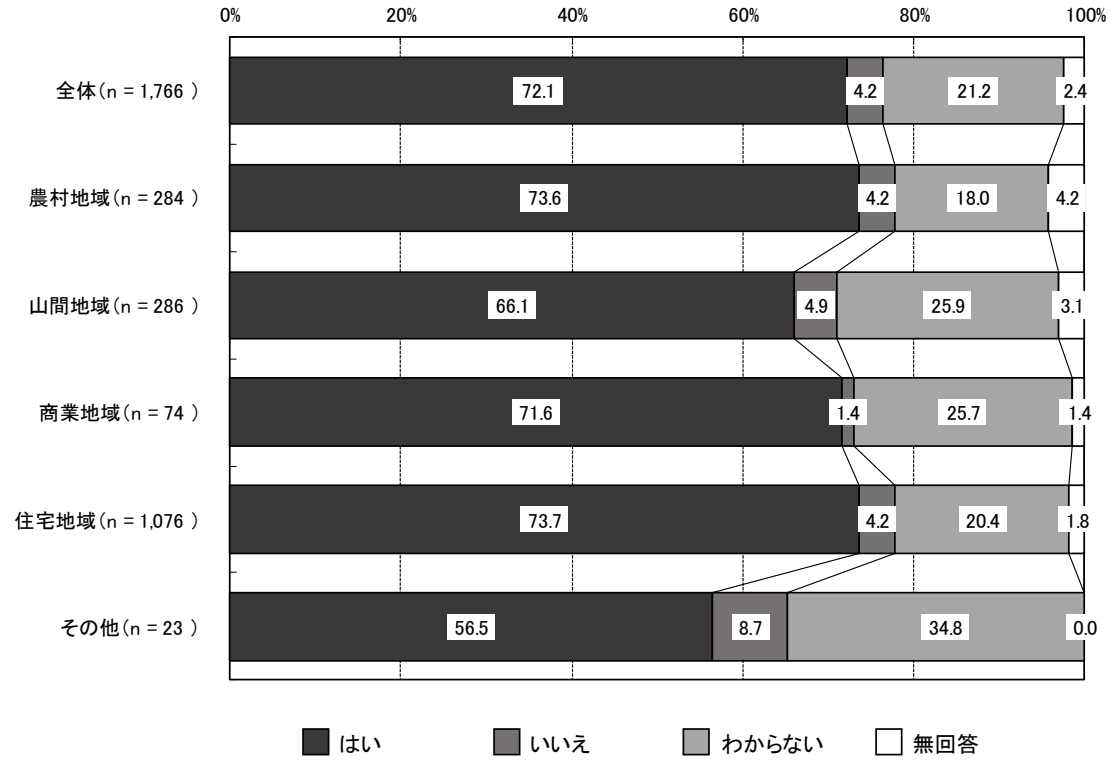
県外居住経験の有無別（図 7-7）でみると、県外居住経験がない人は「はい」が 78.9%と、ある人より高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



居住環境別（図 7-8）でみると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高く、そのうち住宅地域が 73.7%と最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



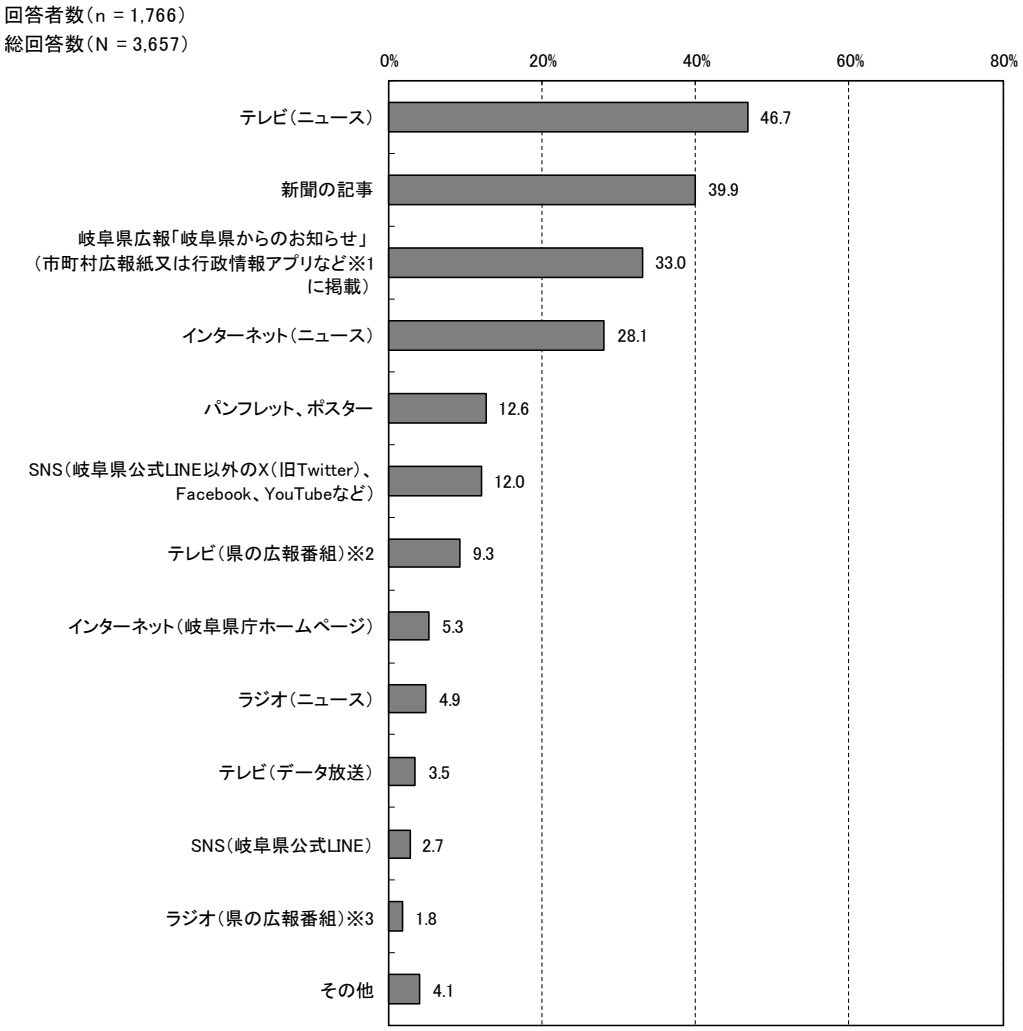
２．２　県の取組み全般について

問８　施策や事業についての情報の入手方法

問８　あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。（いくつでも）

全体（図 8-1）でみると、「テレビ（ニュース）」が 46.7％と最も高く、次いで「新聞の記事」（39.9％）、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（33.0％）の順となっている。

図 8-1　施策や事業についての情報の入手方法



※1　行政情報アプリなど：行政情報アプリ「マチイロ」
広報紙配信サービス「マイ広報紙」
電子書籍ポータルサイト「Gifu ebooks」

※2　テレビ（県の広報番組）：ぎふチャン（岐阜放送）「ワクワク Navi＃岐阜県広報」「ぎふ県だより」

※3　ラジオ（県の広報番組）：エフエム岐阜「GIFU インフォメーション」「ギフトピ」
ぎふチャン（岐阜放送）「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

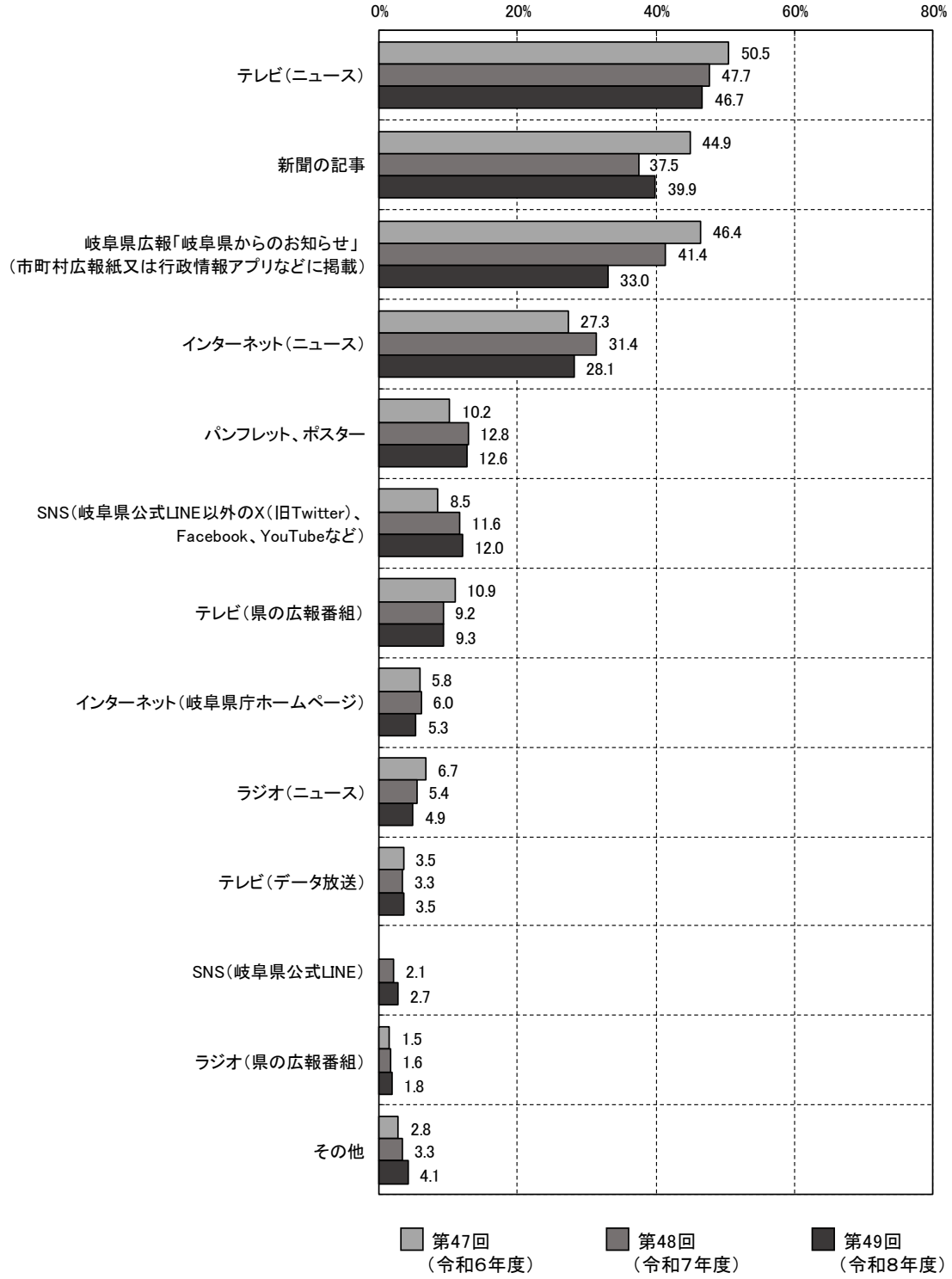
※　本問における選択肢「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」（市町村広報紙又は行政情報アプリなどに掲載）」は、前回調査「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」（市町村広報紙、地域情報誌（フリーペーパー）又は行政情報アプリなどに掲載）」より変更

※　本問における選択肢「SNS（岐阜県公式 LINE 以外の X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube など）」は、前々回調査「フェイスブック、X（旧 Twitter）などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」より変更

※　本問における選択肢「SNS（岐阜県公式 LINE）」は前回調査より新設

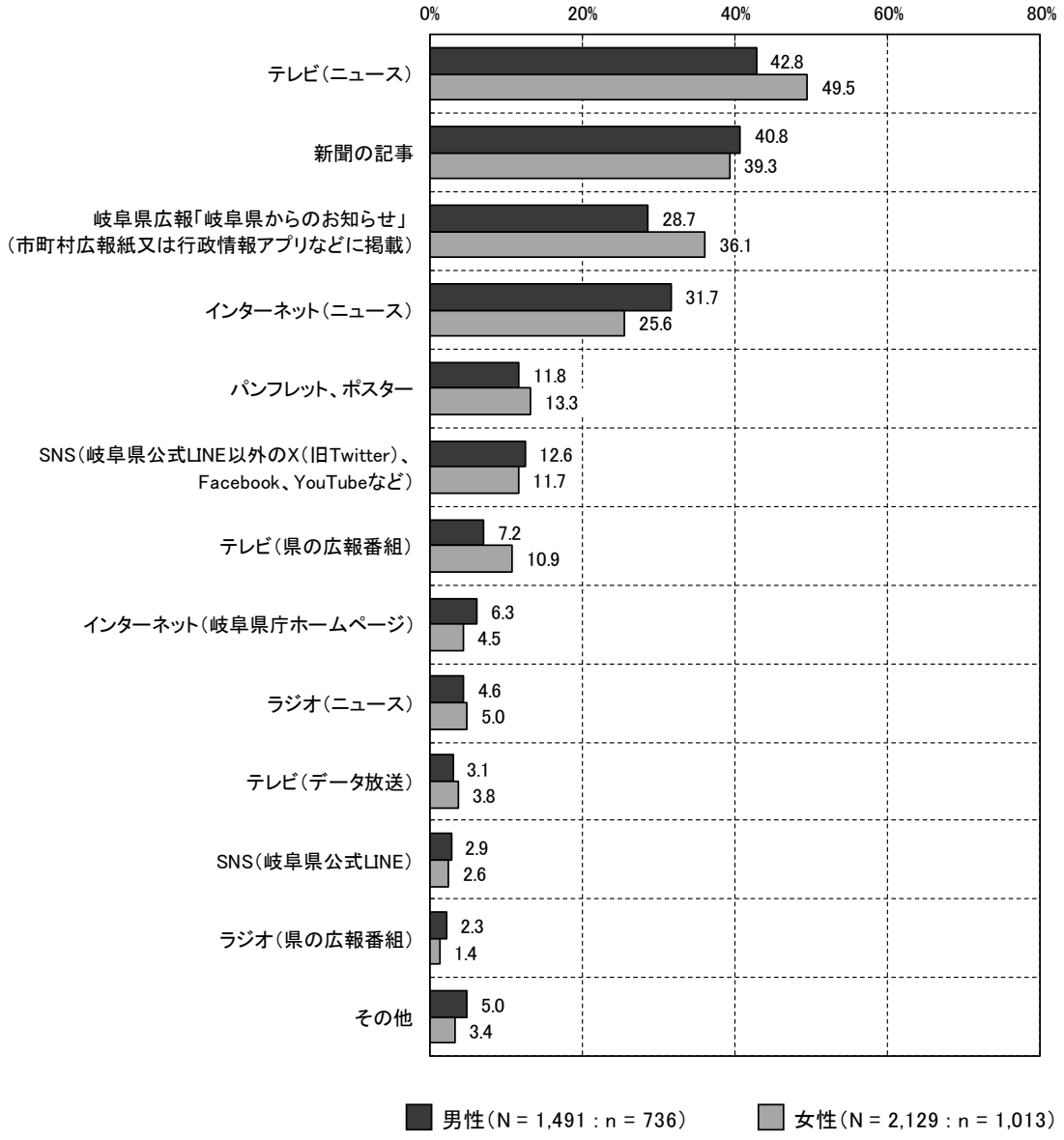
前々回・前回比較（図 8-2）でみると、前々回・前回・今回と一貫して「テレビ（ニュース）」が最も高くなっている。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）でみると、男女ともに「テレビ（ニュース）」が最も高く、男性が 42.8%、女性が 49.5%と女性が男性より 6.7 ポイント高くなっている。また、「インターネット（ニュース）」では男性が女性より 6.1 ポイント高く、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」では女性が男性より 7.4 ポイント高くなっている。

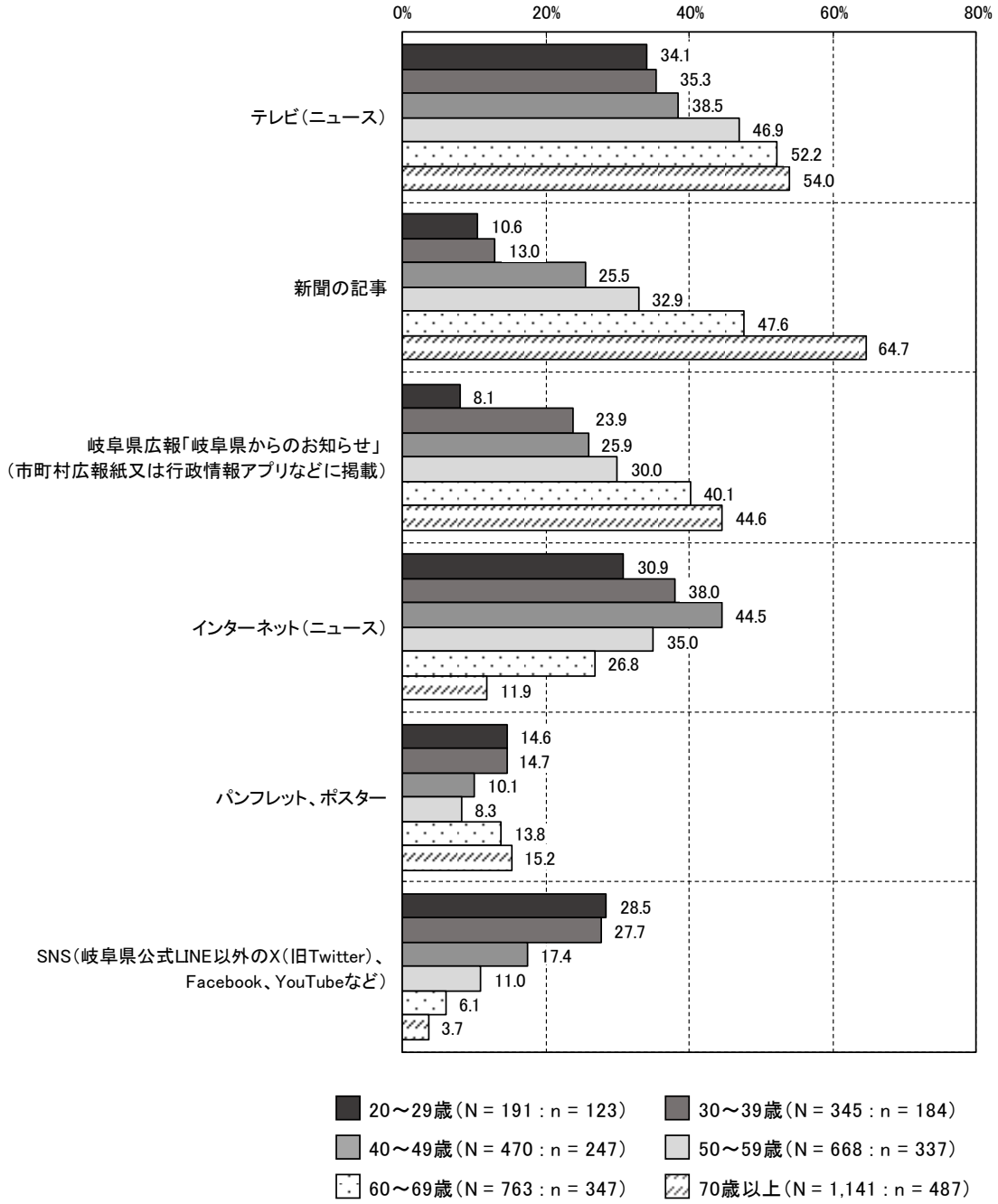
図 8-3【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数 n＝回答者数

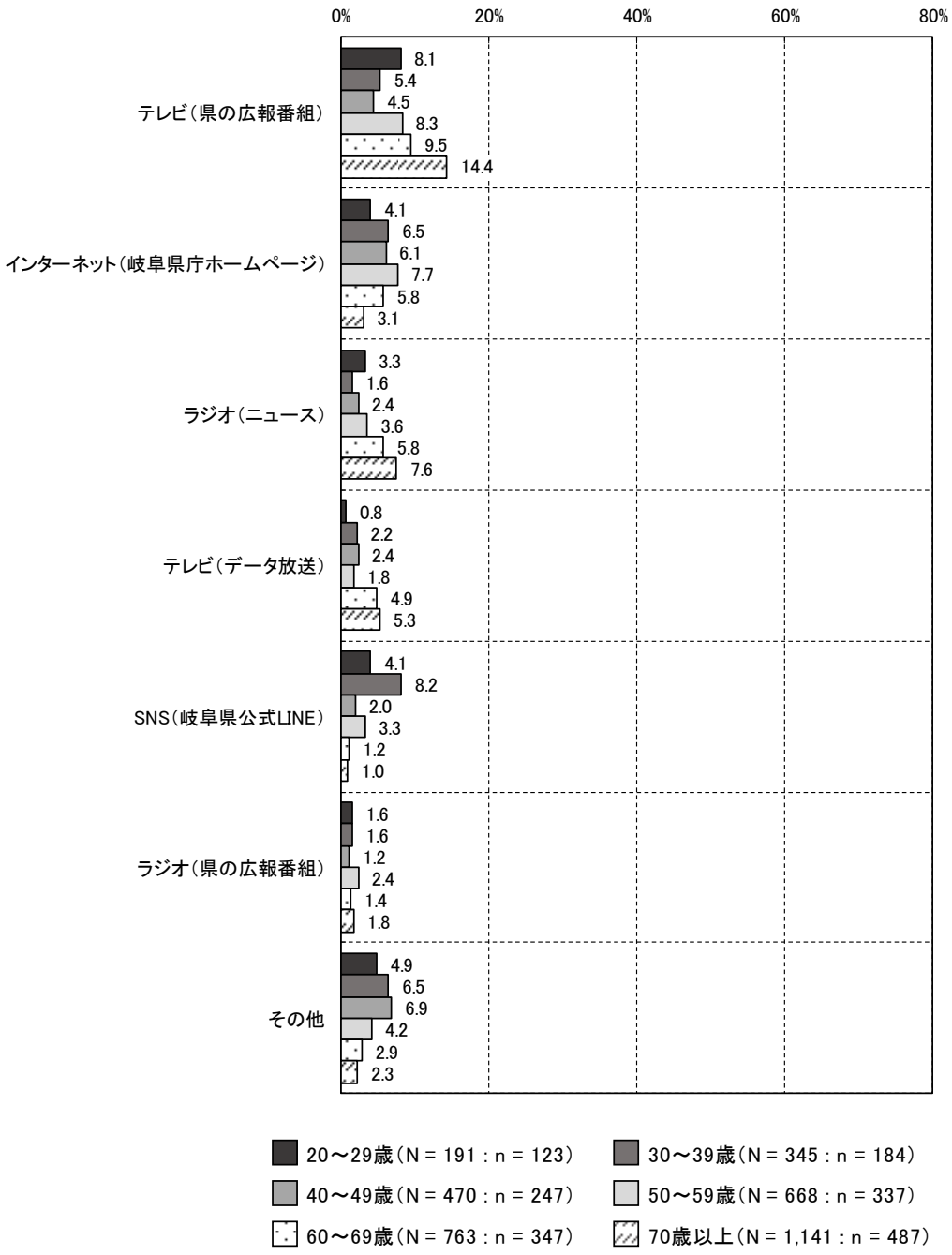
年代別（図 8-4）でみると、20 歳代、50 歳代、60 歳代では「テレビ（ニュース）」、30 歳代、40 歳代では「インターネット（ニュース）」、70 歳以上では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数 n＝回答者数

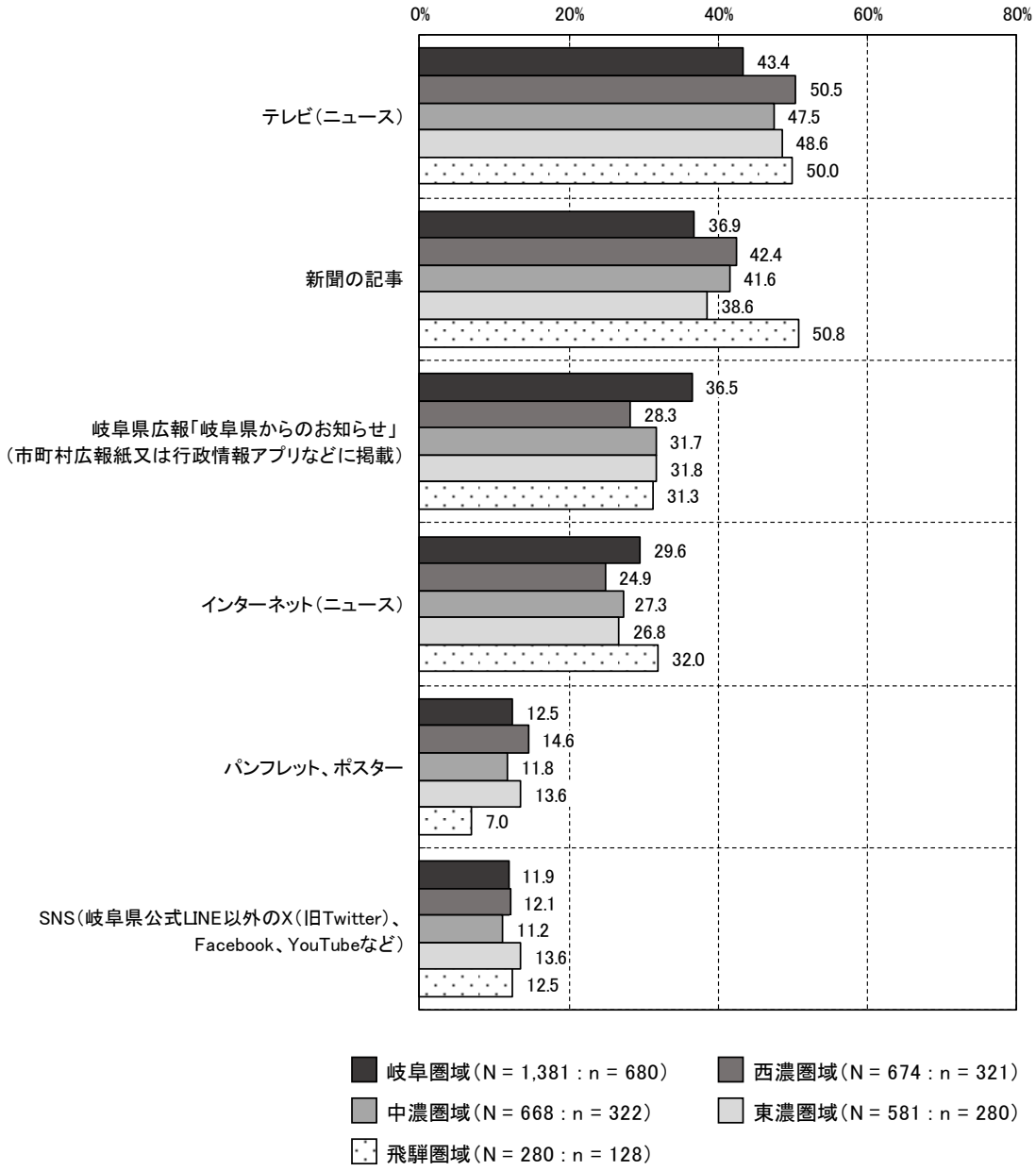
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

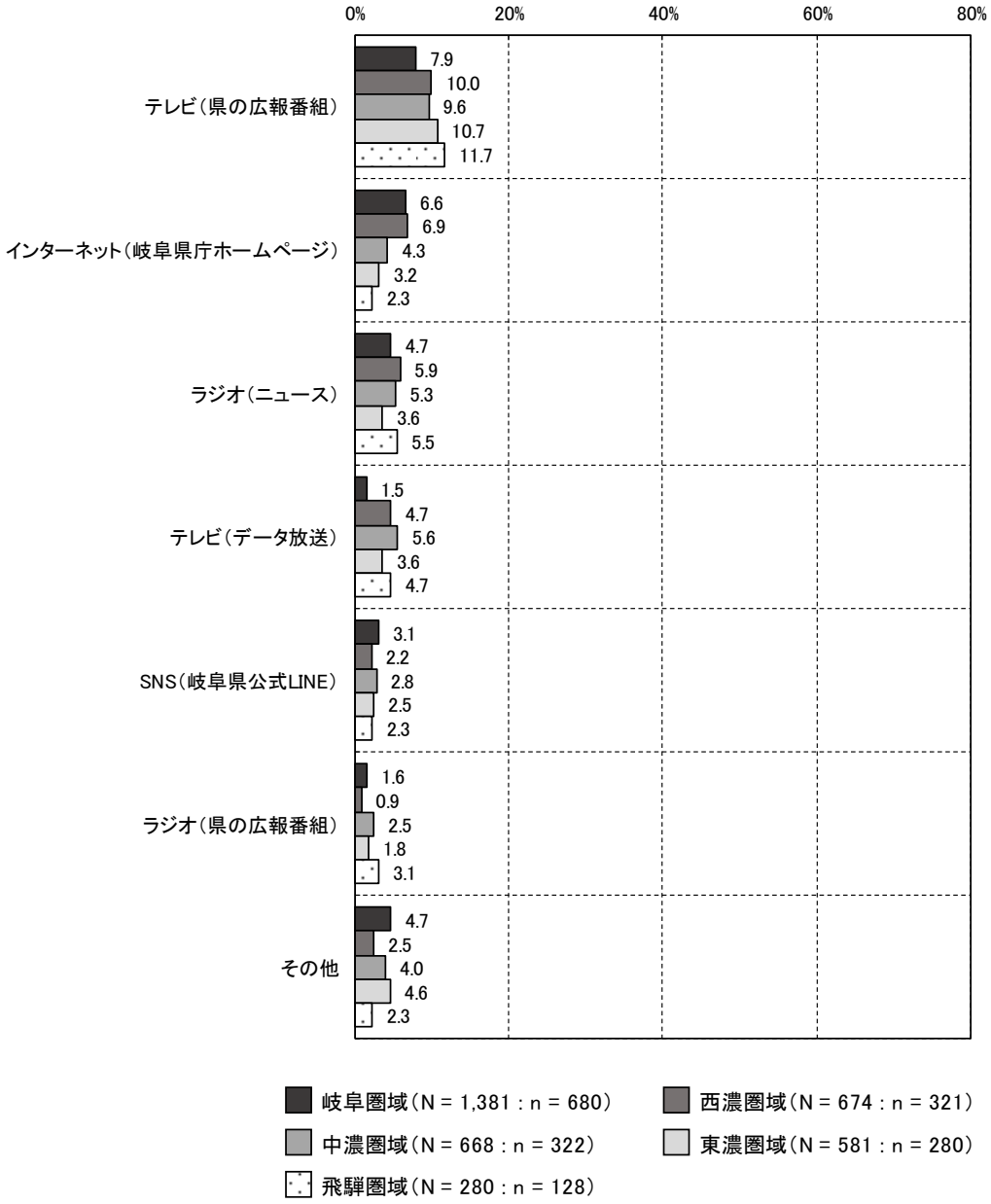
居住圏域別（図 8-5）でみると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「テレビ（ニュース）」が最も高く、飛騨圏域では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法 （続き）



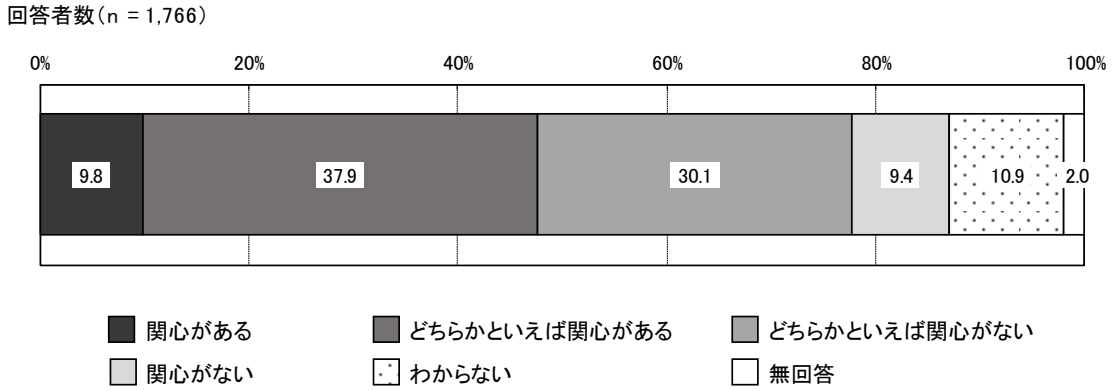
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問９　県事業への関心の有無

問９　あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。（１つだけ）

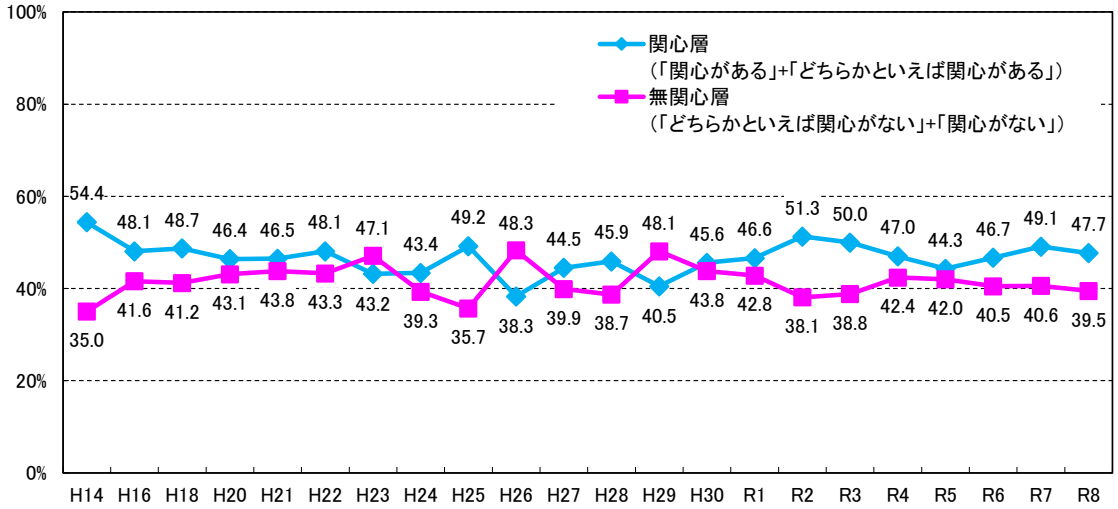
全体（図 9-1）でみると、「どちらかといえば関心がある」が 37.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」（30.1%）、「わからない」（10.9%）の順となっている。

図 9-1　県事業への関心の有無



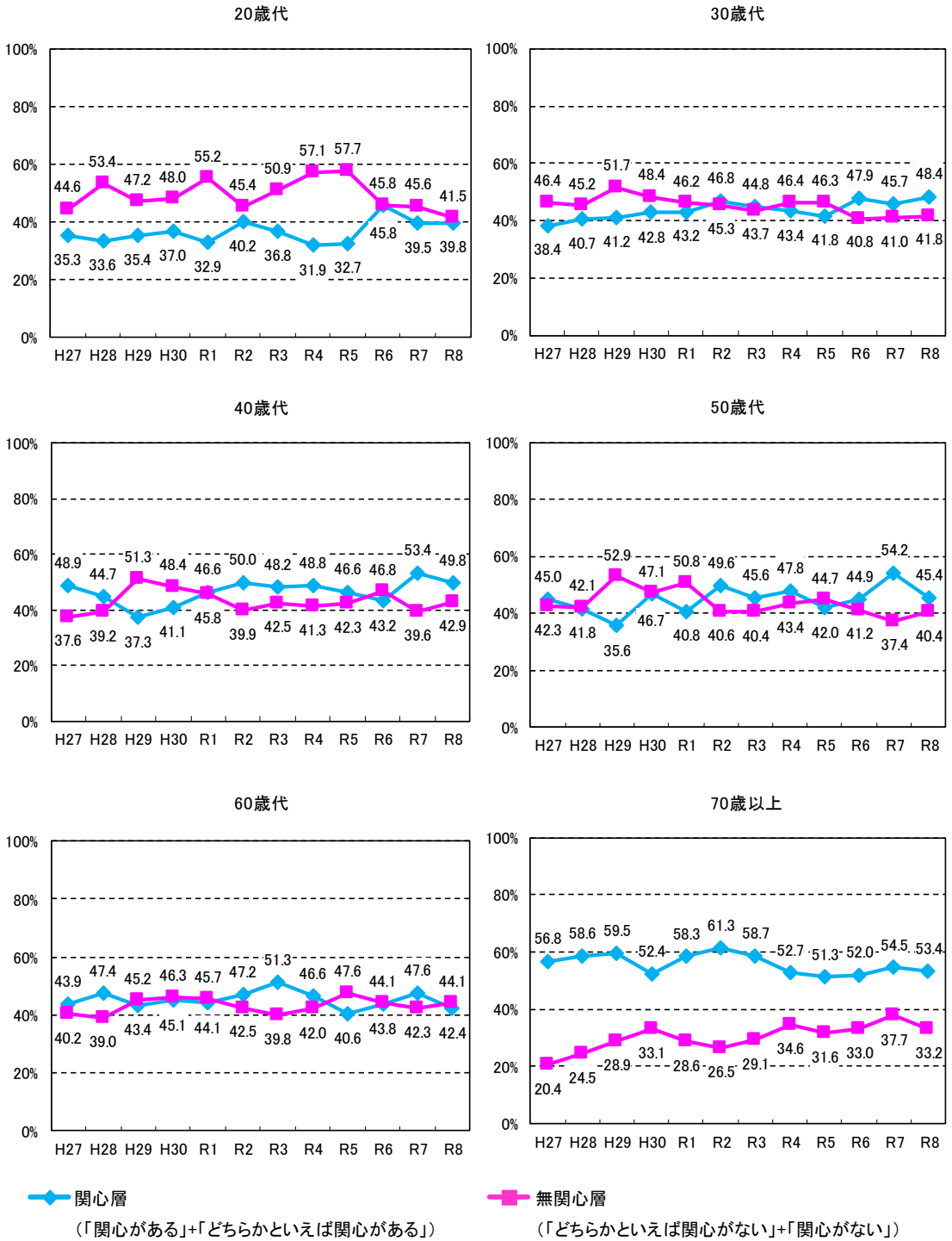
経年変化（図 9-2）でみると、令和８年は、前年より「関心層」（「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」）が 1.4 ポイント減少、「無関心層」（「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」）が 1.1 ポイント減少しており、引き続き「関心層」が「無関心層」を上回っている。

図 9-2【経年変化】県事業への関心の有無



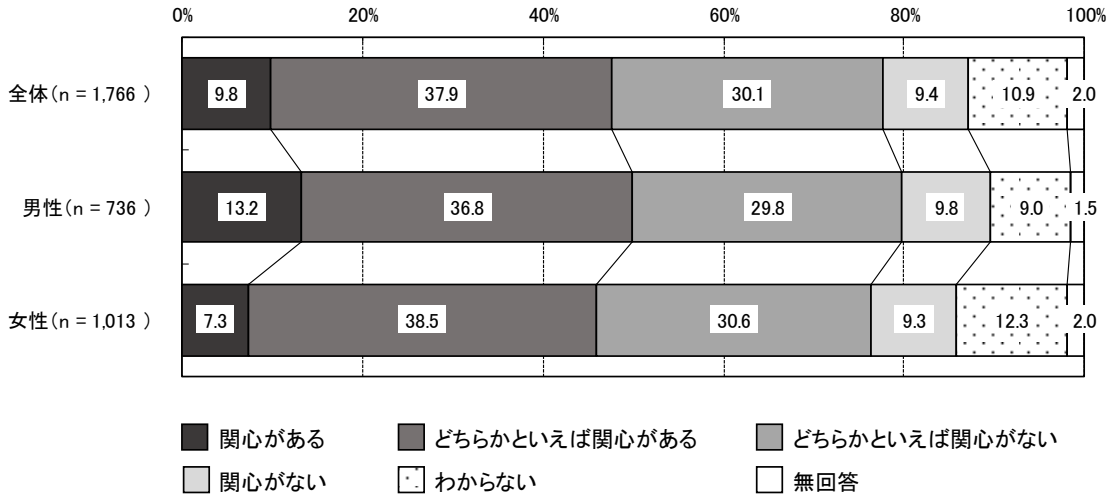
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、「関心層」において、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても前年に比べて「関心層」が減少しており、そのうち 50 歳代では 8.8 ポイント減少している。また、60 歳代では、前年に比べて「無関心層」と「関心層」が入れ替り、「無関心層」が「関心層」を上回った。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3【経年変化（年代別）】県事業への関心の有無



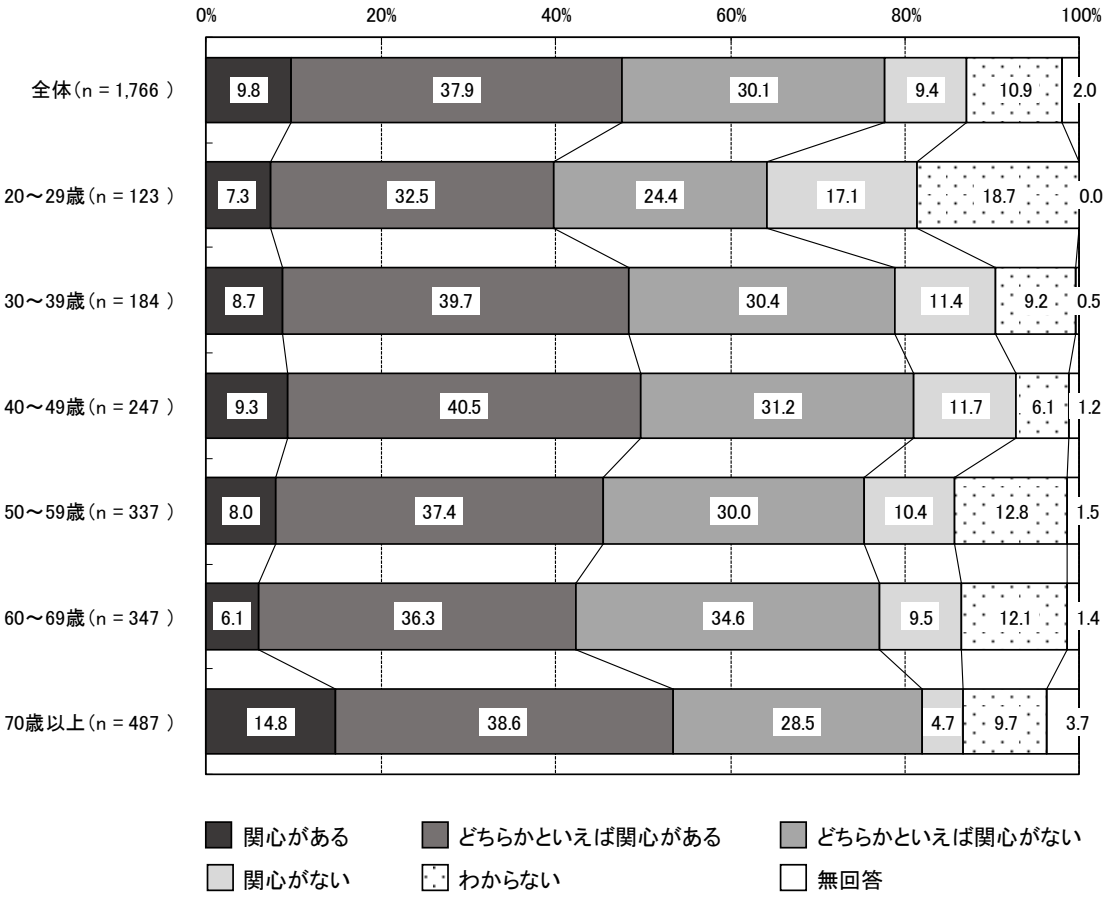
性別（図 9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



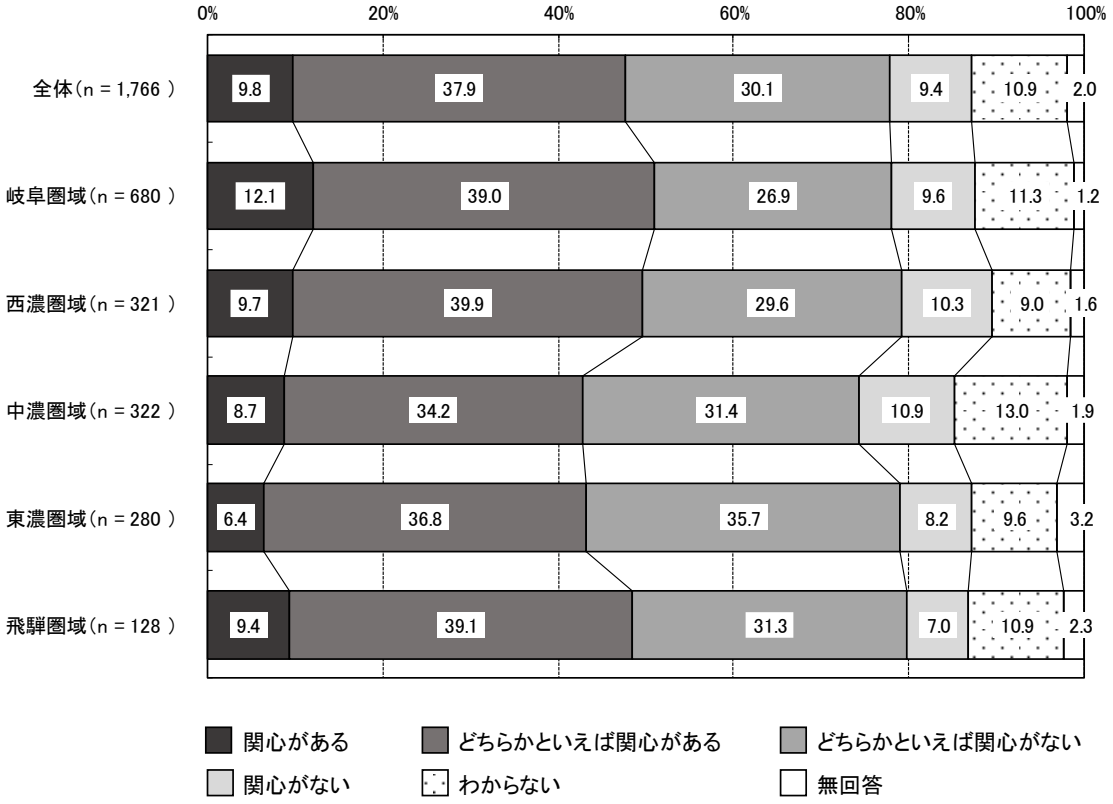
年代別（図 9-5）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



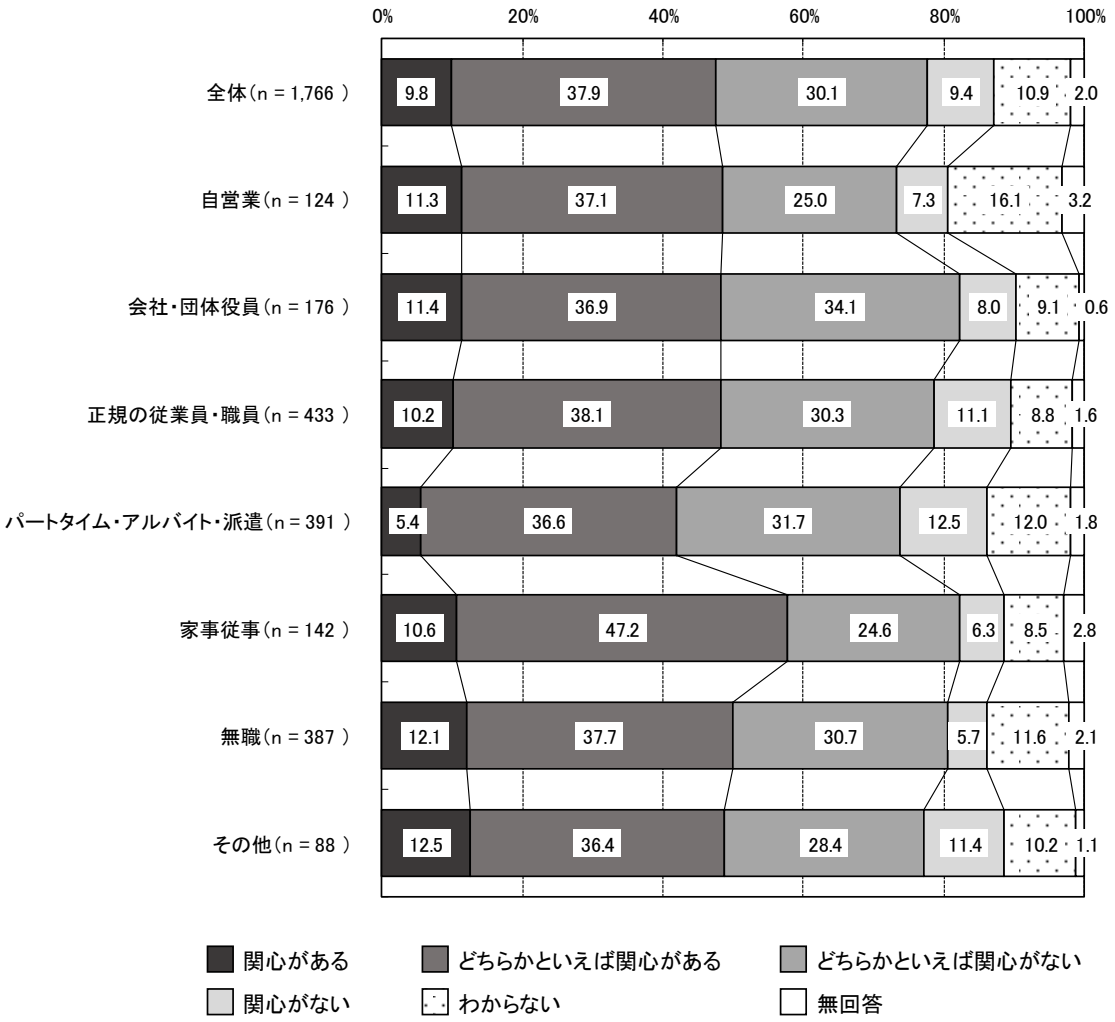
居住圏域別（図 9-6）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-6【居住圏域別】県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）でみると、いずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



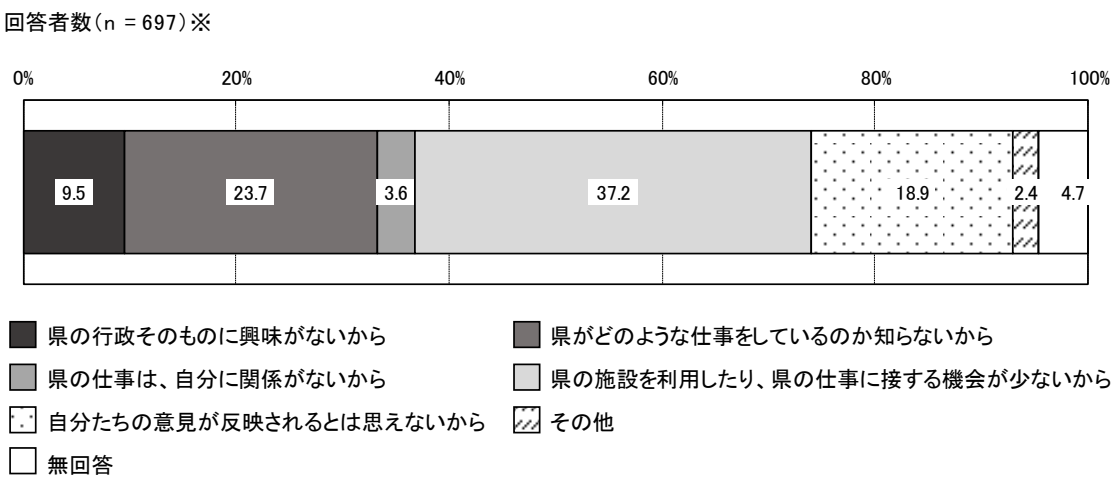
※ その他には、自由業、学生を含む。

問９－２　県事業に関心がない理由

問９－２　「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。 あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、 どのような理由からですか。（１つだけ）

全体（図 9-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 37.2%と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」(23.7%)、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」(18.9%) の順となっている。

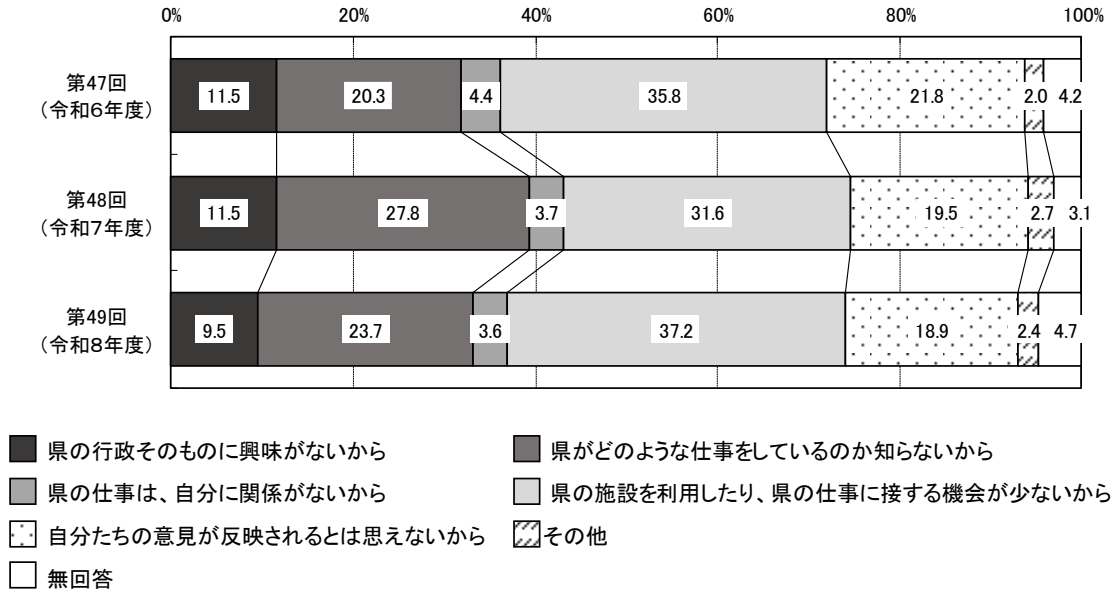
図 9-2-1　県事業に関心がない理由



※ 問 9 で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

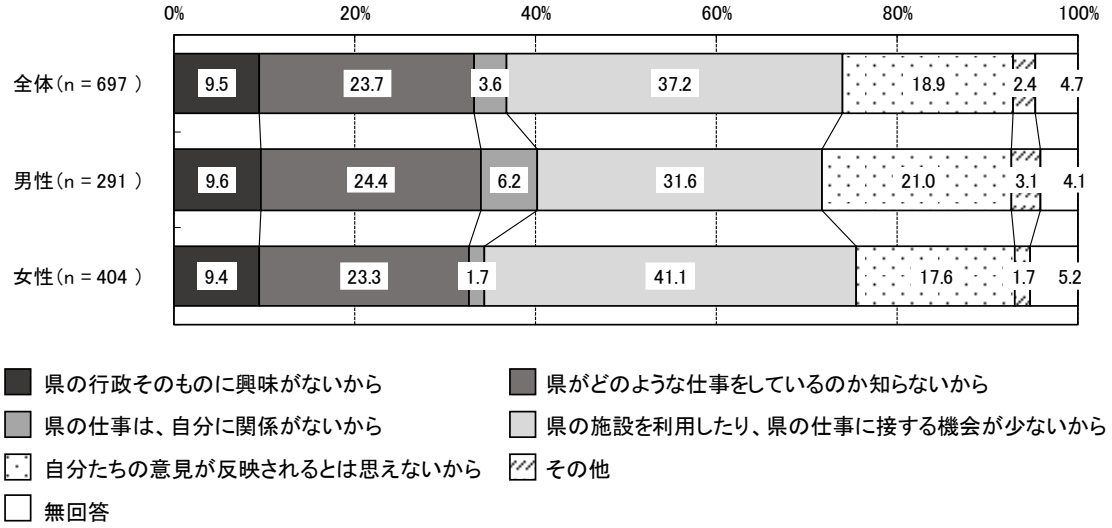
前々回・前回比較（図 9-2-2）でみると、令和 8 年は、前年より「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 5.6 ポイント増加している。

図 9-2-2 【前々回・前回比較】 県事業に関心がない理由



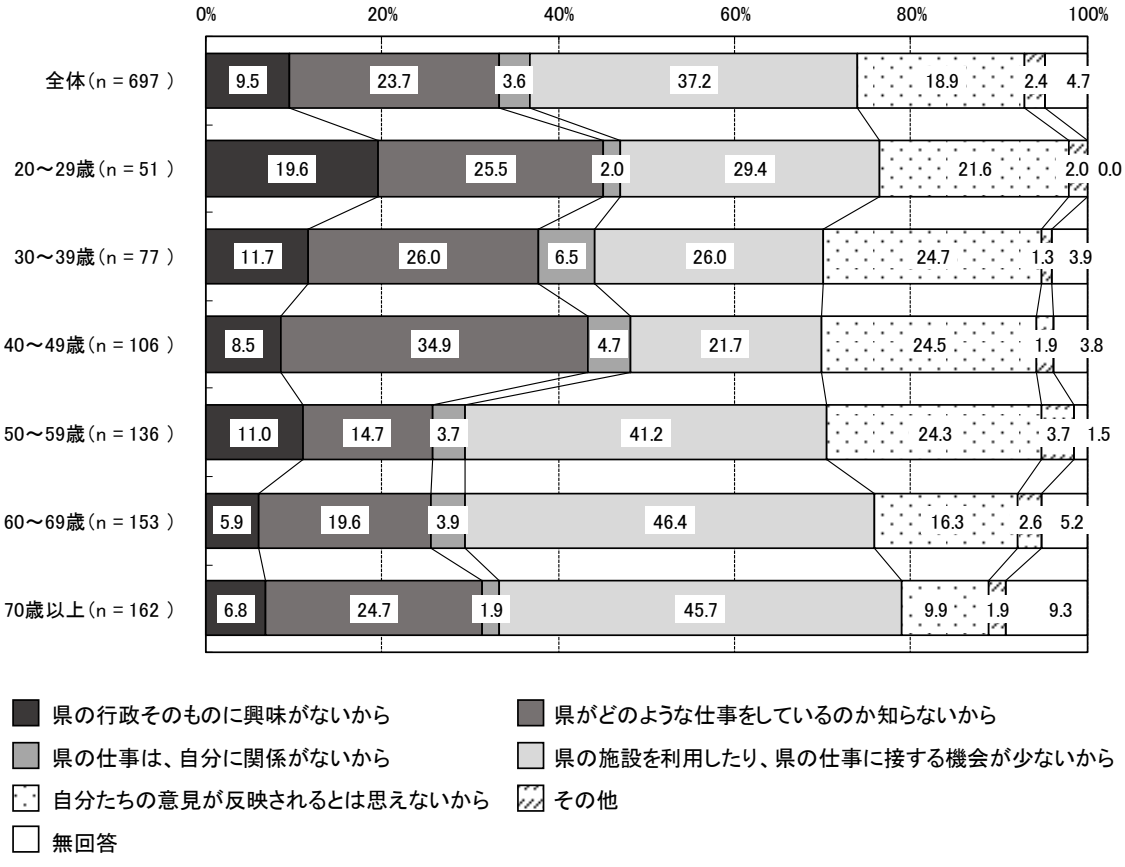
性別（図 9-2-3）でみると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 9.5 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



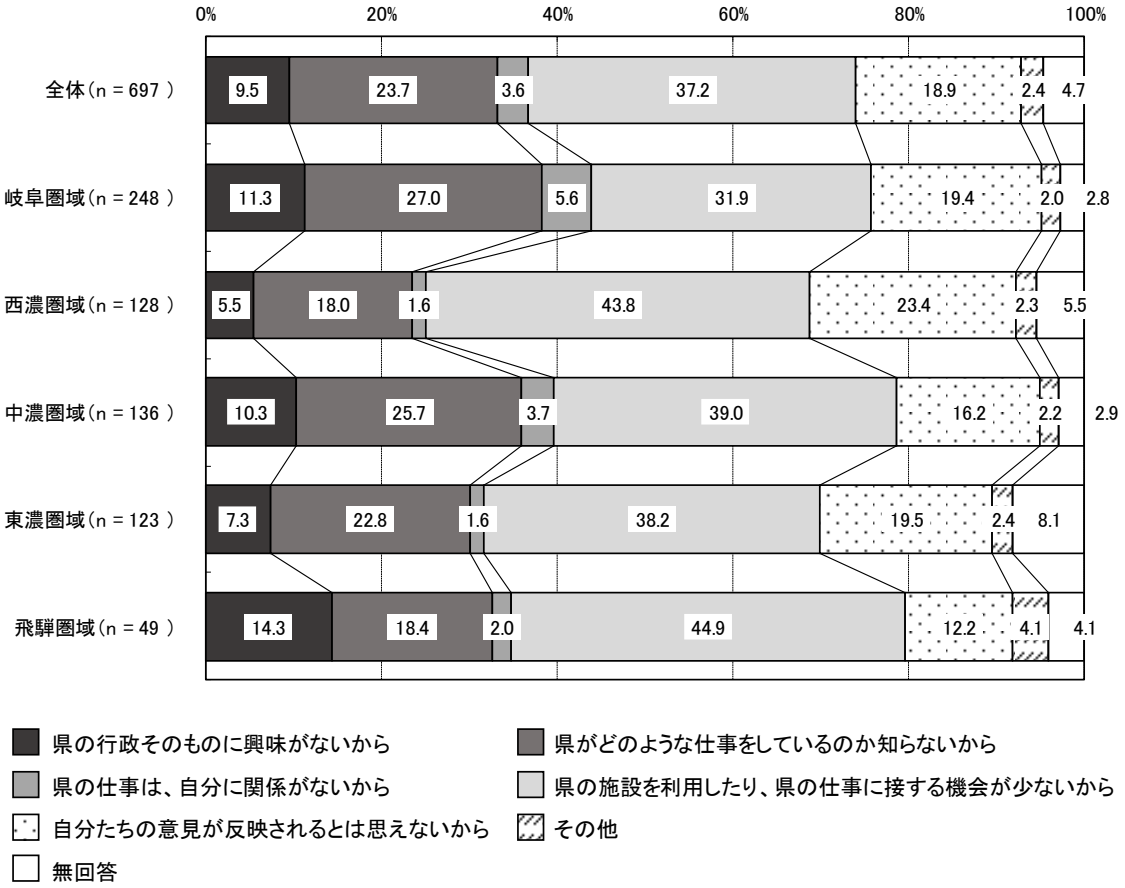
年代別（図 9-2-4）でみると、40 歳代を除くいずれの年代においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている（30 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が同率)。40 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が最も高くなっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



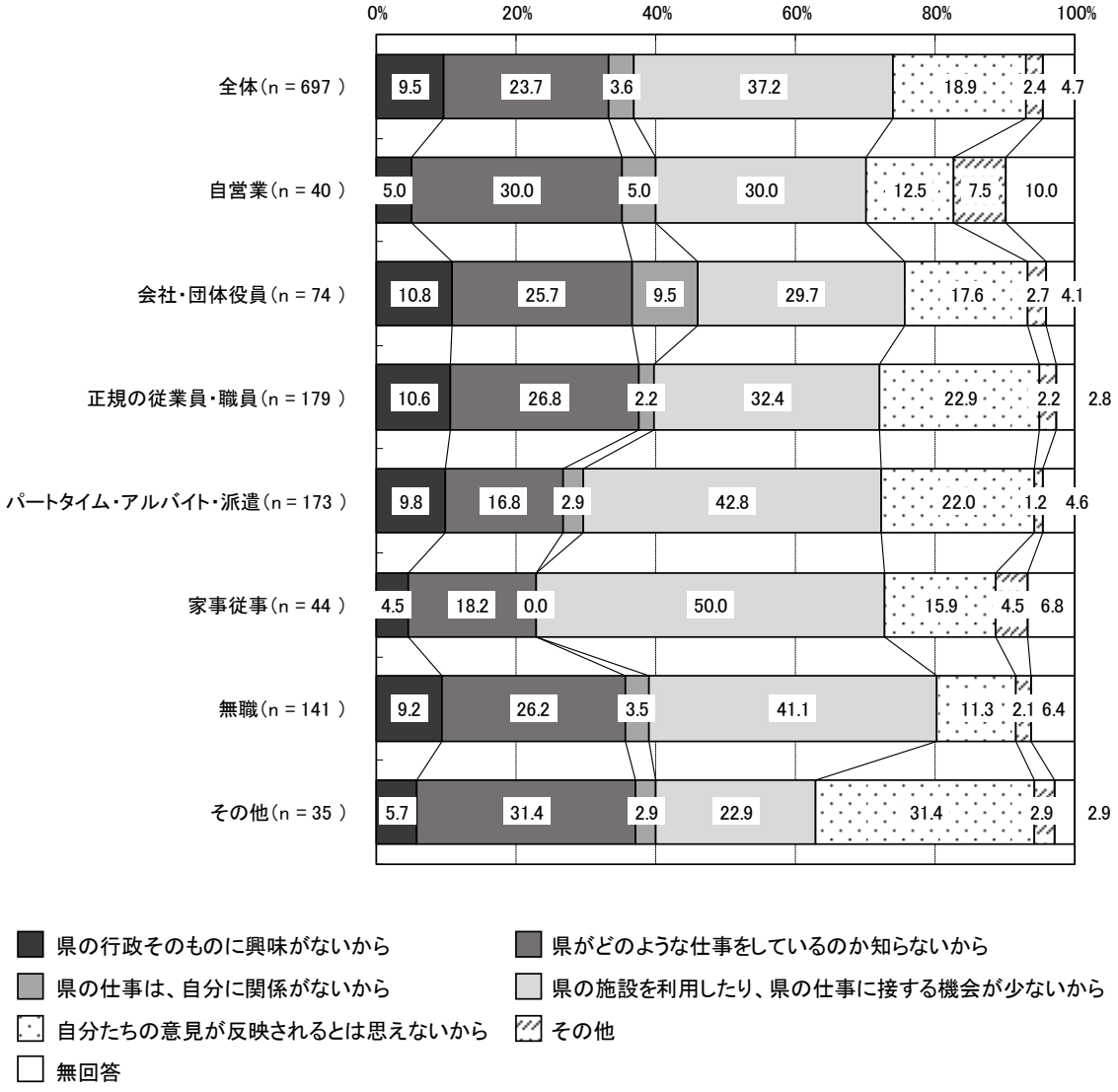
居住圏域別（図 9-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



職業別（図 9-2-6）でみると、その他を除くいずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている（自営業では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が同率)。その他では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」が最も高くなっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



※ その他には、自由業、学生を含む。

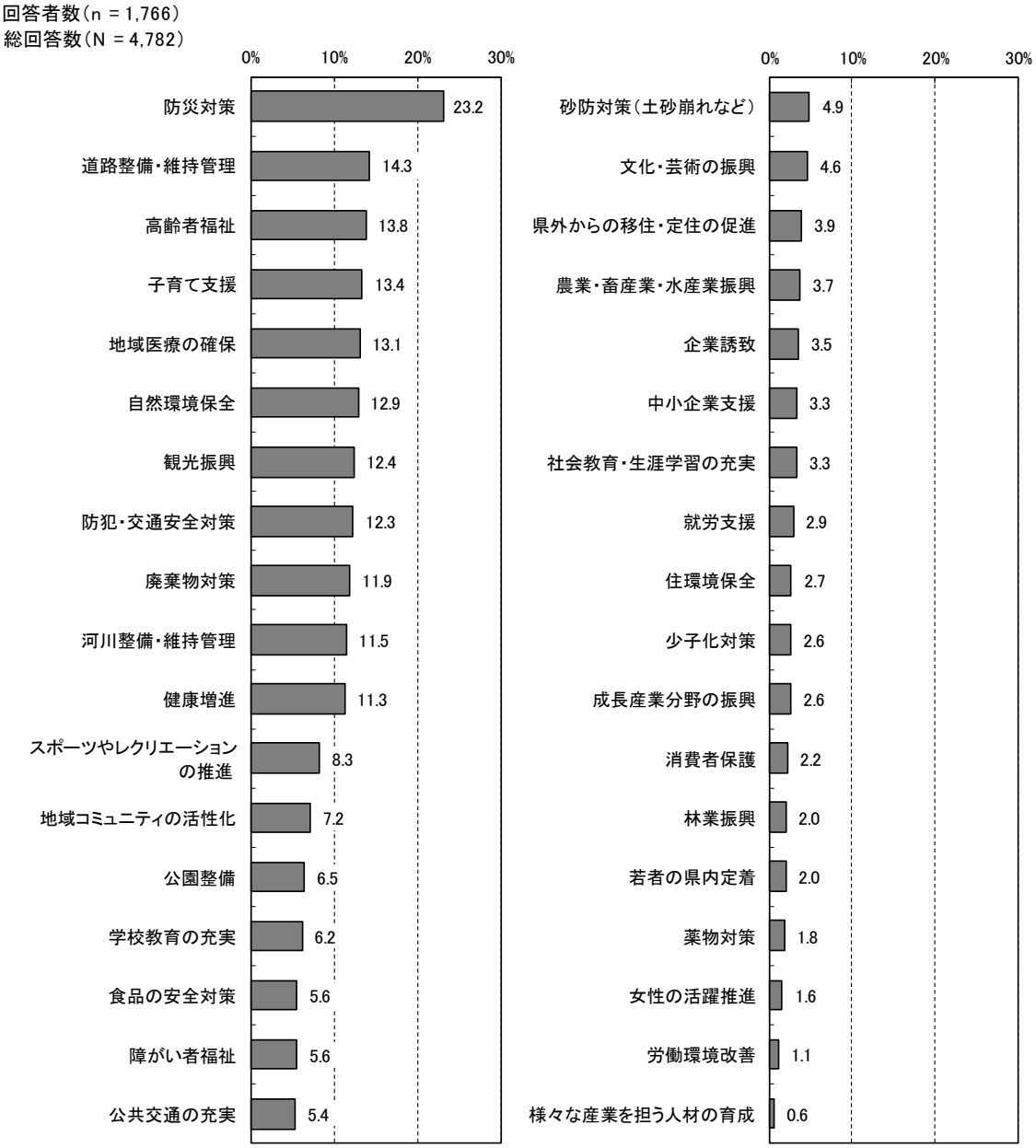
問１０　県の取組でよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

問１０　あなたが、県の取組についてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。 また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。（それぞれ５つまで）

【県の取組でよくやっていると思う分野】

全体（図 10-1）でみると、「防災対策」が 23.2%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（14.3%）、「高齢者福祉」（13.8%）の順となっている。

図 10-1　県の取組でよくやっていると思う分野

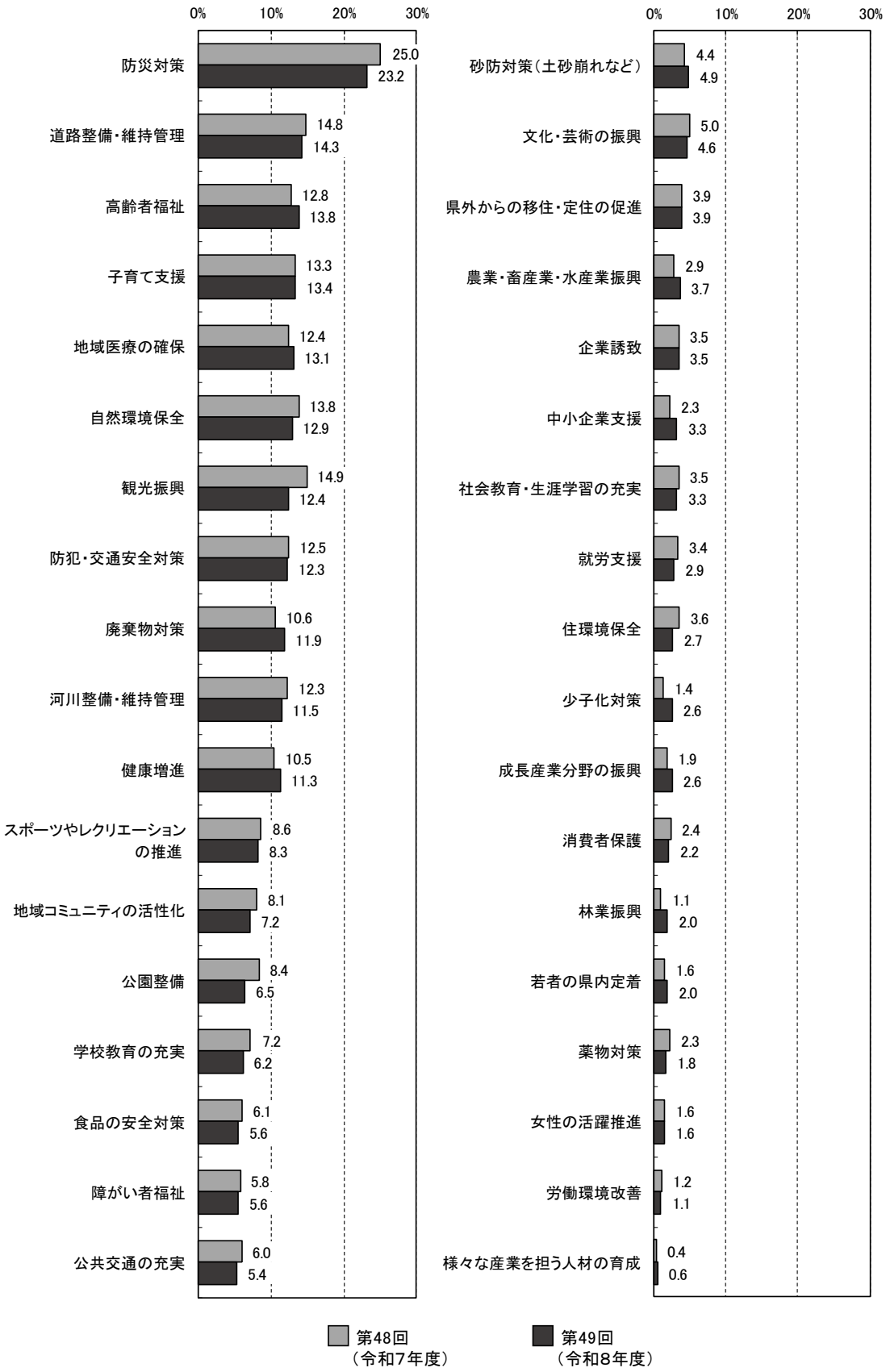


※　成長産業：岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている。（令和 8 年度現在）

※　本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

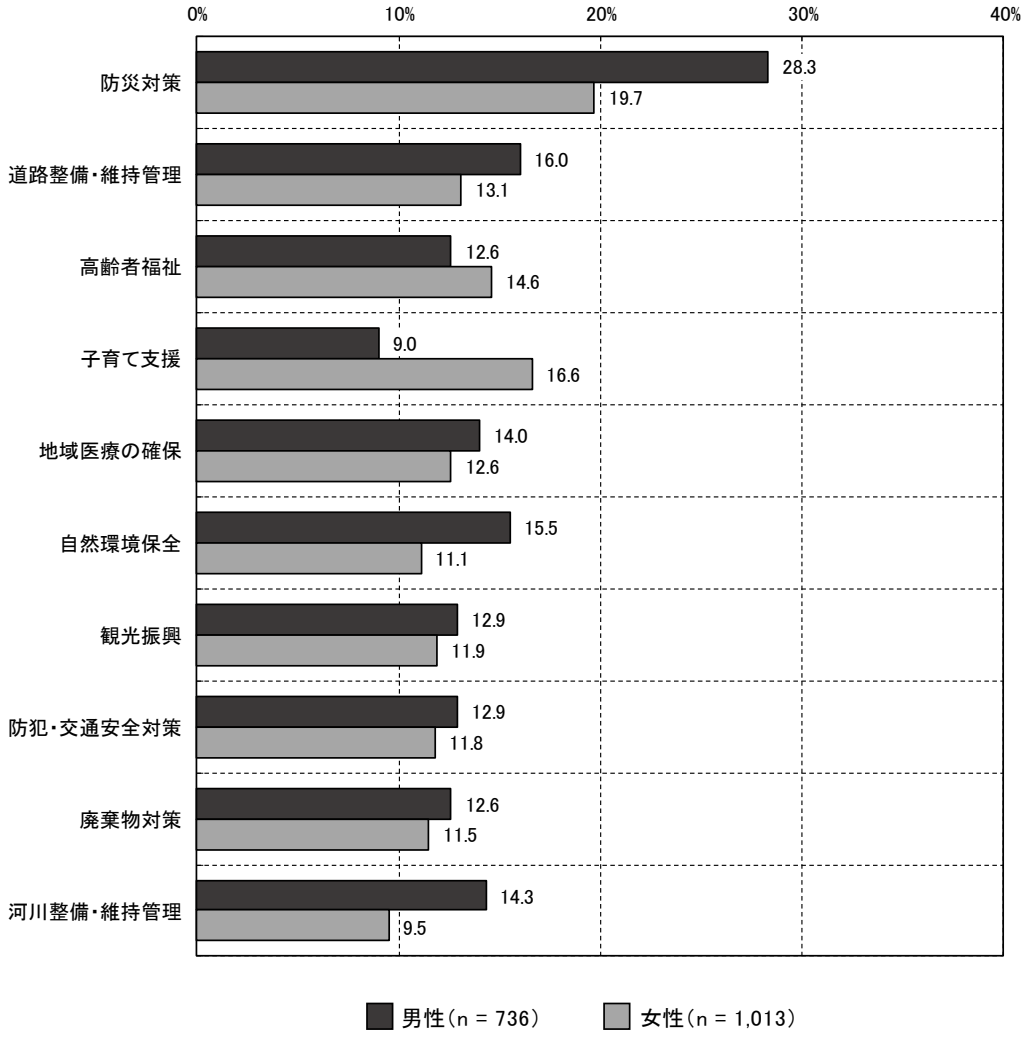
前回比較（図 10-2）でみると、前回に続き「防災対策」が最も高くなっている。

図 10-2 【前回比較】県の取組でよくやっていると思う分野



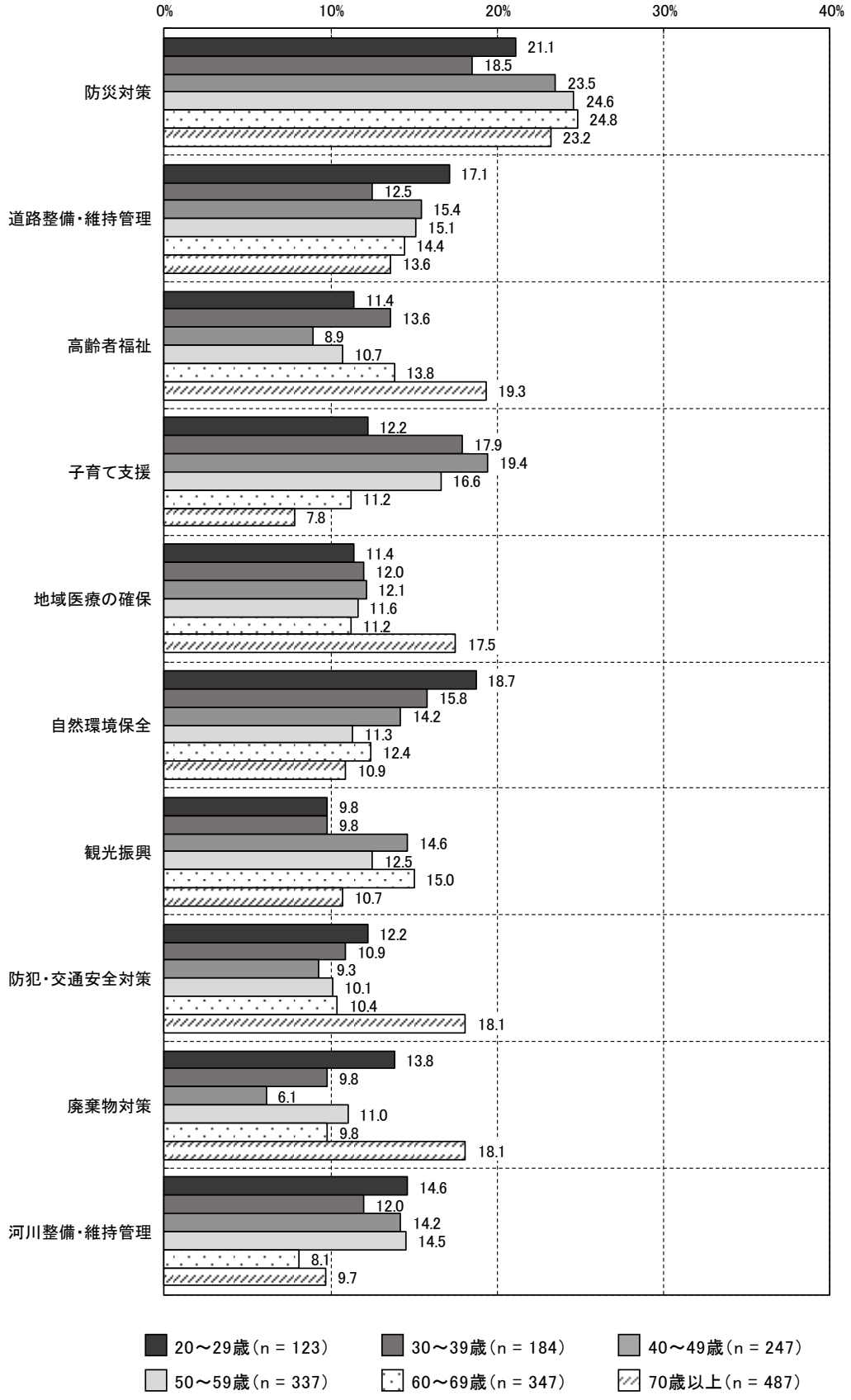
性別（図 10-3）でみると、男女ともに「防災対策」が最も高く、次いで、男性では「道路整備・維持管理」が 16.0%、女性では「子育て支援」が 16.6%となっている。

図 10-3 【性別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



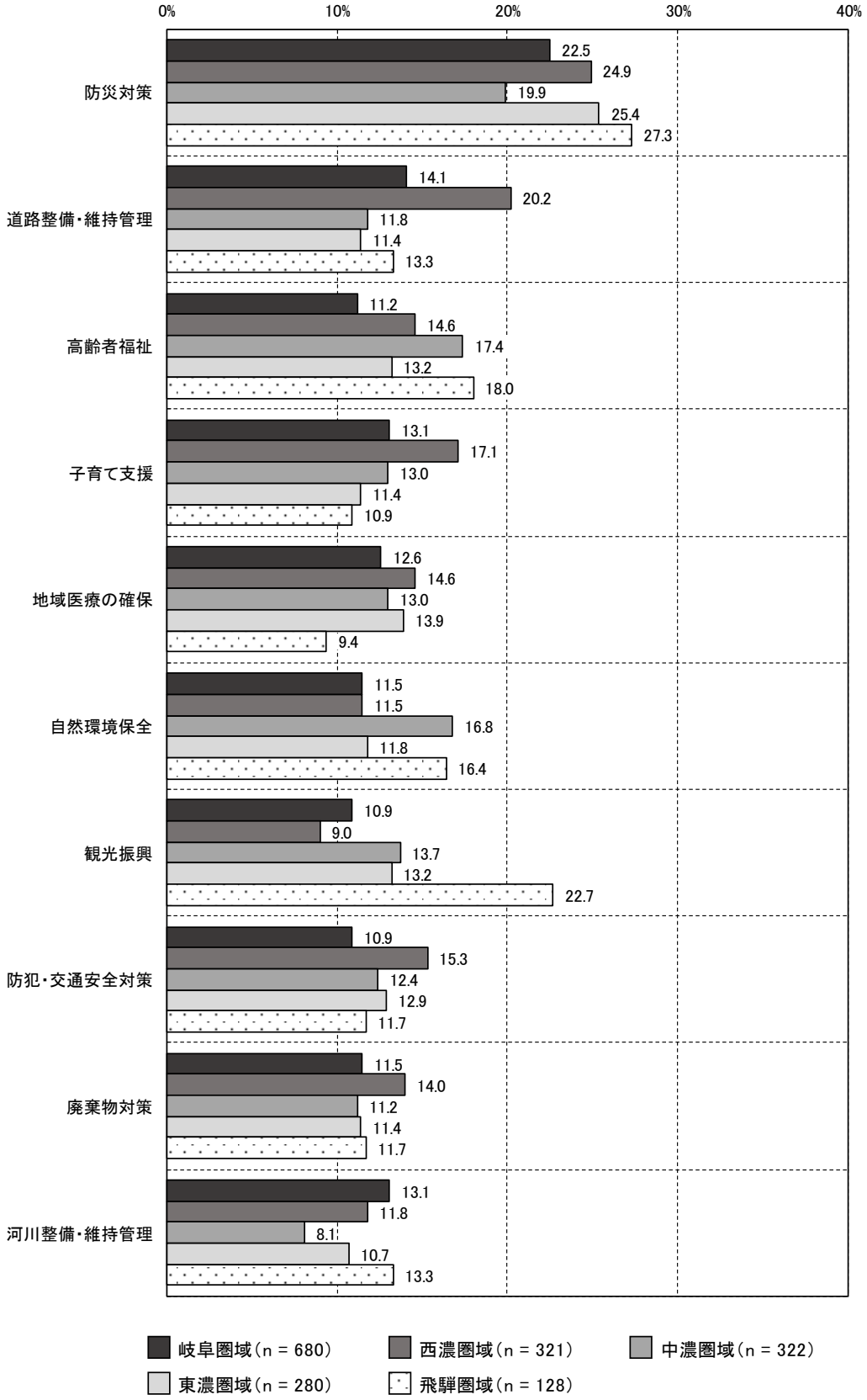
年代別（図 10-4）でみると、いずれの年代においても「防災対策」が最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



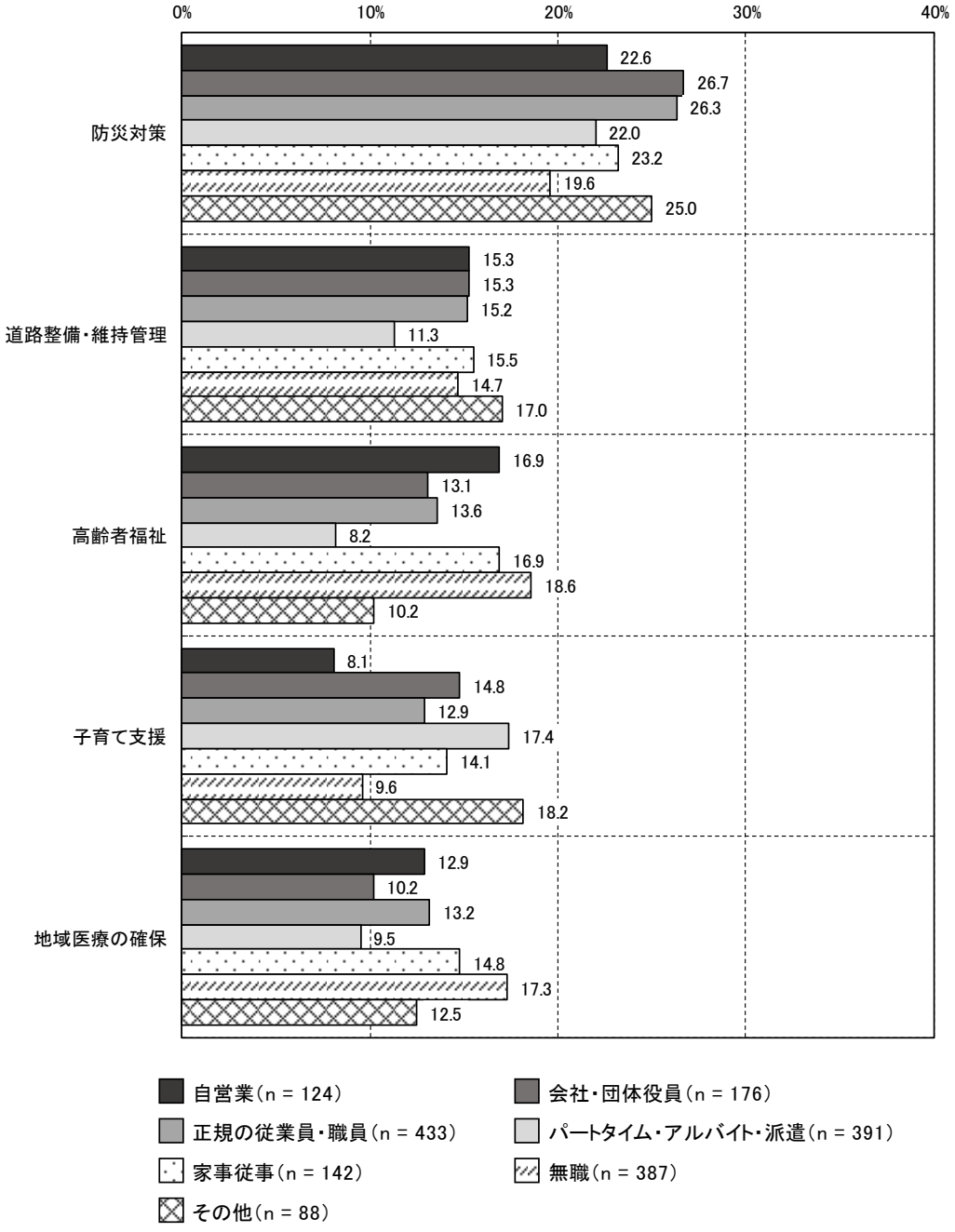
居住圏域別（図 10-5）でみると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 27.3%と最も高くなっている。また、西濃圏域では「道路整備・維持管理」、飛騨圏域では「観光振興」が他の居住圏域に比べて高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



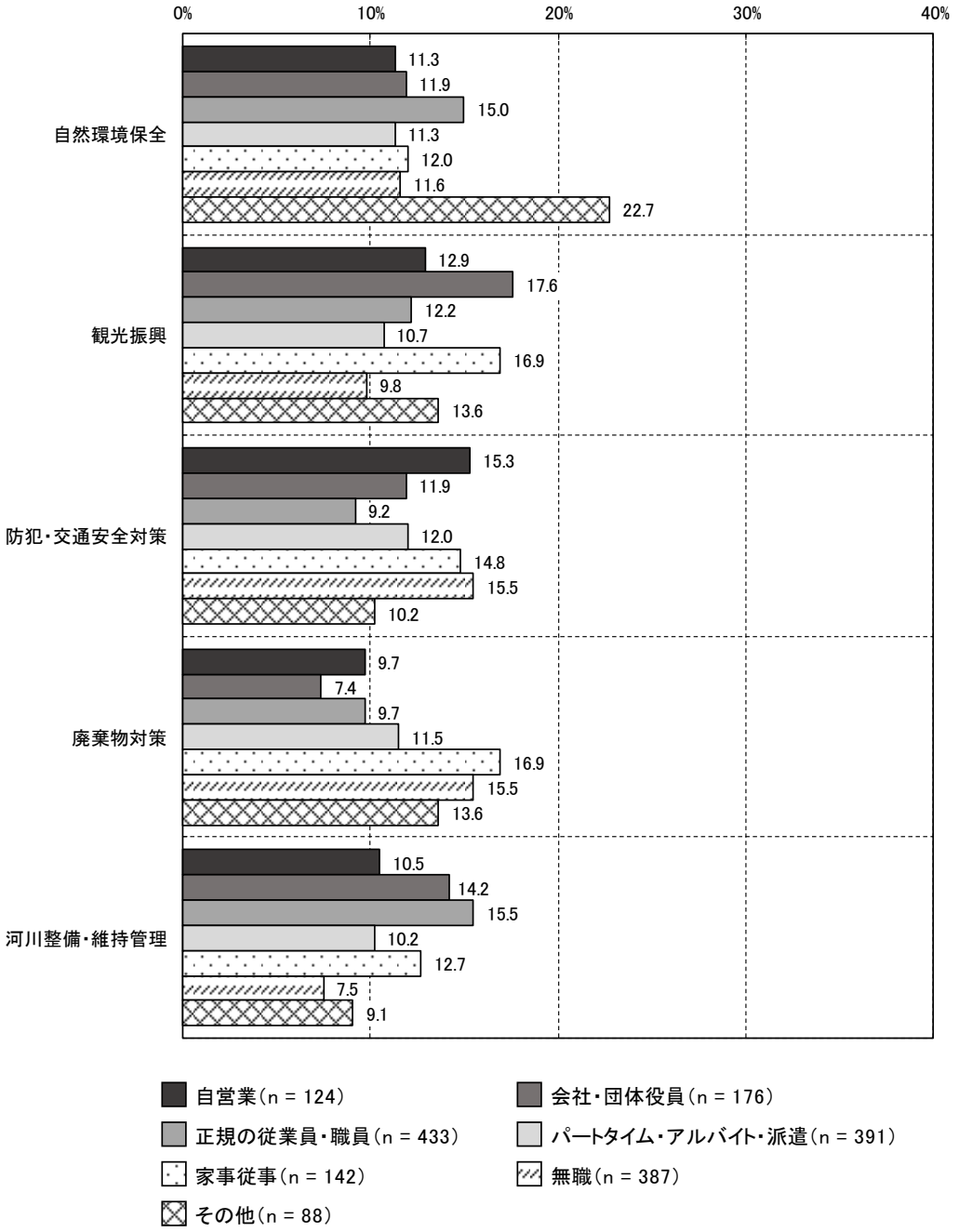
職業別（図 10-6）でみると、いずれの職業においても「防災対策」が最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）（続き）

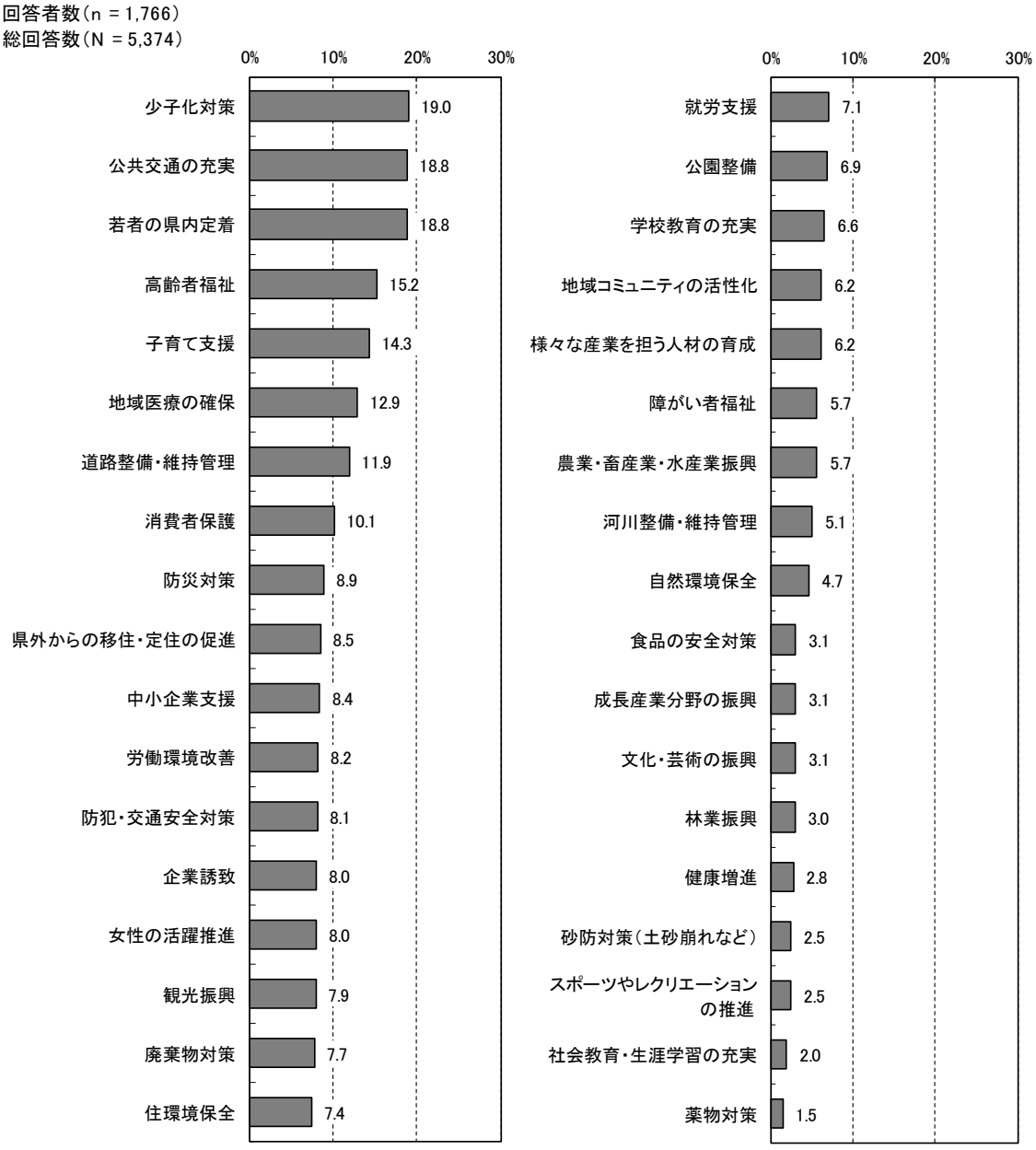


※ その他には、自由業、学生を含む。

【県の取組で努力が足りないと思う分野】

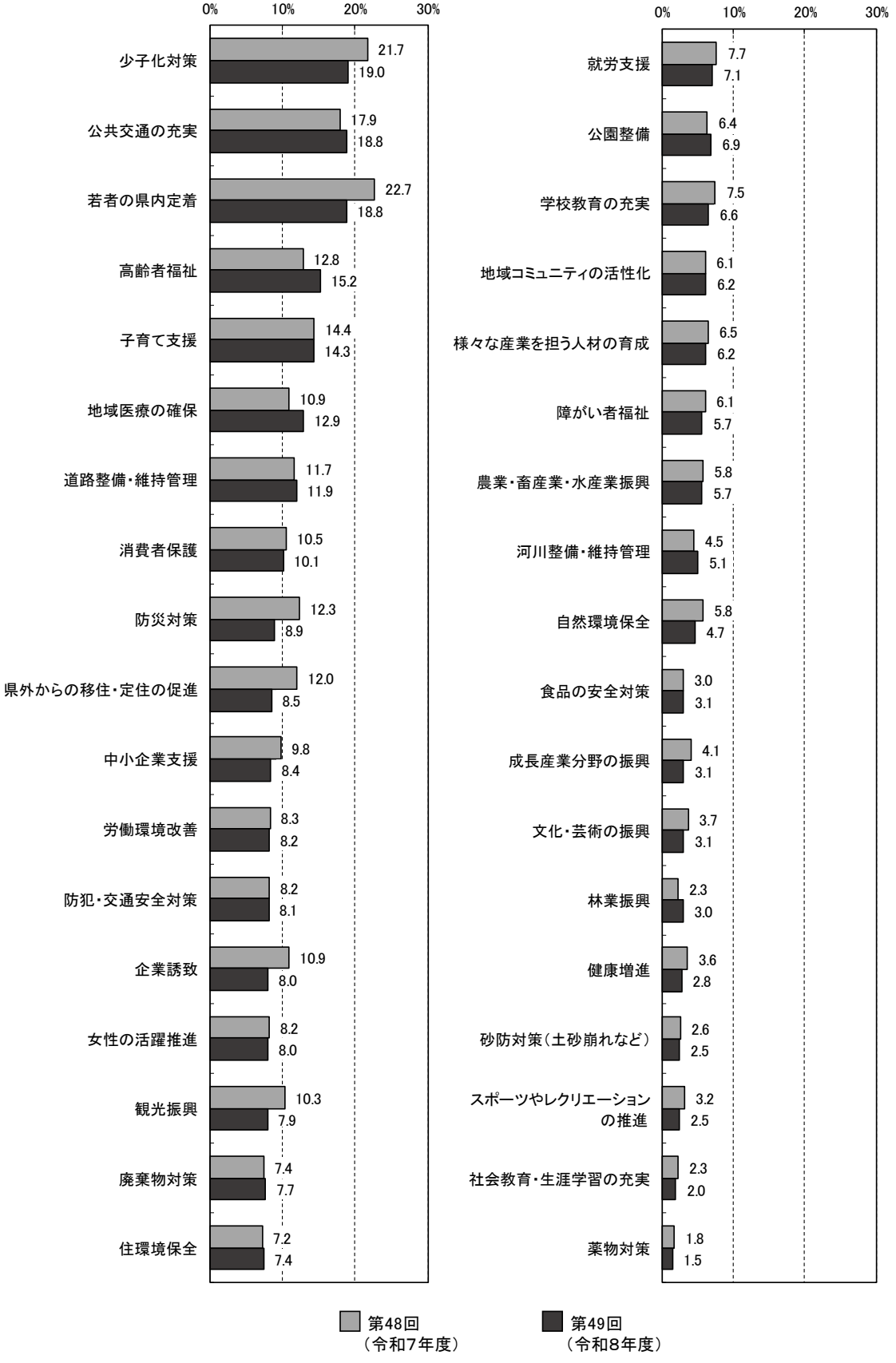
全体（図 10-2-1）でみると、「少子化対策」が 19.0％と最も高く、次いで「公共交通の充実」「若者の県内定着」（18.8％）の順となっている。

図 10-2-1 県の取組で努力が足りないと思う分野



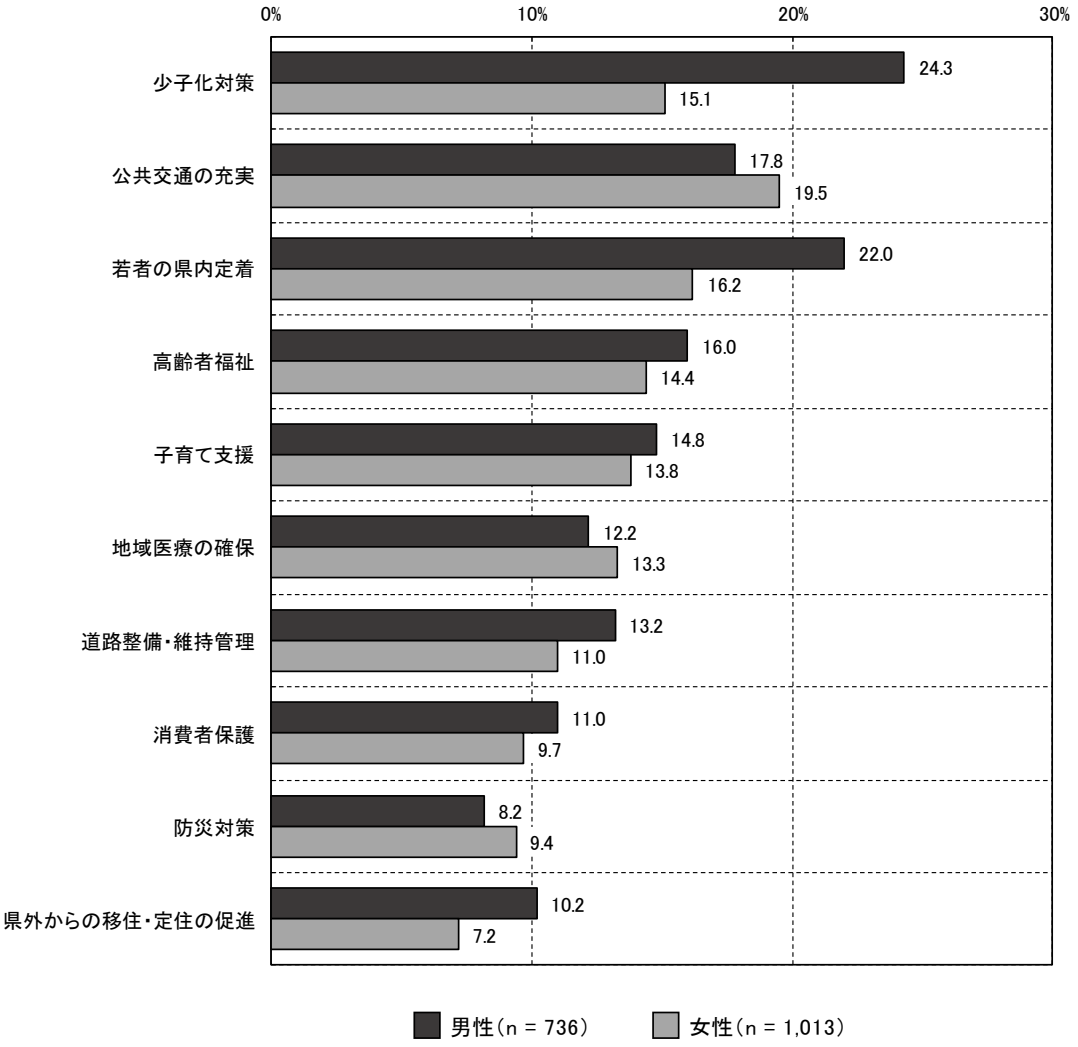
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回に続き「少子化対策」「公共交通の充実」「若者の県内定着」が上位 3 位となっている。

図 10-2-2 【前回比較】県の取組で努力が足りないと思う分野



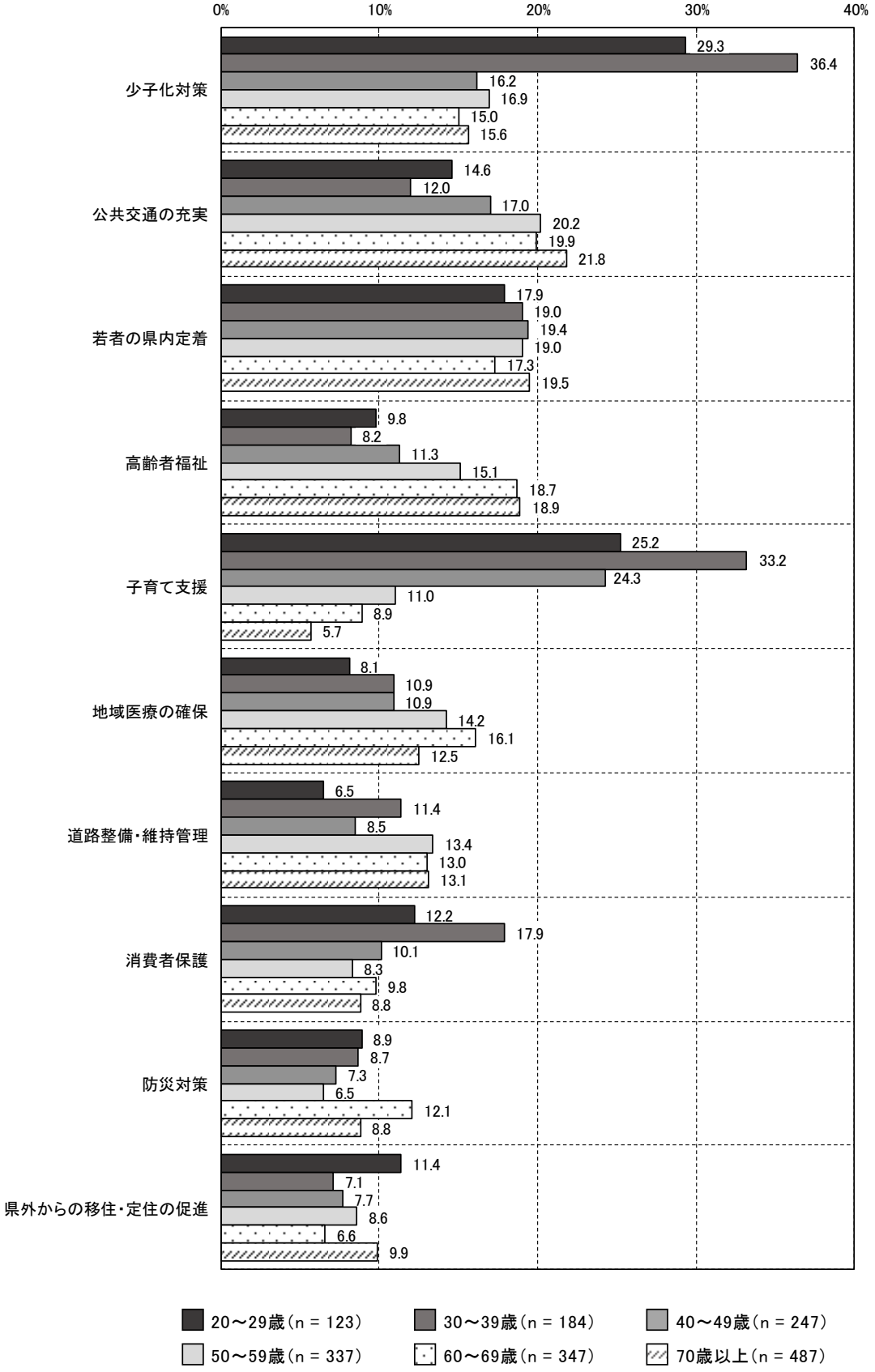
性別（図 10-2-3）でみると、男性では「少子化対策」（24.3%）が最も高く、女性では「公共交通の充実」（19.5%）が最も高くなっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



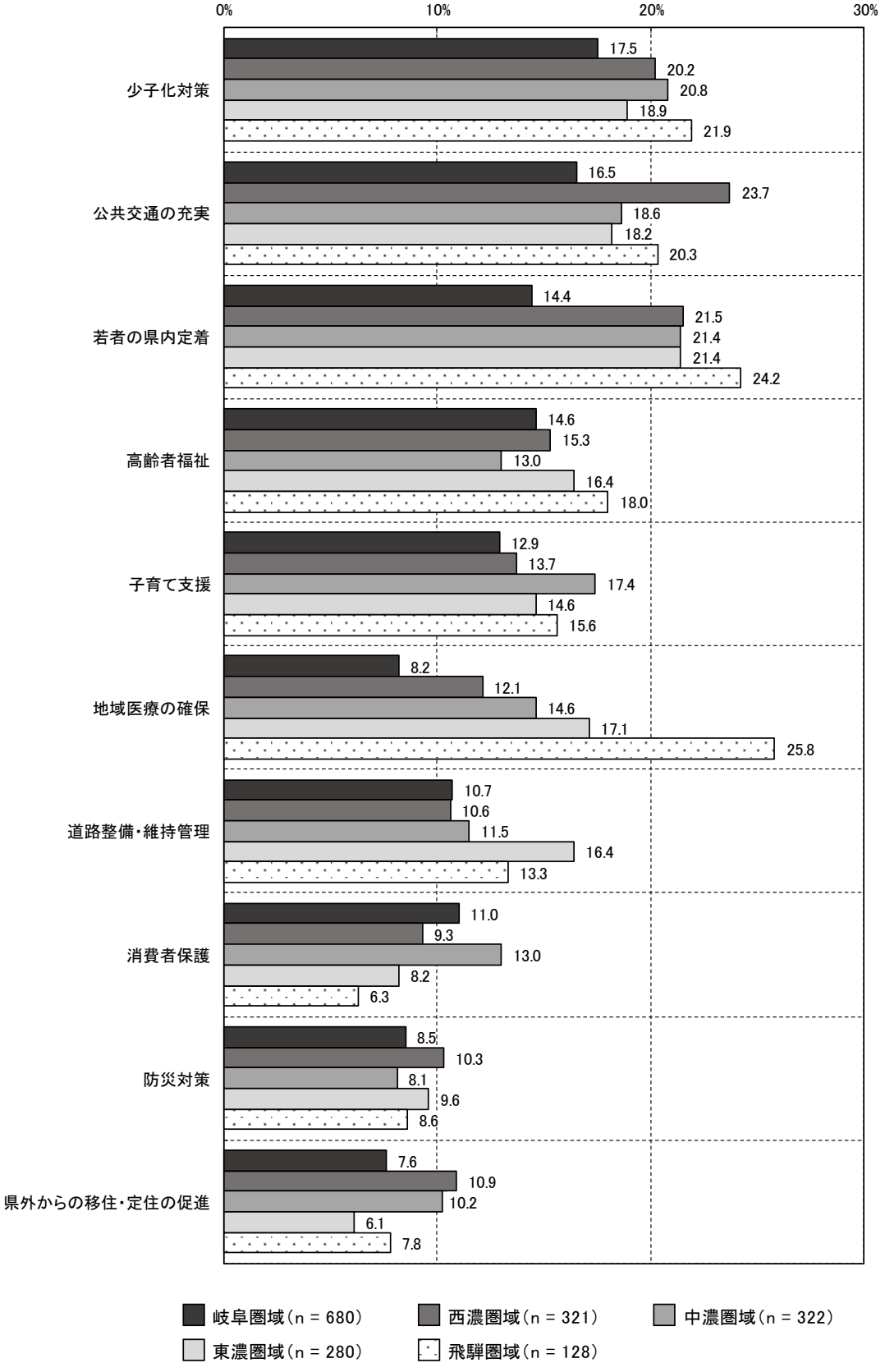
年代別（図 10-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代では「少子化対策」、40 歳代では「子育て支援」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「公共交通の充実」が最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



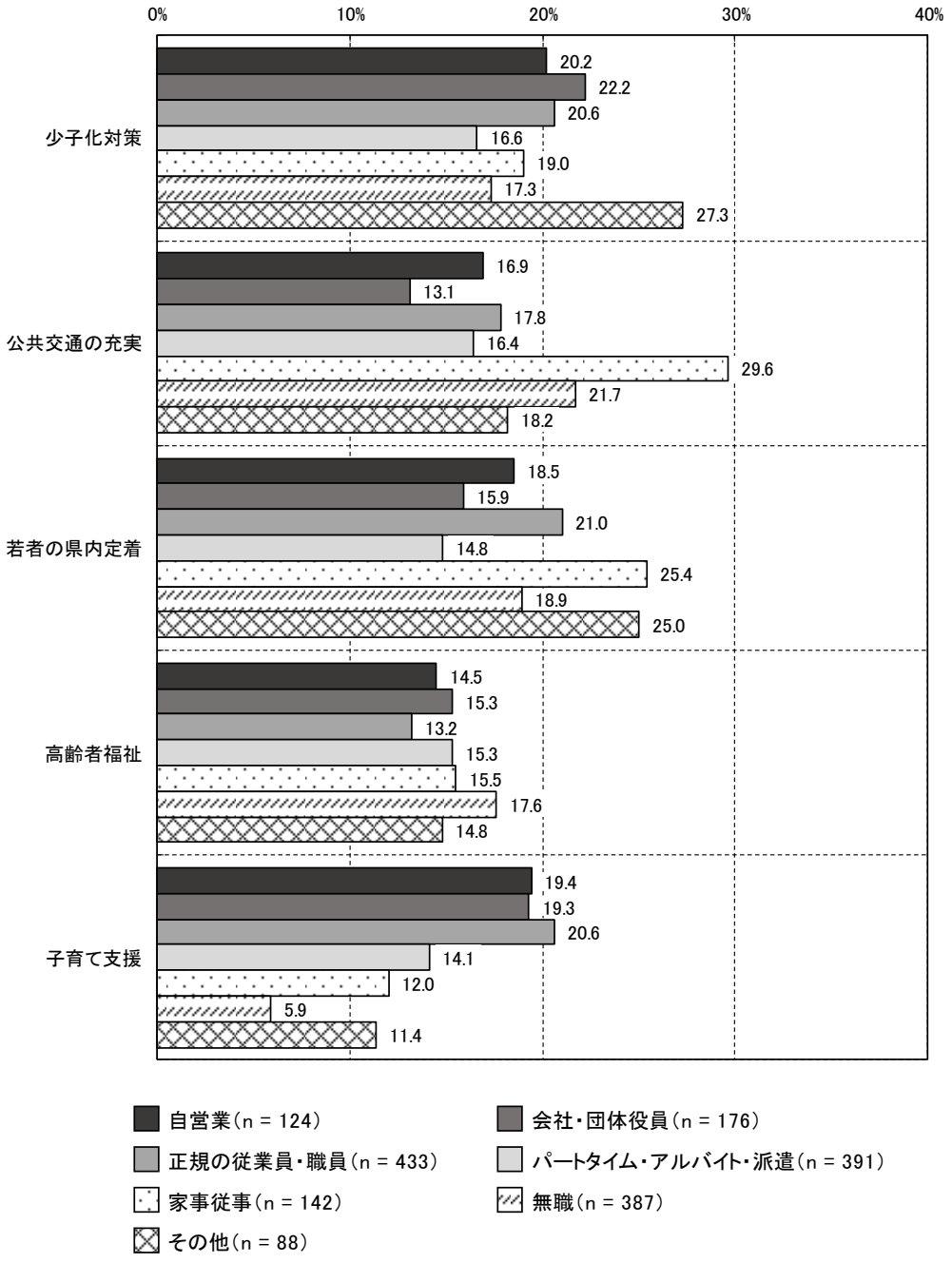
居住圏域別（図 10-2-5）でみると、岐阜圏域では「少子化対策」、西濃圏域では「公共交通の充実」、中濃圏域、東濃圏域では「若者の県内定着」、飛騨圏域では「地域医療の確保」が最も高くなっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



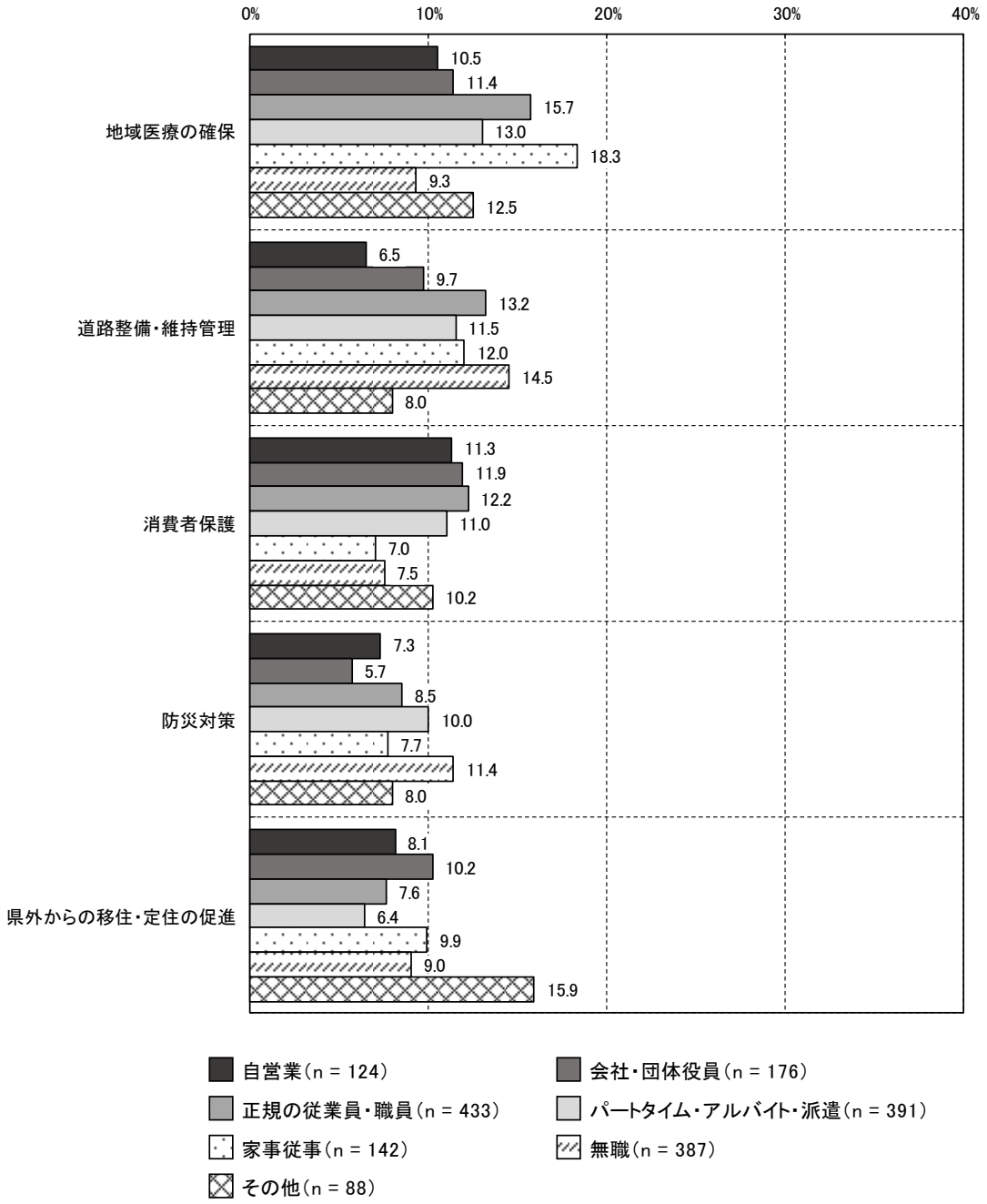
職業別（図 10-2-6）でみると、自営業、会社・団体役員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「少子化対策」、家事従事、無職では「公共交通の充実」、正規の従業員・職員では「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）（続き）



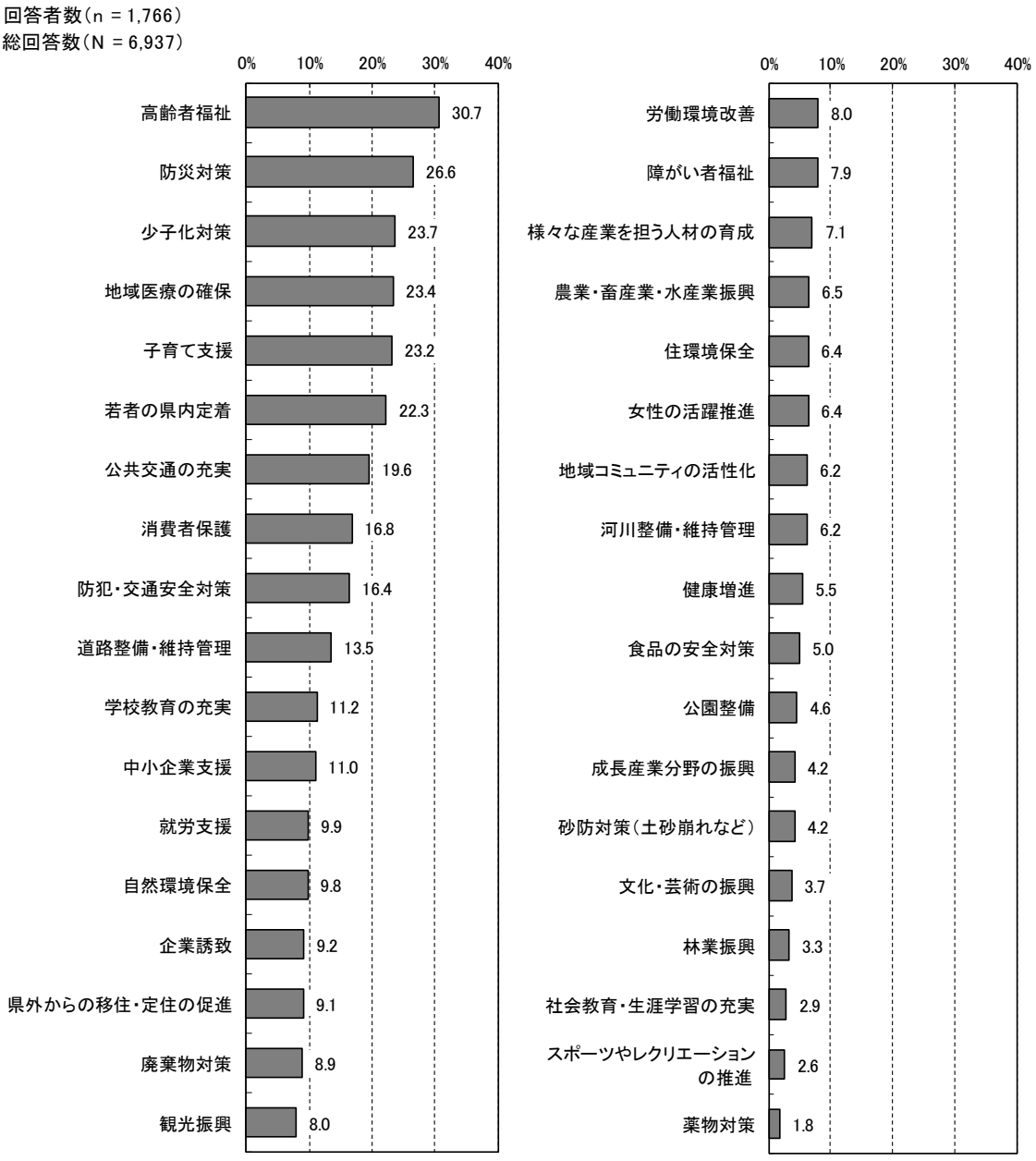
※ その他には、自由業、学生を含む。

問１１　重点的に進めるべきだと思う分野

問１１　あなたは、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。 （５つまで）

全体(図 11-1)でみると、「高齢者福祉」が 30.7%と最も高く、次いで「防災対策」(26.6%)、「少子化対策」（23.7%）の順となっている。

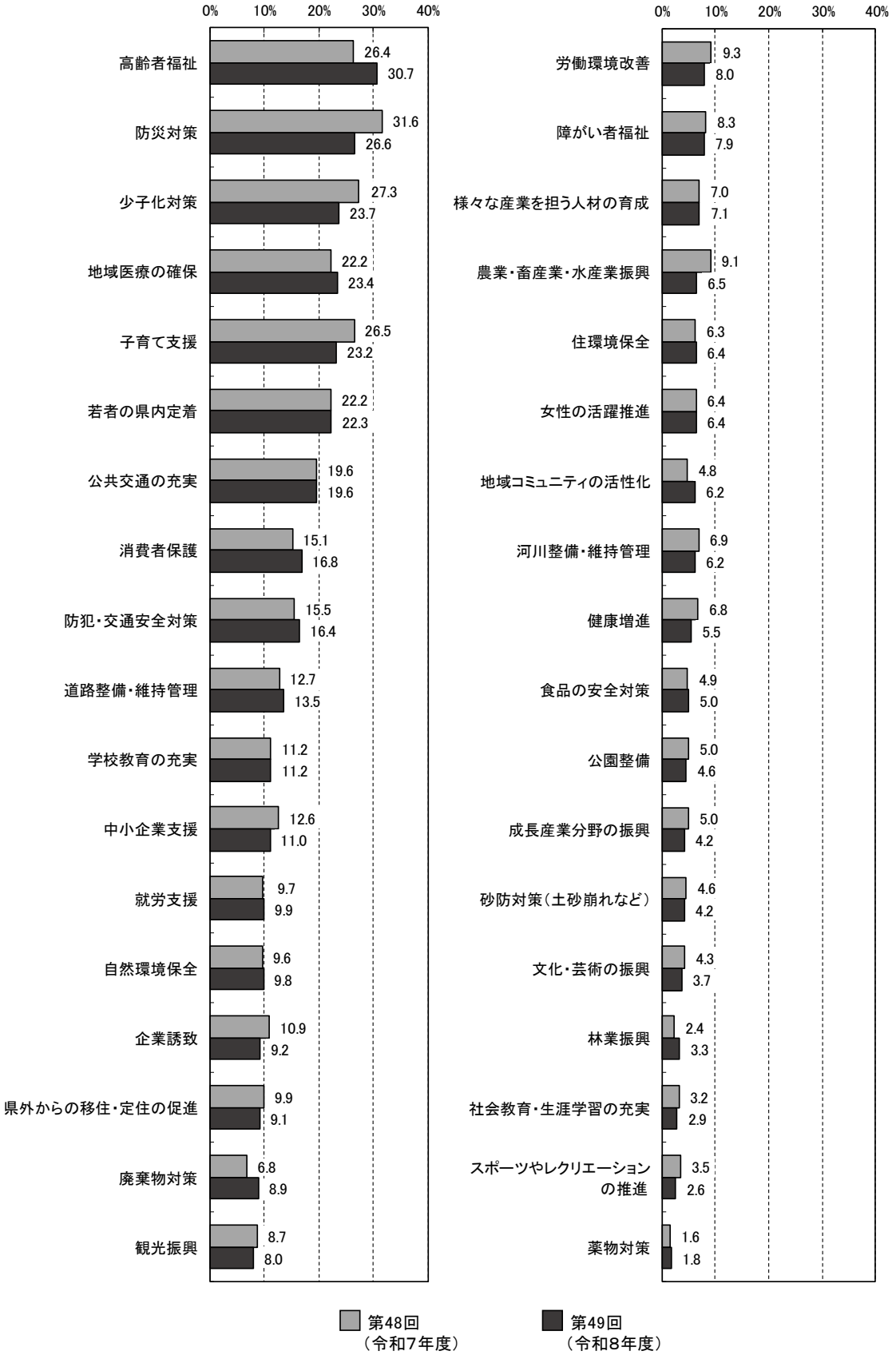
図 11-1　重点的に進めるべきだと思う分野



※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全:騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

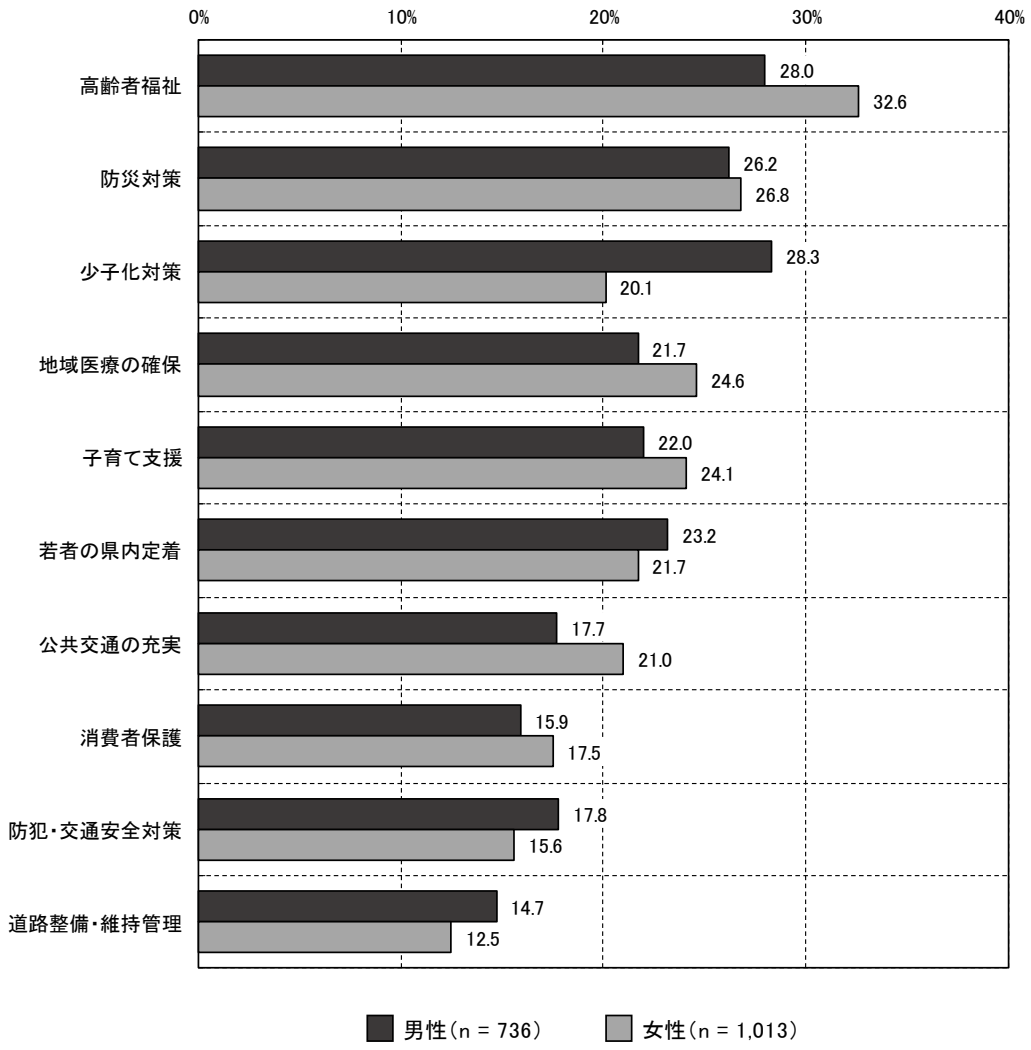
前回比較（図 11-2）でみると、前回第 4 位の「高齢者福祉」が最も高くなり、前回第 1 位の「防災対策」は第 2 位となっている。

図 11-2 【前回比較】重点的に進めるべきだと思う分野



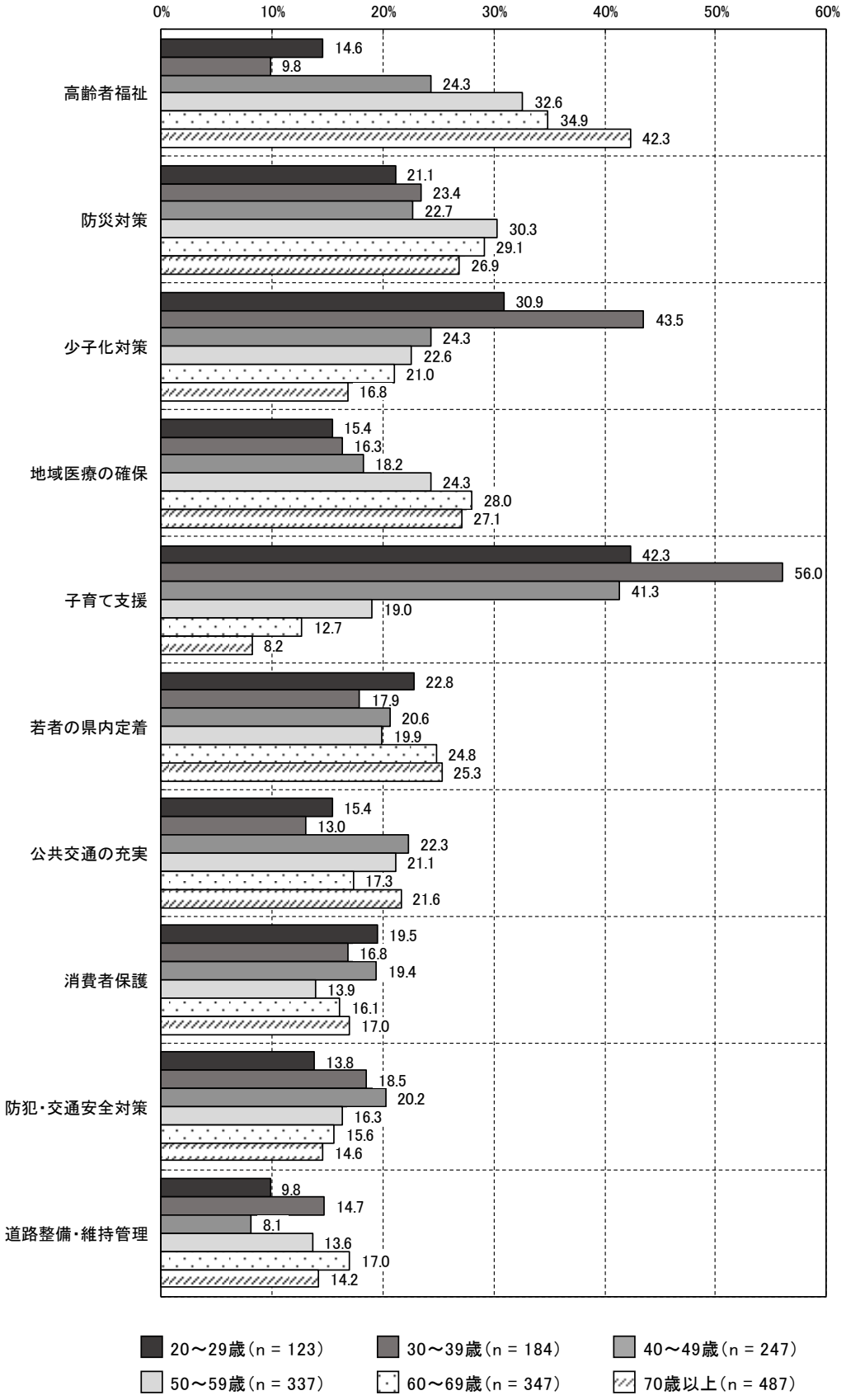
性別（図 11-3）でみると、男性では「少子化対策」（28.3%）が最も高く、女性では「高齢者福祉」（32.6%）が最も高くなっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



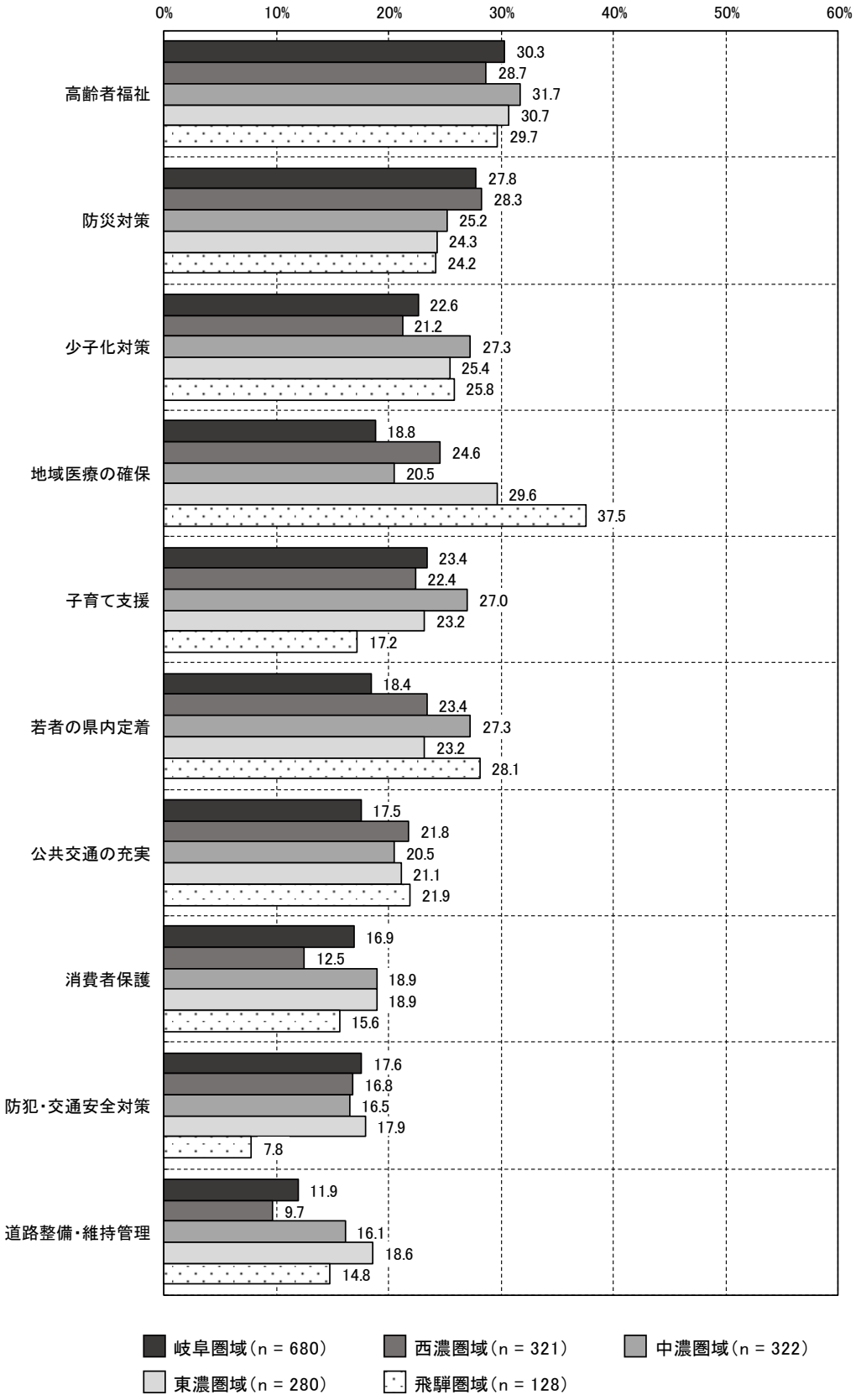
年代別（図 11-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「子育て支援」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



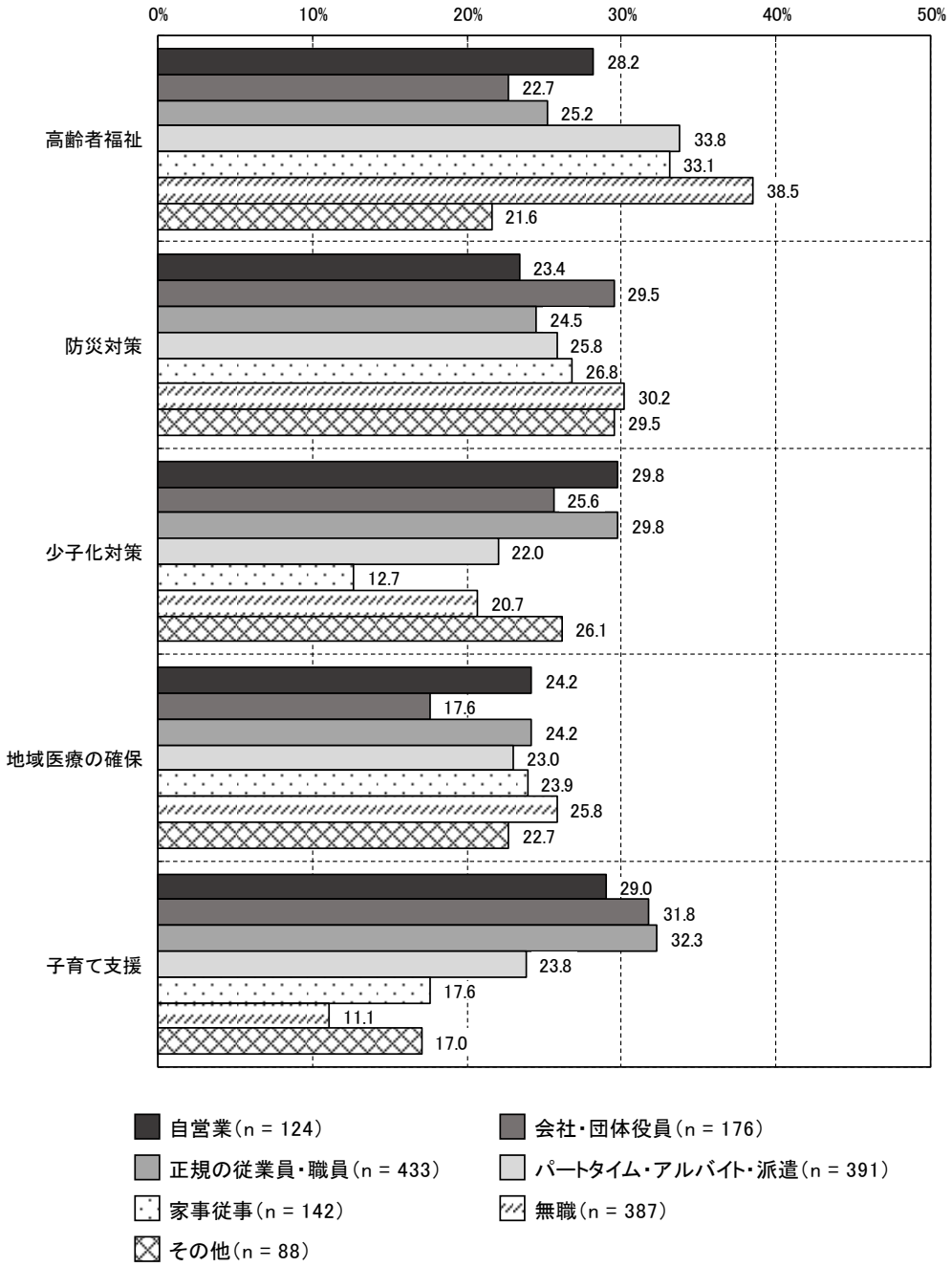
居住圏域別（図 11-5）でみると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「高齢者福祉」が最も高く、飛騨圏域では「地域医療の確保」が最も高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



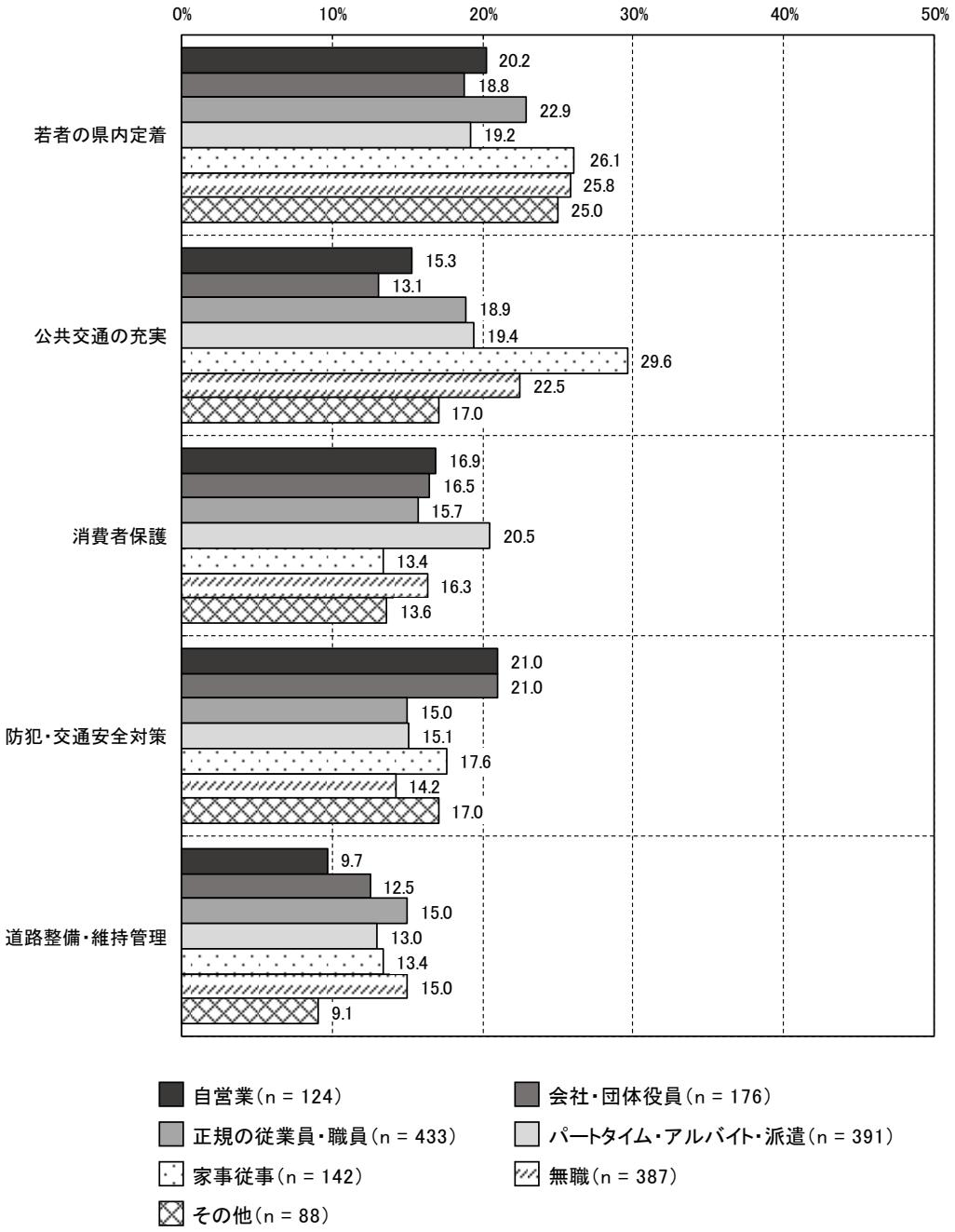
職業別（図 11-6）でみると、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事、無職では「高齢者福祉」、その他では「防災対策」、自営業では「少子化対策」、会社・団体役員、正規の従業員・職員では「子育て支援」がそれぞれ最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野 （続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。